

対馬市文化財調査報告書 第10集

きゆう かね いし じよう てい えん  
**旧金石城庭園**

金石城跡保存整備事業に伴う範囲確認調査報告書（遺物写真編）

きゆう かね いし じょう てい えん  
**旧金石城庭園**

金石城跡保存整備事業に伴う範囲確認調査報告書（遺物写真編）

2016

対馬市教育委員会

## 序 文

「心字池」が発掘調査を経て整備が完了し、旧金石城庭園として国から名勝に指定を受け10年目になりました。後世の改変を受けて埋没していた庭園も、現在は往時の姿を取り戻し、皆様に親しんでいただいております。

旧金石城庭園は文化財庭園としての価値もさることながら、出土した遺物の資料的価値にも目を見張るものがあります。

種々の遺物からは対馬の歴史と交流の様相が浮かび上がります。

遺構については先に刊行した報告書で解説いたしました。今回は遺物について概要をご報告させていただきます。遺構と遺物から成り立つ遺跡の実体が、この報告書の刊行で、また少し明らかになるでしょう。なるべく多くの遺物を紹介できるよう、今回は写真にてのご報告となりました。実測図や分析については稿を改めて、より詳細な情報が提示されることになります。

文化財は、その立地する郷土の社会的背景や変遷を明らかにし、成り立ちを知るための貴重な手掛かりです。郷土に暮らす私たち自身と、私たちの先祖の姿を詳しくし、私たち自身が知るための重要な鍵です。

私たちはこの文化財を永く子や孫、後世に引き継いでいく責任を負っています。郷土を知り、深く親愛の情を抱き、誇りの醸成に繋がる貴重な財産として、守り伝えていく所存です。

今後、この報告書が、対馬の歴史研究と文化財の保存に寄与する資料となれば望外の幸せです。

平成28年3月31日

対馬市教育委員会

教育長 梅野正博

## 例　　言

- 1 本書は、国宝重要文化財等保存整備費補助金を受けて平成9年度から平成16年度まで実施した、史跡清水山城跡ほか史跡等・登録記念物保存修理事業に伴う旧金石城庭園範囲確認調査で出土した遺物に係る報告書の写真図版編である。
- 2 本書は対馬市教育委員会文化財課副参事兼係長 尾上博一が執筆、編集した。
- 3 本書に掲載した遺物の写真は尾上が撮影した。
- 4 現場での遺物出土状況写真は尾上が撮影した。
- 5 掲載した図面は対馬市文化財報告書第6集の遺構編で使用したものと尾上が加工、編集したものである。
- 6 表2 遺物一覧表における記述のうち、陶器及び磁器の所見は、長崎県文化観光国际部世界遺産登録推進課係長 川口洋平氏からご教示いただいた。
- 7 本書関係の遺物と図面及び写真は対馬市教育委員会文化財課が保存し管理している。

## 凡　　例

- 1 挿図の方位は国土調査法による第I座標系を基準とした。磁針方位は約6°40' 西偏する。
- 2 写真図版の縮尺は任意・不統一である。

## 本文目次

第1章 本書概要	
第1節 掲載遺物	1
第2節 本書構成	1
第3節 出土状況	1
第4節 遺物番号	1
第2章 事業解説	
第1節 事業概要	3
第2節 遺跡概要	4
第1項 金石城跡	4
第2項 旧金石城庭園	4
第3節 調査概要	5
第1項 調査区	5
第2項 土層	7
第3項 遺構	8

## 挿図目次

図1 遺構全体図及びグリッド配置図 (S=1/600)	6
図2 園池遺構配置図 (S=1/150)	13~14
図3 池北西部遺構配置図 (S=1/150)	15~16
図4 池東部~南部遺構配置図 (S=1/150)	17~18

## 表目次

表1 金石城跡時期区分表	2
表2 遺物一覧表	19~23

## 写真目次

写真1~1180 遺物1~557	27~175
------------------	--------

# 第1章 本書概要

## 第1節 掲載遺物

本書は、平成9年度から平成16年度まで実施した、旧金石城庭園範囲確認調査で出土した遺物に係る報告書の写真図版編である。掲載した遺物は、平成10年度以降に出土した中から、陶器と磁器、瓦に限って抽出した。部位や原形を推定しがたい小片は対象から除外した。

## 第2節 本書構成

掲載する遺物を検出した範囲確認調査を実施する契機となった事業について、過去の経緯も含め概要を解説し、合わせて調査で得られた成果を記述する。次に遺物写真を掲載する。掲載した遺物の属性は、実測図も含め詳細な情報は稿を改めて報告することとし、本書では検出した調査年度と出土位置に限り一覧表で提示する。また、遺構全体図及びグリッド配置図と各遺構配置図を掲載する。加えて遺跡の年代観の参考となるよう、範囲確認報告書の遺構編で整理した時期区分を表で掲載する。

## 第3節 出土状況

遺物は、ほぼ全てが遺構面上部の堆積土から出土した。遺構構築時の造成土や遺構内部からの出土はほとんどない。遺構の上に堆積する土は近現代に埋め立てられ、以降に学校や公園に関する工事などで頻繁に攪乱を受けている。そのため、現代以前の各時代に属する遺物が同一の土層中に混在する。こうした遺物の包含様相は、昭和57年度や平成4年度の発掘調査でも確認されている。埋め立て土や攪乱を受けた土から大半が出土しているため、遺構の平面的な位置は、遺物の性格を解析する手立てとなる重要な要素とはなり得ないかもしれないが、参考として一覧表にグリッド名を記載し、遺構全体図及びグリッド配置図と各遺構配置図を掲載する。図は、範囲確認調査報告書の遺構編に掲載したもののが再録である。一覧表で、一個の遺物について出土位置を示すグリッド名を複数記述している場合がある。これは一定範囲で、出土位置を特定せず、一括して掘削土から取り上げた状況を示す。不明と記述してある場合、またはグリッド名の記述がない場合は、出土位置や範囲が特定されない状況を示す。

## 第4節 遺物番号

写真の遺物に付けた番号は、本書作成に際して設定したものである。遺物を検出した調査の実施年度が古いものから順に番号を振った。親番が遺物個々の番号で、枝番は撮影の構図ごとの番号である。

表1 金石城跡時期区分表

時期区分	西暦	事象	和暦	朝鮮通信使
K I期	a 734	鳴分寺建立 地震	天平6年甲戌	
	857	鳴分寺炎上 地震	正嘉元年丁巳春	
	b 1257	鳴分寺仮建		
	1267	地震	宝徳元年己巳夏	
	1449	中村屋形造営		
	c 1468	国分寺落慶 池の屋形造営	大永6年	
K II期	1528	金石屋形建設 池の屋形炎上	享禄元年	
	a 1645	対州大風	正保2年乙酉7月29日夜	1607 1617 1624 1636 1643 1655
	1659	大火 1078軒焼失	万治2年	
	1660	棧原屋形(府中城)造営起工	万治3年3月3日	
	1660	お船江築造	万治3年	
	1661	大火(中須賀町) 715戸焼失	寛文元年	
	1662	屋敷割り基準制定 町割再編成	寛文2年	
	b 1667	城櫓普請着工	寛文7年	
	1669	城郭整備・金石城築城	寛文9年	
	1671	港湾・矢来築造 城下町区画	寛文11年	
K III期	1678	屋敷の敷地基準制定	延宝6年	
	1679	棧原城築城	延宝7年	
	1681	屋敷前に三尺宛ての溝を造る	延宝9年	1682
	1687	宗家本成立か		
	c 1690	旧金石城庭園造園着工		
	1693	旧金石城庭園造園完成		
	1700	地震/対州大地震 4月2日まで断続的発生	元禄13年2月26日卯刻	
d 1706	1706	大風	宝永3年8月15日夜~朝	1711 1719 1748 1764
	1792	地震	寛政4年12月2日雨天	
	1806	城内・領内整備着工		
K III期	1807	城内・領内整備完成		
	1811	文化年間図・伊藤図・草場図成立		1811
	1922	対馬産業講習所建造		
K III期	1936	対馬産業講習所廃絶		
	1947	旧戸原中学校設立		
	1979	校舎移転		
	1985	新校舎落成、移転完了		

## 第2章 事業解説

### 第1節 事業概要

昭和63(1988)年に専門家、文化庁、県、町による「文化財ゾーン懇談会」が開催された。当会により金石城跡は対馬藩主宗家墓所、清水山城跡とともに、その整備、保存活用の方針と方法が明確化され、具体的な計画が立てられた。平成3(1991)年3月に戸原町は「第3次戸原町総合計画」を取りまとめたが、その中の「日本の伝統文化を大事にするまち(地域の個性と魅力の形成)」は懇談会で検討した史跡整備構想を前提としたもので、以後3史跡を含む町内の文化財を基にしたまちづくりを推進することになる。

平成元年12月から同2年10月に掛けて、町は「自ら考え自ら実践する地域づくり(ふるさと創生1億円)」事業で櫓門を復元したが、これを引き継いで地域総合整備事業費の適用を受け「地域づくり推進事業」を平成2年度から平成4年度までの3カ年に渡って実施した。この事業で「自然と歴史を活かしたまちづくり」を目標に計画した3事業の中の一つが「城下町戸原拠点整備事業」である。事業に基づき公園工事を行うなか、平成4年2月に城北西部の櫓跡で石敷きが発見された。遺構を発見したことで、町教育委員会は7月1日~12日と8月24日~9月2日に緊急発掘調査を実施した。結果、櫓跡と石敷き、石垣が遺存することが明らかになった。一方で平成3年7月に金石城跡周辺整備計画案を長崎県文化課に提出するなど遺跡の整備計画を進めた。

町は平成7年3月には重点的施策として「戸原町『夢づくり構想』」を取りまとめ、「対馬藩主宗家墓所等周辺整備事業」を掲げて具体的な史跡群の保存修理・整備・活用計画を策定した。同時に「地域振興戦略プロジェクト」も掲げ、史跡に隣接する既存の郷土館や利用地を活かした対馬歴史博物館整備も併せて取り組むべき課題として目標を設定した。平成4年度に国宝重要文化財等保存整備費補助金を受け、万松院が「対馬藩主宗家墓所保存修理事業」を実施し、山門の解体修理(第1期)に着手した。平成5年度からは戸原町が事業主体となり、「対馬藩主宗家墓所外保存修理事業」と名を変え、解体修理を継続した。同時に事業において対馬藩主宗家墓所等保存整備委員会を設置し、金石城跡、清水山城跡を含む3史跡を対象とした整備のための具体的な検討を開始する。

平成5年9月に開催された第1回委員会で金石城跡については庭園を中心として全体を整備していく方向性が明確化され、3月の第2回委員会で整備に向けた発掘調査の方針が定められた。整備委員会等での協議を経て、各史跡の整備は相互の関連性の深さから、周辺環境を含めて一体的に進めるよう包括した一事業として整理され、平成6年度に「史跡清水山城跡ほか保存修理事業」の名称で新たな出発を遂げた。ここに整備基本計画の策定と保存修理工事の実施が始まり、平成8年3月に史跡対馬藩主宗家墓所等保存整備基本計画書を刊行して整備の方針と計画を明示した。また町は史跡整備事業の開始に向けて国と県の指導の下に金石城跡の国指定史跡化作業を進め、平成7年3月28日に晴れて指定を受けた。

金石城跡「心字池」の範囲確認調査は平成9年度に開始し、平成16年度まで継続した。平成11年度から同13年度まで土砂掘削など埋め立て土の除去により整備の予備工事に取りかかり、14年度から景石据え直しや水路の保存修理といった本格的な整備を開始した。植栽及び園路舗装、学習施設整備などを平成19年度まで実施し翌20年度から供用開始となった。なお主幹事業は平成20年度から3史跡が分

離して「史跡「金石城跡」史跡等・登録記念物・歴史の道保存整備事業」となった。平成18年5月1日に設置された文化財課は、発掘調査当初から構想されていた「心字池」の名勝指定について準備を進め、7月5日付けで具申書を提出した。11月17日に文化審議会は答申を行い、平成19年2月6日に「心字池」は「旧金石城庭園」として名勝に指定された。

## 第2節 遺跡概要

### 第1項 金石城跡

この地に居館が置かれたのは16世紀のこと、発端は享禄元（1528）年に起きた一族の内紛であった。当時の居館であった池の屋形を焼失し、金石原の地に難を逃れた14代宗盛賢（のちの将盛）が新たに建てたのが金石屋形である。

ここが体裁を整え、城となったのは、17世紀後半のことであった。将盛が屋形を築いてから130年ほどのち、第3代藩主宗義真（じゆまこと）の治世において城下に大火が相次いだ。ことに万治2（1659）年と寛文元（1661）年に起きた大火はすさまじく、町に甚大な被害を与えた。義真は幕府の援助を受けながら再興を期して大規模な町の整備に取り組み、好況の倭館貿易にも支えられて金石屋形の拡張と改修も行った。国分寺を金石原から現在地の日吉に移して、城壁を整え櫓を建て、現在の城の体裁が完成した。こうして寛文5～9（1669）年ごろにかけて整備された屋形は金石城と称され、対馬治世の拠点となつた。なお、その後、義真は延宝6（1678）年に桟原に居館を造って住まいを移し、幕末に至つた。

文化8（1811）年に易地聘礼で朝鮮通信使が来島した際には、幕府上使の宿館として用いられた。そのため新たに各種施設を多く建築しているが、詳細な城内の様子を描いた絵図が対馬宗家関係資料に残されている。

### 第2項 旧金石城庭園（心字池）

作庭年代は明確ではないが、宗家文書の「毎日記」から作庭記録と推定される記事が発見されている。記事に拠れば元禄2（1689）年に中庭茂三は以蔵庵に庭と池の構築を申しつけられているが、翌3年3月の日記に、今度は「御城」の庭園工事を仰せつけられたと記されている。藩では古くから「御城」は金石城を、「御屋敷」は桟原の屋形を意味し、毎日記にも区別して用いられていることから、この庭は金石城跡における庭園を示しているのではないかと推定されている。また、6年6月の記録から作庭はこの時期に完了したとも見られており、庭園の成立時期は元禄3年から同6年頃と考える。

金石城跡を描いた絵図は複数確認されている。対馬藩は文化3（1806）年から文化4年に朝鮮通信使を迎えるための城内整備を行ったが、草場珮川が記した「津島日記」（1811）に掲載された「金石故城 上使小倉候旅館図」（以下、草場図）はその朝鮮通信使来島時の金石城内の建物群を描いた平面図である。また、長崎県立対馬歴史民俗資料館が所蔵する宗家文庫史料に文化年間に作成されたという、これと同種の城内の建物配置図「金石城絵図」（以下、文化年間図）も残されている。そのほか伊藤根光所蔵の「小笠原様御旅館図（文化八年幕府上使客館図）」（1811）（以下、伊藤図）にも城内の建物群の様子が描かれる。さらに、宗家文庫史料にはほかに長節子が作成時期を1687年から1811年の間に位置づける（長節子 1985）「清水山城及び金石城絵図」がある（以下、宗家本）。これらの

絵図のうち、文化年間図と伊藤図に「泉水跡」として旧金石城庭園が描かれている。昭和3年に稻作実習田の灌漑用水確保のために対馬藩主宗家墓所に水路を敷設したが、この工事状況を描いた実測図にも金石城内に池の描写がある。

## 第3節 調査概要

### 第1項 調査区

調査区全体を覆うように、国土座標に沿った直交する縦横軸で5m間隔の升目を設定した。便宜的に東西方向のx座標軸を横軸とし、y座標軸を縦軸とする。5m間隔の横軸にそれぞれ北から南に向けてAからQまでのアルファベットを振り、縦軸に西から東に向けて10から30までの数字を振った。この升目を「グリッド」と称する。略号は「Gr」。グリッドを設定する際の基準点はT1～T5を基準としている。グリッドの交点はアルファベットの次に数字を付けて呼称する。同時に基準点の意味で「ポイント」と呼び略号を「Pt」とする。各ポイントは「Pt」を末尾に付けて記述する。すなわちA軸と10軸の交点は「A10Pt」である。1グリッドは四隅にPtがあるが、このうち北西部をその名称とする。A軸とB軸、10軸と11軸の交点は北西部から時計回りに「A10Pt」、「A11Pt」、「B11Pt」、「B10Pt」であるが、この4点で作られるグリッドが「A10」であり、末尾に「区」を付けて「A10区」と呼ぶ。縦軸に囚われず広く東西に広がる範囲を示す場合は「A区」や「B区」と表現する。同様に南北に広がる範囲を「1区」や「2区」と表現する。調査ではこのグリッドを基準としてトレントを設定した。トレントの略号は「Tr」。調査年度の数にハイフンで番号を接ぎ、略号に冠して記述する。たとえば平成13年度調査の第2トレントは「H13-2Tr」など。

調査地は大きく三つに区分し、貯水部を中心とする一帯を「園池」、園池から立ち上がった縁辺部を「園池縁辺」、庭園の外側を「周辺」とする。ただし、園池を略し単に「池」と書く場合もある。また、各地区内の部分は方位によって「池北部」や「池南部」と表現し、より限定した範囲については「池東端」や「池西端」のように呼称する。ほかに個別の遺構名称や庭園の構成属性も併用して記述する。

調査以前から調査地に景石らしきものは見えていたが、園池の位置や範囲、周囲の関連遺構については不明だった。文化年間に作成されたという県立対馬歴史民俗資料館所蔵の金石城絵図に園池が表現されていたので、大まかな位置と形状はこれを参考とし景石と思われる遺構で現地の目処を付けた。まず、トレントで遺構の有無と覆土を調べ、時期の判別を行った。次に、判明した遺構の位置と遺存深度を基準に面的に調査範囲を広げ、園池の範囲を探査した。調査地は近現代の造成土が厚く堆積していたので、人力で精査しながら油圧ショベルで掘削して排出し遺構検出を目指した。

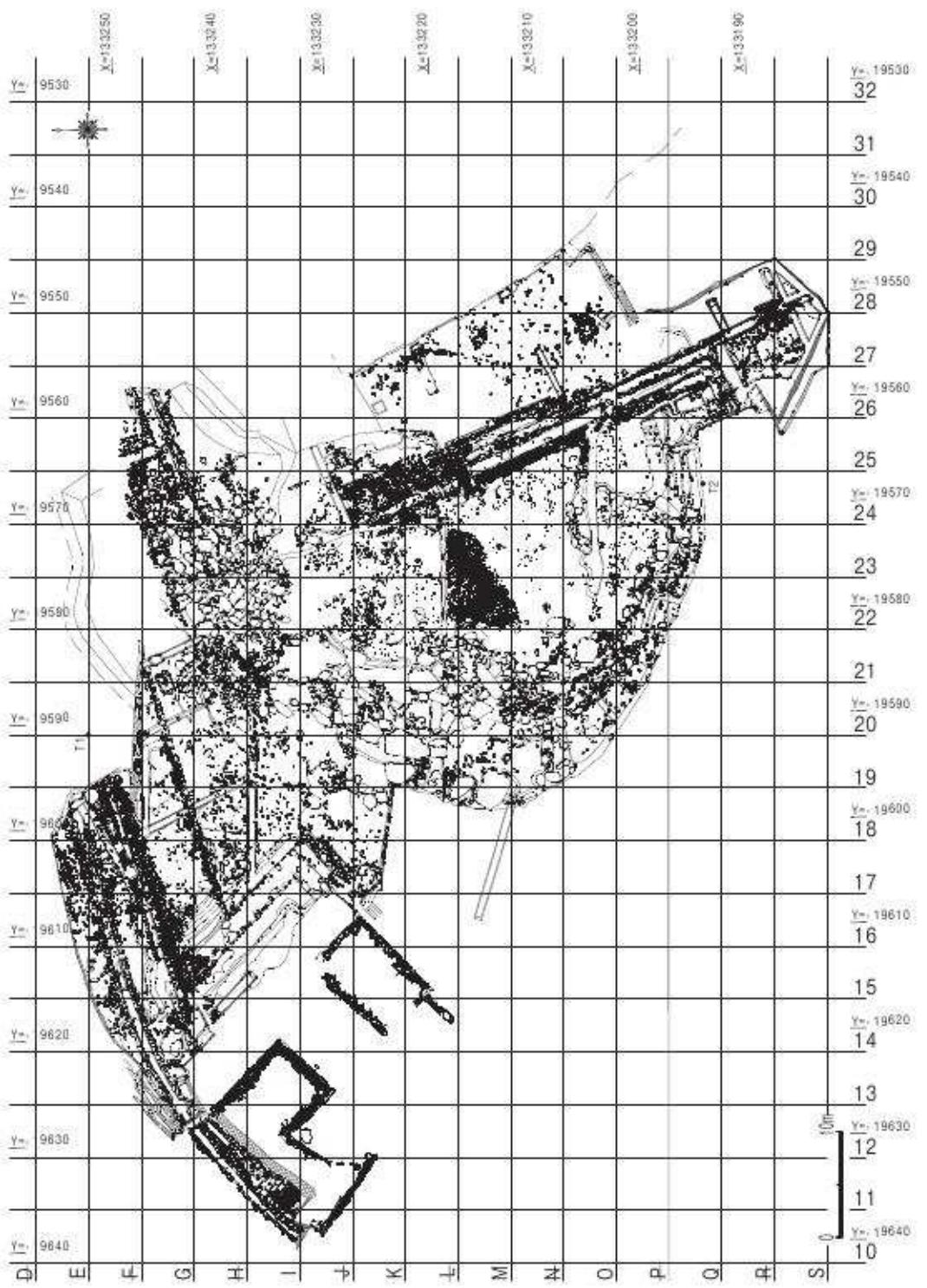


図1 遺構全体図及びグリッド配置図 (S=1/600)

## 第2項 土層

### 1 概要

調査対象地は広く、全域が共通した土層堆積状況ではない。園池部分と外園部との相違だけでなく、外園部でも場所によって様相は異なる。しかし、横断的に各所の土層を対照していくと大まかに次のような基本層序が得られる。最上層は現表土、第2層が平成公園化時造成土層、第3層が中学校期造成土層、第4層が産業講習所期造成土層、第5層が礫層、第6層が白茶色土層、第7層が黄色土層、最下の第8層が地山層である。つまり1から3番目までが現代の造成層、4から5番目が近代の造成層で、近世以前の造成土及び堆積層は6番目以下である。遺構はこの6番目から7番目までの間に存在する。

### 2 園池

対馬宗家関係資料にある金石城内を描いた絵図と、口伝、貯水部、景石らしき大石からおよその位置と形状を想定して発掘を開始した。まず敷地を東西南北に縦横断する2方向のトレンチを設定し、表土以下の土層と遺構の存否を調べた。園池と景石の存在を確認後、構造を明らかにするために底と思われる層を抜いて下層を調査した。池底は版築で造成した基盤に玉石を敷き詰めていた。平成9年度に園池の大まかな土層を確認し、次年度以降に詳細に層序と時期、性格を検討していった。土層は総じて不整で、最下層は小さな礫からなる無遺物層である。上に中世の遺物包含層が乗る。この層は下位に灰釉陶器と土師器を含む土質・土色が異なる層がある。底部は中世の遺物包含層を掘り込んで造っており、いわゆる「赤土」と石英斑岩の風化土（粉砕土）で巖原で言う「白土（はくど）」を相互に叩き締めて築いた版築構造である。

### 3 園池縁辺

H14-1Trで表土下約80cm（標高約12.0m）におよそ50cmの厚さで堆積する赤土の層（4層）を検出した。下に厚さ約10cmのにぶい黄褐色土層（5層）を挟み、褐色土層面（6層）を検出した。4層は近世の池造築に伴う造成土、6層上面は櫓門枡形の石垣の下底部にレベルが合致することから当該期の遺構面と考える。つまり、櫓門築造時の地表を埋め立てて池の外縁を造ったのであろう。

### 4 池南部～西部

池の西岸で平成12年度に発見した石列は、付近の石群と同じく大半が昭和年間の設置物だと分かった。しかし、石列の裏にトレンチを入れて背後を観察したところ、N21区で池底に敷かれているものと良く似た赤土が土層断面に確認できた。さらに、M19～21区に東西トレンチを設定し、断面観察を行ったところ、角礫層の上に乗る黄褐色土層上面が近世当時の遺構面である可能性が高いことが判明した。現表土は黒色土で黄褐色土はその下層に位置する。上面は攪乱を受けているが、比較的高位まで当時の造成土は保存されている。

### 5 周辺

近代以降、度重なる造成が繰り返されており、園池の周辺は攪乱と埋め立ての痕跡が全域で見られた。表土下には中学校運営時の埋土が広範囲に堆積し、その下には産業講習所時を含む近代の埋土が堆積していた。この直下に近世の遺構面が広がる。

### 第3項 遺構

#### 1 貯水部

かつて心字池があったとされる場所は、産業講習所や戦原中学校に伴う施設の建造で搅乱され、廃棄物で埋没していた。池の底部はトレンチの土層断面の観察によって、凹状地形の下底面に赤褐色と白色の粘質土を交互に重ねた版築構造があることが明らかになった。貯水部には青灰色～暗青灰色粘質土が堆積していた。この粘質土は、包含遺物から近世以降に堆積したものと考えられる。表出期間が長かったために貯水部には水性堆積土が継続して形成され、結果として近世から近現代までの遺物が混在することになったのだろう。近世の遺物が少ないのは浚渫が定期的に実施されていたためか。堆積土は複数の分層が可能で、各層の底面には玉砂利が面的に広がっており、徐々に貯水部の底が上昇していく様が窺える。確認した貯水部は頭を北に尻尾が南西に流れるオタマジャクシ状で、汀線は文化年間図の表現と良く合致する。不整円形の貯水部はH～L区の21～23区に広がり、J22Pt一円が盛り上がって中島を造る。景石を配する縁辺の陸地は、赤褐色土の版築に玉砂利を敷き詰めた底面が中央から離れるにつれて徐々に立ち上がり、角礫層及び黄褐色土層で構成される陸地に至る。

#### 2 中島

I・J21～22区で検出した。ごく緩やかな小山で、皿を伏せたような外観の島状遺構である。やや不整な円形で直径約4m、高さは池底から約40cm。池底を構築する際に一部を盛り上げて造ったと見られる。表面には池底と同じく玉砂利が敷き詰めてあった。

#### 3 出島

KL20・21区で検出した。文化年間図では張り出した陸地として表現されている。調査では、遺構の西側の張り出した陸地の付け根に当たるK20区で、南北に走る溝状遺構を検出した。これはH9-3f層上層の2b層を削り込んだものである。遺構の中には近現代の遺物を含んだ暗青灰色の水性堆積土がある。池が造られた当初は連続して2b層があり、後世の浚渫作業などの際に削られた可能性があるが、当初においても現況ほどではないにしろ溝状を呈していたようである。つまり、KL20・21区はL21区に渡された石橋で繋がった中島状の遺構であったと言える。

#### 4 池底

池底は厚さ50cm前後で粘質土の版築構造。上からHue5YR5/8明赤褐色土、Hue2.5YR7/8黄色土、Hue2.5GY4/1暗オリーブ灰色土、Hue2.5YR8/2灰白色土、Hue2.5GY5/1オリーブ灰色土を重ね非常に強く叩き締める。厚さはほぼ均一だが池底が立ち上がる縁の部分は薄い。表面には5～10cm程度の玉砂利を敷き詰める。オタマジャクシの尻尾にあたる、N22区で版築の断面を観察したところ、黒灰色土の上に白色土を乗せ赤褐色土を敷いていることが分かった。部分的に白色土がない箇所もある。園池はH9-2Tr北壁土層から、地山のH9-5層を掘り込み、H9-4層で充填し水路3上をH9-2c層で覆いさらにH9-3d層で端部を形成したと考える。

#### 5 池南部～西部

M20、N20・21区で中学校時代の石垣を除去し、埋土を掘り下げた結果、特にM21(20)区で明瞭に池底部に使用される赤土と、上に立ち上がる茶褐色土を確認した。同時に行った遺構面の検出作業で石列の一部が出土した。出土したM20区の石は板状で、平面を池内部に向け茶褐色土に立てられている。板状石からさらに塊状の石で護岸を形成しながら石列は伸び、K20・21、L20・21区の出島

へと渡る石橋に続く。調査を進めた結果、池西南部の護岸であることが明らかになった。護岸は黄褐色土で造成され池底から急角度で3～4m外へ立ち上がる。斜面には大小の石を汀線前後に並べて造っている。護岸はK20・21区、L20・21区の出島から、緩やかな曲線でO・P23～24区まで続く。O・P23～24区は池の端部に当たり、ここからN24区まで北に伸びた列石で貯水部を閉ざしている。また、N20～O21に掛けて並ぶ護岸は、同一レベルに平面幅1m前後の板石を面を揃えて使った約5mの石列で構成している。石列の背後は金石川の城壁に向かって緩やかに高くなる平坦地で、池北部まで続く。

#### 6 池西部～北部

搦手門から庭園の北部を巡る通路に該当する。文化年間図に描かれた鍵形遺構の一部である石垣と、埋め甕1、飛び石遺構などを検出した。

石垣1はG16～18区、F18～21区で検出した南西～北東方向の石垣で、平成4年度に出土した鍵形遺構から連続する一連の遺構。南面し、鍵形遺構から61°の角度を持って城内に折れる石垣を端部とし、北西に伸びる。水路1南壁石垣と平行する。最下にある石材の底部から30cmの高さまで奥行きおよそ55cmの規模で玉砂利を込めていた。石材側に斜辺を持つ直角3角形で、玉砂利と石垣石材の間に隙間があり、隙間には疊混じりの土を埋めている。本来あった上部を若干飛ばされている可能性がある。切り合い関係を観察すると、石垣1は本来櫓門に伴う遺構であったようである。石垣1と水路1南壁は対応し、幅22尺5寸の用地をなしていたと考える。検出面には建築物の痕跡を示す遺構は検出されていないが、面積が広く、建物が建つ用地であった可能性はある。

石組み耕はF20・21区で検出した。板石を立てて壁を造り、底は全面板石貼りで側面とともに目地にアマカワ貼りを施している。産業講習所時代のものか。

G17区では埋め甕1とそれに伴う飛び石状遺構を検出した。遺構は石垣1の前にある。飛び石は3枚の板石を並たもので、40×40cm以下の規模のものを使っている。3枚がほぼ東西に約30cmの間隔で弧を描き、西端の石から50cm先に甕が埋設されている。飛び石の周辺には5cm前後の玉砂利が広く撒かれている。玉砂利層中には近代以降に属するガラス片等が混じるが、後世の埋め立て土からの混じり込みと埋め立て時の搅乱によるものであろう。池の造成時に敷かれていた玉砂利の層厚は10cmほどであったと考えるが、正確な厚さは不明である。埋め甕1周辺は飛び石周辺よりもさらに細かい砂利を敷く。1cm程度で丸みがある。埋め甕1を中心に半径1mの範囲に分布する。埋め甕1の北には石垣1と平行して幅20cm長さ170cmの細い溝が走る。埋め甕1内部はシルト質土が詰まっていた。粘性は低いが水分が多くややべたつく。底部は特に水分含有が多く、密だが固くはない。上面から底まで色調変化はなく10YR4/3にぶい黄褐色。口縁からマイナス38cmで瓦片が出土した。口縁から底面まで70cm。

石垣3はH19区でH14-1Trの掘り下げに伴い出土した。確認長180cmである。出土長は180cm程度だが、推定される延長方向は石垣1と平行する。出土層位から見ると池造成以前の遺構で石垣1と同時期と思われる。石垣1、ひいては鍵形遺構に関係の深い施設を想定しておく。

H18区で1辺30cm以下の板石を複数を並べるように敷いた板石敷き群を確認した。石垣の根石と言うより埋め甕1に伴う飛び石と様子が近似する。時期は出土状況から池と同時期と見て良いだろう。

J18～19区で景石を検出した。水性堆積岩を立てたもので南方の景石と一連のものとして据えられ

たものと見られる。景石とはやや性格を異にすると思われるが、F20、G20・21区に長さ2.4～3mの板石を数石と中型の礫を用いて池からの立ち上がりを形づくっている。

## 7 池北部～北東部

池の北岸を形づくる岩盤と雑壇状列石群を検出し、昭和57年度に出土した石垣遺構を再検出した。この結果、文化年間図に描かれた金石屋形築造時の遺構と判断されている建物遺構と、心字池との位置関係が把握できることになった。また、当時出土した側溝6は、絵図の通り心字池に繋がる水路であったことが明らかになった。

F25・26区で昭和57年度出土の側溝6を再検出した。また、この南側、つまり池東岸で東に向かって高く傾斜する粘土を検出した。粘土の傾斜構造は玉砂利の混在する青灰色水性堆積土の下で見つかり、ほぼ恒常に水面下にあった部分であることが分かる。検出状況や傾斜構造から見て、池の東岸と言えよう。ただし、東岸の陸地部分は上方にガラス片など近現代の遺物を含む茶褐色土が堆積しており、大正期の産業講習所建設によって改変を受けている可能性が高い。

GH20・21区で30～60cm四方程度の塊状石からなる雑壇状列石群を検出した。園池に対し内向きに弧を描く。最大8mまでのやや不整な列が2段から3段に高低差を持って雑壇状に配置される。

I20で階段状景石を検出した。石は泥岩・砂岩のホルンフェルスで、平坦面は2×1m内外である。

## 8 池東部

平成10年度にI24～25区で東西方向の石垣と途中から90°南に折れる南北方向の石垣を2列検出した。東西方向の石垣を石垣5、南北方向2列の石垣のうち東側が石垣6、西側が石垣7。石垣7はI24区南半からJ25区東半に掛けて遺存する。石垣6は、本来I25区南半からJ25区北半に掛けて築かれていたと思われるが、I25区南半のみが遺存する。石垣7の北半が7a、南半が7b。石垣6,7と直交してJ25区に出土した北面の石垣が石垣8。I・J24区で出土した水路のうち、暗渠水路が水路3、開渠水路が水路4である。水路3の暗渠構造部の南で水路4との境界となり南に面する石垣が石垣9である。水路3,4の東に平行して築かれた石垣が石垣10a、K25Ptの西で石垣10aの北端と並ぶ石垣が石垣11、石垣6から7尺北に同一直線上に乗る石列が石垣15である。I～M25～28区に水路と直交するよう設定したH14・2～4TRで江戸期の遺構面を確認した。J25～27、K25～27、L25～28、M26～28、N26～28、O26～27区で心字池造営時の遺構面を確認した。井戸1や石垣12の天端とおよそ同一レベルである。

J～O24～26区に伸びる暗渠部と開渠部で構成される石垣造りの水路3、4を検出した。水路3は幅約90cmで内部は角のある大小の石が充填されていた。南端が板石で蓋をした暗渠部で、幅50cm、長さ3.5m。内部は前後の水路内とは異なり、水成堆積による粘質土が一杯に堆積していた。床は小石混じりの砂と土からなり、非常に固く締まる。東壁石垣はJ24Ptに角石があり、ここで直角に東へ折れてI24～25区の石垣5に続く。水路3は既存の東壁石垣を利用し、西側に新たな石垣を構築して水路に改変した遺構と考える。東壁石垣から石垣5に折れる角の南に検出した版築構造の小山は、赤土と黄色土を交互に重ねたもので、池底から東へ、J24区の水路3東壁石垣を切って上方に向かう。

水路4は幅1.1m、床は水路3と同様に非常に固く締まった小石混じりの砂と土からなる。南端は東西方向の鏡石積みの石垣17aに突き当たる。石垣17aで閉塞し排出口は開いていない。東西側壁は石垣17aに突き当たっており石垣17aは水路に沿って南北に築かれた石垣10aに突き当たっている。

石垣5は水路3の北端から東に折れる北面する東西方向の石垣で、検出部の中央が途切れ、下位の石積みだけが残る。途切れた中央で石垣6と石垣7に接続する。

石垣6,7は石垣5の中央部から直角に南に折れる石垣で、対面し石垣5を南北に抜ける通路状の形態となる。石垣6が西面する石垣で長さ2.4m、石垣7は4.9mである。石垣7は本来一連の石垣だが北から2.4m付近で1mほど途切れており、ここから石垣13が西に伸びることが分かった。北側が石垣7a、南側を石垣7b。石垣6,7とも裾が広がるように若干傾斜している。石垣5や石垣13とともに通路や建物基壇などの構造物を構成していたと考える。

石垣13はJ24区で検出した。石垣5と平行し、石垣7の半ばでかつてコンクリ製水路があった場所から西に90°折れる。石垣5,7とともに方形の基壇状の遺構を構成していたと考えられる。

石垣10,16は水路3,4に平行する石垣。K24区からP27区まで続く。北端の水路3暗渠部から北は上部が遺存せず、精査により埋土下から6～7石を検出したのみである。この北端で東面して南北に伸びるのが石垣16。石垣10aと面を接する。水路3東壁の上方を精査して検出した。J24区では同じ線上に小さな石が並ぶが、K24区までのよう大きな石材は検出できなかった。LM25区では、検出した最下の石以外のほぼ大半が後世の攪乱によって失われていた。南端はP27区で北面する鏡石積みの石垣17aと交差する地点だが、さらに南へ1.5mほど続いている。ここで東に折れ南面する石垣が石垣10b、南北方向の石垣をが垣10aである。不整な比較的大きい石を一定間隔で据え、間と上に立面長方形の割石を積み上げていく。

石垣11は西に面を持ち石垣10aと背面を接する。石垣11の確認できた長さは4m弱で水路3暗渠部のあたりで途切れる。北は石垣7の南部近くまでしか確認できていない。

石垣17aをP27からQ26で検出した。北面し水路4、石垣10aと直交する。水路4を閉塞する石垣。Q26区の最も西にある鏡石前面から50cm北に南北方向の鏡石が1石あり、塊状の石とやや小振りな3石の石列を石垣17bとする。石垣10aから6m離れて対応する。この背面側、石垣17aの前方から陶器の皿が一枚出土した。

Q27区の土層断面で水平に堆積する白色土を確認した。この上に堆積する赤褐色土中に石列1～6を検出した。石列はいずれも南北方向で東に面を持つ。

石垣4はK25区南半からL25区に掛けて南北に伸びる石垣で、石垣10aと平行する。石垣10aに背を向け面を東に揃える。石垣9の延長線上より若干北から始まりL25区の東南隅で途切れる。北部が石垣4a、南部を石垣4b。K25区は北半が攪乱され、石垣10aが北東～南西に裁ち割られた格好になっている。この断面に石垣様に積み上げられた石が露出するが、この東辺は4aを基準とすると僅かに西にずれている。明確な連続性を認められないが4の一部と判断して4cとする。

井戸1と石垣12をN27区で検出した。文化年間図には泉水跡から伸びる水路4に繋がる井戸が描かれている。Q～R27区で赤褐色土に検出した石列群が絵図と同時期の遺構と考えるが、検出面には井戸らしき遺構は見つかっていない。該当しそうな遺構はこの井戸1だが記載位置と外れている。石垣12はN27区で井戸1に近接して検出した。井戸1の方に面を合わせ、距離も近いため一連の構造物と見て良い。石垣14を石垣10aから約9m東に検出した。10とほぼ平行である。出土したのは3石のみで面を西に向けて列をなす。

## 9 周辺

F14~17区で水路2とほぼ平行する水路1を検出した。幅は水路2よりも狭く約70cm。石積みは1石ないし2石しか残っておらず、現存高は約30cm程度。底は良くしまった土である。E18区北東部には北壁に取り付く幅20cmの水路1'がある。平成15年度の調査で検出していいた西端を下位へ掘り下げたところ、続いて石垣が出土した。上面は水路のプランのみで、石垣などの構造物は確認されていなかった。平面プランとほぼ合致するため、水路の一部と考えられるが、一時期古い遺構である可能性も残る。

水路1の南西部に当たるG13区で水路6を検出した。幅は水路1よりもやや広く、用いている石材も大きい。水路1の底面よりも下位に構築されており、より古い時期の遺構と考えられる。水路1はこの水路6の上部を解体して造られた可能性がある。また水路5の下位に南面する石列7を検出したが位置と向きから水路6の一部である可能性を指摘する。

石垣1と水路1南壁の間で石垣2を検出した。南西-北東方向の石垣で北面する。鍵形石垣遺構から64°東に傾く。水路1よりも若干北に傾きF17区で近接する。上に水路1の裏込め石が乗っていた。

F13・14、G14・15、H15区に設定したトレンチで水路2を検出した。東西方向に走り、幅約90cmで南にごく緩やかに曲がる。底面は東から西に向かって傾斜している。水路の壁となる石垣は割石を積み上げて造られている。この水路の北壁を構成する石垣の一部と推定される石積みがF12区で搦手門檻台に接して現れている。E17区北辺で床に埋設された埋め甕2を検出している。水路2の西側は搦手門檻台石垣の北を抜け、金石川沿いの城壁石垣に排水口を持つ。

水路2と搦手門檻石垣との間に水路5と石列7を検出した。水路2と比べると若干小振りの石を使用する。積み方は水路2よりも不整。水路2と同時期に表出して併存していたのではなく、より古い時期に構築され水路2の使用時期には廃絶され埋め立てられていたと考える。G12区北東で水路2と水路5は背面を接している。G12区南東部で底面にさらに古い時期の構築と考えられる石列7が検出された。南面するが長軸は水路と平行しない。また、対となる石列は確認できない。東端は水路5南壁に当たるが、連続して檻石垣の下に潜るかは不明である。

水路5の150cm南西方に、60~80cm×40~50cm大の板石を並べた階段遺構を検出した。板石は、長軸を搦手門檻石垣と直交するように、3枚程を短辺同士を合わせて配置している。石列は東から西へ1段ずつ高く据えられている。確認できたのは3段だが、現状では檻に上るには高さが足りないため、遺存する最上段の上にもう1段が想定される。主に北辺が攪乱され、石材が失われている。

その他、R26~28区に金石川の石垣と平行するような石垣が出土した。この石垣は北面し、現地表面よりも30cmほど低く、遺構面からは1mほど高い。巣原中学校運営時に使われていた道路の、コンクリ擁壁内側から見つかった。コンクリの裏打ちと考えられたが、箇所によっては良好な石積みもあり、遺跡に伴う石垣を後世で再利用した可能性も想定される。

L16~18区にある築山が池築造時の遺構であるか、トレンチで確認した。頂部で表土の66cmから白色土と赤色土の互層が始まる。後世の客土（表土）厚は10~15cm程度と見られ、白色土と赤色土互層の上位に堆積する茶褐色の礫混土が本来の築山造成土と考える。よって本来の築山以降は現在よりも僅かに低くなったのみで、大まかな形状は不变であると判断する。



図2 園池造構配置図 (S=1/150)

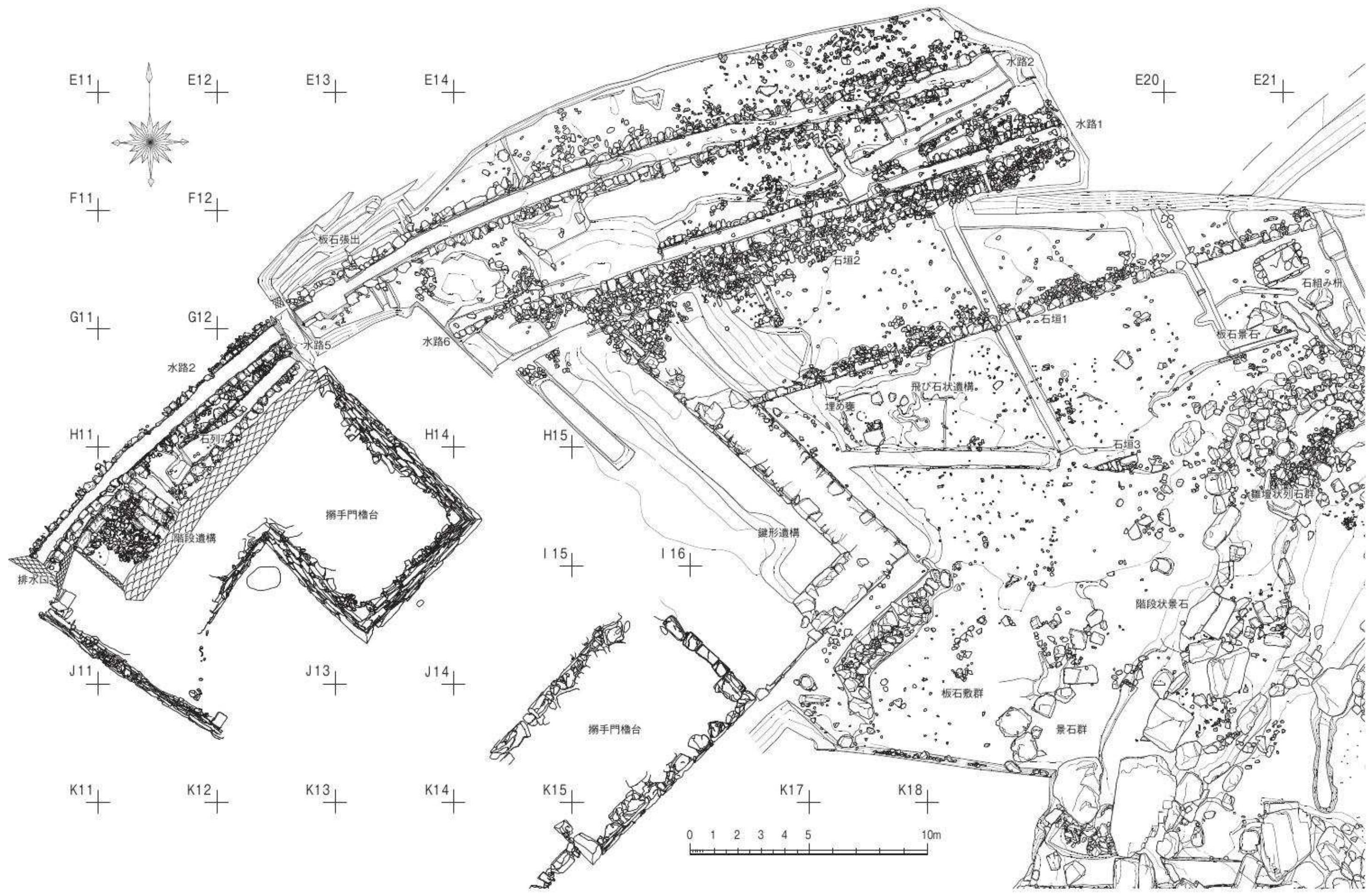


図3 池北西部遺構配置図 (S=1/150)

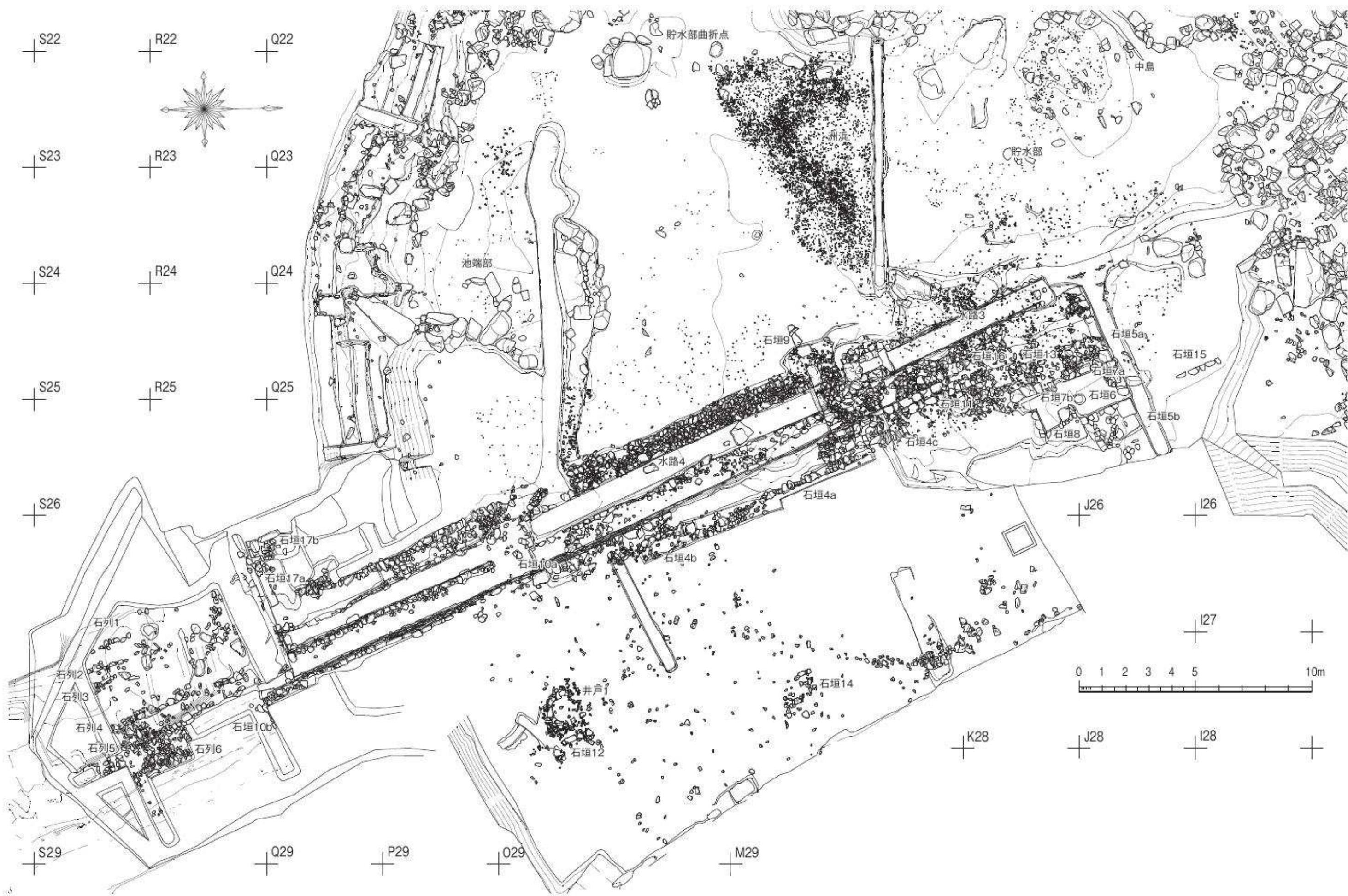


図4 池東部～南部遺構配置図 (S=1/150)

表2 遺物一覧表

番号	出土年度	出土位置	備考	番号	出土年度	出土位置	備考
1	平成10	N・J21	軒丸瓦	61	平成11	M23	染付碗・近代
2	平成10	N・J24	軒棟瓦	62	平成11	M23	染付碗・近代
3	平成10	N・J23・24	軒丸瓦	63	平成11	M23	染付色絵碗・近代
4	平成10	N・J23・24	軒棟瓦	64	平成11	M23	黄土青繩手鏡・高台・露胎 M23
5	平成10		軒丸瓦	65	平成11	M23	染付蓋・近代
6	平成10		軒丸瓦	66	平成11	M23	磁器碗・近代
7	平成10		軒平瓦	67	平成11	M23	白磁小碗・近世か
8	平成10		軒丸瓦	68	平成11	M23	唐物(未製品)・平高台(漆刷)・封緘塗
9	平成10		軒丸瓦	69	平成11	L22	染付碗・近代・対州窯か
10	平成10		軒棟瓦	70	平成11		染付蓋・近代
11	平成10		軒丸瓦	71	平成11	不明	白磁碗・蓋付と見込に目跡・朝鮮か
12	平成11		平瓦	72	平成12	K21	平瓦
13	平成11	不明	軒丸瓦	73	平成12		軒棟瓦
14	平成11	不明	軒丸瓦	74	平成12	不明	軒丸瓦
15	平成11	不明	軒丸瓦	75	平成12	不明	軒丸瓦
16	平成11	不明	軒丸瓦	76	平成12	M19	軒丸瓦
17	平成11	不明	軒丸瓦・刻印あり	77	平成12	G14	丸瓦・刻印あり
18	平成11	不明	軒丸瓦	78	平成12	不明	土瓶の底部か素焼で内面に煤
19	平成11	不明	軒丸瓦	79	平成12		質相思・見込に輪状目跡・底部露胎
20	平成11		軒棟瓦	80	平成12		土師皿・系切底
21	平成11	M23	軒棟瓦	81	平成12		無釉陶器皿(未製品か)・蒂筒底
22	平成11	不明	窯道具(チャツ)	82	平成12		灰釉陶器碗・撥高台・対州窯
23	平成11	不明	染付陶器蓋・上外面のみ施繪	83	平成12		青磁露窓・火入か・るいざ・肥前か
24	平成11	不明	鉄繪青磁小碗・蓋付露胎	84	平成12		白磁碗・対州窯か
25	平成11	M23	肥前染付皿・内面に草樹文	85	平成12		鉄釉陶器小壺
26	平成11		肥前染付皿・内面に墨渦で透葉文	86	平成12		肥前染付皿・見込「壽」・
27	平成11	不明	対州窯鐵繪陶器底盤・高台内に釘跡	87	平成12		黒背景系透葉・鉄道に墨渦で透葉文・底か
28	平成11	不明	備前播鉢・17c	88	平成12		青花底・火入無・17c・中古
29	平成11	不明	黒釉陶器火入・内面露胎	89	平成12		対州窯鐵繪陶器蓋・見込と蓋付に目跡
30	平成11	不明	対州窯灰磁陶器蓋・見込に目跡・高台白	90	平成12		対州窯灰磁陶器蓋・見込に跡目・高台露胎
31	平成11	不明80. M23	対州窯大鉢・新・高台(露胎)・見込に目跡・対州窯か	91	平成12		対州窯鐵繪陶器蓋・見込に跡目・高台露胎
32	平成11	125	備前播鉢・17c	92	平成12		赤地の不明點品・外腹斜削・半身・蓋のものか
33	平成11	不明	肥前染付金彩輪・白内「大明龍清年製」18c	93	平成12		対州窯鐵繪陶器蓋(焼成不良)・墨筋飾で目跡
34	平成11	125	備前播鉢・17c	94	平成12		対州窯鐵繪陶器蓋(焼成不良)・見込に多目
35	平成11	125	肥前播鉢・草高見落・底部に重ね焼き	95	平成12		対州窯灰磁陶器蓋・高台露胎・18c
36	平成11	不明	肥前染付蓋・上外面に山水草樹文・18c	96	平成12		白磁碗正規底部・底部露胎・11-12c
37	平成11	不明	肥前里子・化粧用器蓋・高台内に	97	平成12		対州窯次輪鉢陶器蓋・高台に目跡
38	平成11	不明	肥前里子・化粧用器蓋・高台内露胎	98	平成12		対州窯灰磁陶器平碗・高台内露胎
39	平成11	不明	肥前里子・上外面に山水文・美濃手製(正面)・該	99	平成12		対州窯鐵繪陶器蓋・高台露胎・18c
40	平成11	不明	集珍堂・上外面に松樹文・虹均唐草文・口跡説・鉄網・18-19c	100	平成12		朱荷韻・蛇ノ目繩・半身・型模作りの未完成品・対州窯か
41	平成11	不明	白磁碗・肥前力	101	平成12		灰釉陶器蓋・内面透明白・赤い脂土
42	平成11	不明	対州窯小杯(未製品)・手高台(未切)・対州窯か	102	平成12		101と同一個体
43	平成11	不明	対州窯小杯・外腹に墨渦で目跡・最付露胎・致か	103	平成12		対州窯陶器碗(未製品)
44	平成11	不明	対州窯小杯(未製品)・手高台(未切)・対州窯か	104	平成12		染付牡丹唐草文碗・対州窯か
45	平成11	不明	対州窯小杯(未製品)・手高台(未切)・対州窯か	105	平成12		対州窯雜種釉碗・高台鉢形
46	平成11	不明	灰釉陶器蓋・高台露胎・秀吉日落・対州窯か	106	平成12		美濃火鉢・内面露胎・墨書きあり・近代か
47	平成11	不明	集珍堂・内面に松樹文・虹均唐草文・該	107	平成12		染付銅板転写皿・対州窯か
48	平成11	不明	染付小碗・洋典須・近代	108	平成12		白磁陰刻鏡・蛇ノ目高台露胎・智夢齋作
49	平成11	不明	馬鹿頭・新鏡・高台内に鉢頭半落	109	平成12		京焼飴陶器・脛付露胎
50	平成11	不明	対州窯灰磁陶器蓋・新鏡・対州窯か	110	平成12		白磁不明製品・下部に穿孔・中蓋か
51	平成11	不明	対州窯灰磁陶器蓋・見込に砂目路	111	平成12		白磁不明製品・下部に穿孔・中蓋か
52	平成11	不明	窯道具(ハマ)	112	平成12		染付銅板転写皿・対州窯か
53	平成11	不明	カクタスワーサーの皿・内面に波紋文・在文・高台内(エンブレム)18c以降	113	平成12		染付蓋・芙蓉手風の文様・
54	平成11	不明	対州窯灰磁陶器蓋・見込と蓋付に目跡・	114	平成12		豪健小碗・外腹下端に波状文・加
55	平成11	不明	鉄釉すり鉢・高台露胎	115	平成12		白磁有頭小瓶・底部露胎土「766」
56	平成11	不明	灰釉陶器蓋・高台露胎・見込日落・対州窯か	116	平成12		染付小碗・近代
57	平成11	不明	灰釉陶器蓋・大鉢・脚立の脚付で露胎上・見込に目跡・対州窯か	117	平成12		染付色絵蓋・近代
58	平成11	M23	染付色絵碗・近代	118	平成12		染付色絵碗・近代
59	平成11	M23	染付杯・外腹に草文・近代か	119	平成12		染付火鉢・近代
60	平成11	M23	綠釉磁器碗・近代	120	平成12		染付小碗・近代

表2 遺物一覧表

番号	出土年度	出土位置	備考	番号	出土年度	出土位置	備考
121	平成12		染付梅文型合子・古染付瓶	181	平成13	G24	白磁盤口・内面に青花の蘭刻・対付蓋か
122	平成12		灰葉陶器碗・見込に目跡・高台露胎	182	平成13	P24	京焼風陶器皿・内面に菱形模様子文の新詰
123	平成12	H21	染付碗・近代	183	平成13	G23	対州窯陶器碗・外腹に象嵌による波状文
124	平成12	J20	晴花・蔓葉・高台「太陽時代」・眞	184	平成13	不明	縁箱不明製品・内面のみ施釉
125	平成12	K20	染付皿・口唇部に鉄・近代	185	平成13	D26	軒丸瓦
126	平成12	K20	染付小杯・近代	186	平成13	O22	軒丸瓦
127	平成12	K20	染付蓋・近代	187	平成13	F25	軒丸瓦
128	平成12	K20	染付色絵碗・近代	188	平成13	不明	灰釉陶器碗・見込に目跡
129	平成12	K20	染付色絵碗・近代	189	平成13		染付銅板軸写皿・見込に目跡
130	平成12	K20	染付銅板瓶写皿・対州窯か	190	平成13		対州窯・外腹に施墨・見込に目跡
131	平成12	K20	染付銅板瓶写皿・対州窯か	191	平成13		裏付銅板瓶写皿・見込に目跡
132	平成12	K20	白磁小杯	192	平成13	F23	灰釉陶器碗・費付に目跡
133	平成12	K20	染付蓋・近代	193	平成13	F23	青磁火入・近代
134	平成12	K20	染付蓋・近代	194	平成13	F23	灰釉陶器碗・対州窯
135	平成12	K20	染付唐草文小杯・近代か	195	平成13	F23・24	第付丸文瓶・くらわんか中・蛇ノ口付ハギ・18c
136	平成12	K20	鉄釉播鉢	196	平成13	F24	鉄絵灰釉陶器瓶か
137	平成12	K20	灰釉陶器瓶	197	平成13	F24	染付墨文反端り鉢・肥前か
138	平成12	K20	対地人物図・天賜花作刻・眞	198	平成13	F24	鉄絵陶器燈明皿
139	平成12	K20	染付皿・近代	199	平成13	F24	染付蓋・近代
140	平成12	K20	染付碗・近代	200	平成13	F24	染付陶器皿・見込に「福」
141	平成12	K20	灰釉陶器鉢・高台露胎	201	平成13	F24	京焼風陶器皿・鐵絵・底部露胎
142	平成12	L21	染付蓋・近代	202	平成13	F24	雜釉灯心具
143	平成12	L21	染付銅板軸写皿	203	平成13	F・G24	綠釉鉄円皿・底部露胎上・内野山か
144	平成12	L21	染付蓋・近代	204	平成13	F26	褐釉磁器碗・近代か
145	平成12	L21	染付皿・近代	205	平成13	F24	対州窯灰釉陶器瓶・見込と費付に目跡
146	平成12	M21	色絵・近代	206	平成13	G23	対州窯灰釉陶器瓶・見込と費付に目跡
147	平成12	M21	染付瓶・近代・対州窯か	207	平成13	G23	無釉陶器瓶(未製品)・見込に目跡
148	平成12	N21	染付碗	208	平成13	G23	対州窯灰釉陶器碗・費付に目跡
149	平成12	M21	帖地繪・近代・高台内に「蝶蝶草平」	209	平成13	G23	染付描文小碗・近代か
150	平成12	N21	染付皿	210	平成13	G23	対州窯灰釉陶器碗
151	平成11	不明	観音坐丸文瓶・くらわんか中・観音五瓣花・18c	211	平成13	G23	灰釉荷葉蓋・費付に目跡・対州窯か
152	平成12	不明	対州窯雜釉陶器瓶・高台に目跡	212	平成13	G23	無釉陶器碗(未製品)
153	平成12	不明	灰釉陶器皿・内面に目跡・蛇ノ口高台	213	平成13	G24	染付色絵筒形小杯・近代
154	平成12	不明	土製風炉	214	平成13	G24	雜釉陶器瓶(不良品)・見込に目跡
155	平成13	G23	灰釉陶器瓶・見込に目跡・底部露胎	215	平成13	G24	灰釉陶器皿・見込に目跡・底部露胎
156	平成13	F24	白磁碗・高台に目跡・朝鮮	216	平成13	G24	灰釉陶器皿・見込に目跡・底部露胎
157	平成13	G23	染付皿・18c	217	平成13	G24	刷毛口陶器瓶・底部に目跡・対州窯
158	平成13	N21	染付蓋	218	平成13	G24	染付高台碗・肥前・18c終
159	平成13	G23	鉄輪輪・掛け分け・底部露胎・目跡	219	平成13	G24	青磁火入・肥前
160	平成13	G24	染付蓋	220	平成13	H20	対州窯灰釉陶器・底部露胎・見込
161	平成13		対州窯灰釉陶器瓶・見込・費付に目跡	221	平成13	H21	素燒未製品・外面に墨書き・糸切底
162	平成13	F23	灰釉陶器碗・高台露胎・目跡	222	平成13	H22	染付蓋・近代
163	平成13	N22	137と同一個体	223	平成13	H21	土師器灯明皿・糸切底
164	平成13	F24	対州窯灰釉陶器・透明釉・底部露胎・見込と费付に目跡	224	平成13	H21	灰釉陶器灯心具
165	平成13	F23	刷毛口陶器こね鉢	225	平成14	H21	対州窯陶器瓶(不良品)・見込と費付に目跡
166	平成13	F23	白磁碗・底部露胎・朝鮮か	226	平成14	H22	染付蓋・
167	平成13	F24	白磁碗・底部露胎・朝鮮か	227	平成14	F16水路1	灰釉陶器碗・費付に目跡
168	平成13		無釉陶器碗(未製品)	228	平成14		灰釉陶器碗・費付に目跡
169	平成13	F24	無釉陶器碗(未製品)	229	平成14	F13	灰釉陶器碗・京焼風陶器か
170	平成13	F23	無釉陶器碗(未製品)	230	平成14	F14	白磁碗・費付に目跡・朝鮮か
171	平成13	G23	灰釉陶器碗・見込に目跡	231	平成14	H17	対州窯灰釉陶器碗・見込に目跡
172	平成13	G23	対州窯灰釉陶器瓶・見込と費付に目跡	232	平成14	J17	染付山水文皿
173	平成13	F23	長袖陶器・底部露胎・毛孔と縦目に目跡	233	平成14	F14	対州窯灰釉陶器瓶・費付に目跡
174	平成13	F24	長袖陶器・底部露胎・見込と費付に目跡	234	平成14	E14	白磁碗・費付に目跡・朝鮮か
175	平成13	M20	長袖陶器・底部露胎・見込と費付に目跡	235	平成14	グランド西	白磁碗・高台内斜腹・目跡・朝鮮か
176	平成13	F25	対州窯灰釉陶器瓶・見込と費付に目跡	236	平成14	H17・18	刷毛口陶器蓋・更上部に穿孔・対州窯か
177	平成13	F24	対州窯灰釉陶器瓶・見込と費付に目跡	237	平成14	F16~19, G17~19	刷毛口唐草文瓶・蛇ノ口目跡ハギ・18c中
178	平成13	N21	灰釉陶器皿・蛇ノ口目跡・底部露胎	238	平成14	F14	青磁碗・縦釉・朝鮮か
179	平成13	G24	灰釉陶器小杯・高环腹手高台・糸切底	239	平成14	F18・19, G17・19	灰釉陶器碗・費付に目跡・対州窯か
180	平成13	F23	青釉磁器・近代	240	平成14	H17・18	灰釉陶器碗・費付露胎・朝鮮か

表2 遺物一覧表

番号	出土年度	出土位置	備考	番号	出土年度	出土位置	備考
241	平成14	F16~21	染付花文瓶・骨付露胎・目跡・対州窯か	301	平成14	F16・17, G17~19	灰釉陶器碗
242	平成14	H18・19	白磁碗・骨付に砂目・朝鮮か	302	平成14	F16・17, G17~19	鉄絵灰釉陶器・器形不明
243	平成14	F14	刷毛口・見込に「牢製」・被熱・墨書き	303	平成14	E14	京焼風陶器碗・
244	平成14	F13	対州窯灰釉陶器碗・見込に目跡	304	平成14	F18	灰釉陶器碗・端反り
245	平成14	J18	青磁瓶か	305	平成14	F16・17	灰釉陶器碗
246	平成14	H18	白磁皿・縫隙・骨付に砂目・朝鮮	306	平成14	G19	灰釉陶器・体部露胎・体部露胎・見込に目跡
247	平成14	G18	対州窯灰釉陶器瓶・底部露胎・高台に目跡	307	平成14	F16	土師皿・糸切底・
248	平成14	F14	対州窯灰釉陶器瓶・骨付露胎・目跡	308	平成14	F16~19, G17~19	灰釉鐵絵折縁皿・17c前
249	平成14	グランド西	対州窯灰釉陶器瓶・縫隙・骨付に目跡	309	平成14	不明	度度不良の陶器瓶・見込に目跡・朝鮮か
250	平成14	F13・14	灰釉陶器・透明感・底部露胎・対州窯	310	平成14	H18・19	灰釉陶器・底部露胎・対州窯
251	平成14		灰釉陶器碗・縫隙・骨付に目跡	311	平成14	F16	肥前染付草花文皿・17c後
252	平成14	G14	対州窯灰釉陶器碗・被熱	312	平成14	F16	灰釉陶器碗
253	平成14	不明	対州窯灰釉陶器瓶・縫隙・骨付に目跡	313	平成14	E14	灰釉陶器碗・縫隙・骨付に目跡
254	平成14	H17・18	対州窯灰釉陶器瓶・底部露胎・被熱	314	平成14	F13水路2	灰釉陶器瓶・底部露胎・対州窯
255	平成14	F14	対州窯灰釉陶器瓶・底部露胎・被熱・骨付に目跡	315	平成14	H18・19	鉄釉こね鉢
256	平成14	H17・18	対州窯灰釉陶器瓶・底部露胎・骨付に目跡	316	平成14	F14水路2	鉄釉播鉢
257	平成14	F13・14	肥前染付高台碗・18c終	317	平成14	F13	焼締播鉢
258	平成14	J17	白磁瓶か底部露胎	318	平成14	G20	鉄釉壺
259	平成14	H・119	灰釉陶器皿・底部露胎	319	平成14	J18	白磁水差皿・中国落別落承ある底・17c後
260	平成14	G18	灰釉陶器碗・縫隙・骨付に目跡	320	平成14	F13	鉄釉播鉢
261	平成14	水路2	灰釉陶器皿・縫隙・被熱				

表2 遺物一覧表

番号	出土年度	出土位置	備考	番号	出土年度	出土位置	備考
361	平成15	表採	焼成不良の陶器碗・対州窯	421	平成16	G11・12	軒丸瓦
362	平成15	E18水路1	焼成不良の陶器碗・底部露胎・蓋付	422	平成16	G13水路1	軒丸瓦
363	平成15	F12・13	灰釉陶器・袋物	423	平成16	G11・12	軒丸瓦
364	平成15	G・H12	染付色絵・近代	424	平成16	G11・12	軒丸瓦
365	平成15	R13水路2	鉄釉擂鉢	425	平成16	G11・12	軒丸瓦
366	平成15	G・H12	灰釉陶器・蓋付に目跡・対州窯か	426	平成16	G11・12	軒丸瓦
367	平成15	D・E16~18	灰釉陶器・蓋付・墨付に目跡・対州窯か	427	平成16	G13水路1	軒丸瓦
368	平成15	G・H12	染付陶器碗・底部露胎・対州窯か	428	平成16	G12水路2	軒平瓦
369	平成15	水路2	肥前染付高台碗・18c終	429	平成16	G12水路5	軒平瓦
370	平成15	F2	刷毛目陶器碗	430	平成16	G13水路1	軒平瓦
371	平成15	G・H12	灰釉陶器・底部露胎・朝正新作・見込に目跡・対州窯か	431	平成16	G13水路1	軒平瓦
372	平成15	H21	染付草文大皿・茎筋底	432	平成16	G11・12	軒桟瓦
373	平成15	F12	鉄釉擂鉢	433	平成16	G11・12	鬼瓦
374	平成15	Q26	染付大壺	434	平成16	H12水路2	丸瓦・刻印あり
375	平成15	P26	灰釉大壺・底部露胎・見込に目跡・18c	435	平成16	H11水路2	丸瓦・刻印あり
376	平成15	F12	鉄釉大壺	436	平成16	H11水路2	丸瓦・刻印あり
377	平成15	Q27	灰釉十字鉢・口縁部のみ施釉・17c前	437	平成16	H11水路2	軒平瓦
378	平成15	F12	施釉陶器・お鉢・底部露胎・足元に目跡	438	平成16	H11水路2	軒平瓦
379	平成15	G・H12	灰釉陶器大甕・口縁部露胎・足元に目跡あり	439	平成16	H11水路2	軒平瓦
380	平成15	O26	丸瓦	440	平成16	G12水路2	軒平瓦
381	平成15	P26水路4	丸瓦	441	平成16	H11水路2	軒平瓦
382	平成15	R26・27	丸瓦	442	平成16	H11水路2	軒平瓦
383	平成15	P26水路4	丸瓦	443	平成16	H11水路2	軒平瓦
384	平成15	H23	丸瓦	444	平成16	H11水路2	軒平瓦
385	平成15	P26	丸瓦・李朝/李朝系瓦	445	平成16	G12水路2	軒平瓦
386	平成15	P26	丸瓦・李朝/李朝系瓦	446	平成16	H11水路2	軒平瓦
387	平成15	O26	丸瓦・李朝/李朝系瓦	447	平成16	葉山	軒平瓦
388	平成15	O26水路4	平瓦・李朝/李朝系瓦	448	平成16	H11	軒平瓦
389	平成15	P26水路4	平瓦・李朝/李朝系瓦	449	平成16	G12水路2	平瓦・刻印あり
390	平成15	H21	丸瓦・李朝/李朝系瓦	450	平成16	H11水路2	丸瓦・刻印あり
391	平成15	F12・13	軒丸瓦	451	平成16	H11水路2	軒平瓦
392	平成15	F12・13	軒丸瓦	452	平成16	H11水路2	軒平瓦
393	平成15	F12・13	軒丸瓦	453	平成16	H11水路2	軒平瓦
394	平成15	F12・13	軒丸瓦	454	平成16	H11	軒平瓦
395	平成15	F12・13	軒丸瓦	455	平成16	H11水路2	軒平瓦
396	平成15	F13	軒丸瓦	456	平成16	H11水路2	軒平瓦
397	平成15	F12・13	軒丸瓦	457	平成16	H11水路2	軒平瓦
398	平成15	F12・13	軒丸瓦	458	平成16	H11水路2	軒丸瓦
399	平成15	G17	軒丸瓦	459	平成16	H11	軒丸瓦
400	平成15	Q27	軒丸瓦	460	平成16	H11水路2	軒丸瓦
401	平成15	F13水路2	軒丸瓦	461	平成16	G12水路5	軒丸瓦
402	平成15	F14水路1	丸瓦・刻印あり	462	平成16	G12水路2	軒丸瓦
403	平成15	P23	丸瓦・刻印あり	463	平成16	H11水路2	軒丸瓦
404	平成16	G11・12	軒丸瓦	464	平成16	H11水路2	丸瓦・刻印あり
405	平成16	G11・12	軒丸瓦	465	平成16	H11水路2	軒丸瓦
406	平成16	G11・12	軒丸瓦	466	平成16	H11水路2	軒丸瓦
407	平成16	G12水路2	軒丸瓦	467	平成16	H11水路2	軒丸瓦
408	平成16	G12水路2	軒丸瓦	468	平成16	H11水路2	軒丸瓦
409	平成16	G11・12	軒丸瓦	469	平成16	H11水路2	軒丸瓦
410	平成16	G11・12	軒桟瓦	470	平成16	G12水路5	軒丸瓦
411	平成16	G11・12	軒桟瓦	471	平成16	G12水路5	軒丸瓦
412	平成16	G11・12	軒丸瓦	472	平成16	G12水路2	灰釉陶器碗・墨付縁八字・切跡有・対州窯か
413	平成16	G12水路2	軒丸瓦	473	平成16	G11・12	京焼風陶器碗・墨付露胎
414	平成16	G13水路1	軒丸瓦	474	平成16	G11・12	対州窯灰釉陶器碗・見込と墨付に砂目
415	平成16	G11・12	軒丸瓦	475	平成16	G12水路2	対州窯灰釉陶器碗・見込と墨付に砂目・香箱
416	平成16	G11・12	軒丸瓦	476	平成16	G11・12	対州窯灰釉陶器碗・墨付・墨付に目跡
417	平成16	G11・12	軒丸瓦	477	平成16	G11・12	対州窯灰釉陶器碗・見込と墨付に目跡
418	平成16	G11・12	軒丸瓦	478	平成16	H11水路2	粗製青花・墨付・墨付に砂目・17c前
419	平成16	G11・12	軒丸瓦	479	平成16	H11水路2	白磁碗・墨付・墨付に砂目・17c前
420	平成16	G11・12	軒丸瓦	480	平成16	G11・12	肥前染付皿・墨付縁八字・初期伊万里か

表2 遺物一覧表

番号	出土年度	出土位置	備考	番号	出土年度	出土位置	備考
481	平成16	H12水路2	鉄縦灰釉陶器皿[總唐津]・外面露胎	541	平成16	G11・12	灰釉陶器盞・外面に波状文
482	平成16	G12水路2	肥前染付皿・墨付縁八字	542	平成16	G12水路5	灰釉陶器盞・見込と墨付に目跡・対州窯
483	平成16	H11水路5	灰釉陶器碗・底部露胎・対州窯か	543	平成16	G12水路5	古物類・蓋付・外面に波状文・内面カキコ・側面
484	平成16	H11水路5	朱塗彩・漆器・朱引漆器・高台内露胎	544	平成16	G11・12	灰釉土瓶・底部露胎
485	平成16	G13水路1	白地鉄絵碗・底部露胎	545	平成16	G11・12	朱塗彩・漆器・朱引漆器・高台内露胎・外面に色絵で鶴・肥前・18c
486	平成16	H11水路2	白地鉄絵碗・高台内露胎・対州窯か	546	平成16	G11・12	灰釉煎茶碗・底部露胎・底部に墨書
487	平成16	H11水路2	灰釉陶器碗・焼成不良・鉛錫・見込と墨付に砂目	547	平成16	G12水路5	燒錫擂鉢
488	平成16	G11・12	灰釉陶器碗・焼成不良・鉛錫・見込と墨付に砂目	548	平成16	水路5	綠彩灰釉陶器碗・緑釉・墨付に砂目
489	平成16	G11・12	白磁碗・墨付・墨付に砂目・見込と墨付に砂目	549	平成16	G11・12	灰釉陶器筒型碗・墨付に砂目
490	平成16		灰釉陶器碗・底部露胎・見込と墨付に砂目・対州窯	550	平成16	G11・12	灰釉陶器筒型碗・底部露胎・見込と墨付に砂目
491	平成16	H11水路2	灰釉陶器碗・底部露胎・見込と墨付に砂目・対州窯	551	平成16	G11・12	対州窯灰釉陶器碗・墨付・見込と墨付に砂目
492	平成16	G11・12	灰釉陶器碗・底部露胎・見込と墨付に砂目・対州窯	552	平成16	G11・12	対州窯灰釉陶器碗・底部露胎・見込と墨付に砂目
493	平成16	H11水路2	青白磁頭・鉢ノ目縁八字・底部露胎	553	平成16	G12水路2	対州窯灰釉陶器碗・肥成不良・見込と墨付に砂目
494	平成16	G11・12	灰釉陶器碗・底部露胎・見込と墨付に砂目	554	平成16	G11・12	対州窯灰釉陶器碗・墨付・見込と墨付に砂目
495	平成16	G11・12	灰釉陶器碗・焼成不良・墨付に砂目・見込と墨付に砂目	555	平成16	H11水路5	対州窯灰釉陶器碗・焼成不良・墨付に砂目
496	平成16	G11・12	灰釉陶器碗・墨付に砂目・対州窯か	556	平成16	H11水路5	白磁碗・墨付露胎・体下部と高台内に成形痕
497	平成16	G11・12	対州窯青磁委輪・透明釉・見込と墨付に砂目	557	平成16	H11水路5	灰釉陶器碗・底部露胎・対州窯か
498	平成16	H11水路5	白磁盤・墨付・墨付に砂目・朝鮮か				
499	平成16	H11水路2	灰釉陶器碗・墨付に砂目・対州窯か				
500	平成16	H11水路2	灰釉陶器碗・墨付に砂目・体部は薄中で薄くなる・対州窯か				
501	平成16	G13水路1	肥前染付小碗・墨付に砂目				
502	平成16	H11水路2	灰釉陶器碗・墨付に砂目・底部露胎・見込と墨付に砂目				
503	平成16	G11・12	灰釉陶器				

写 真

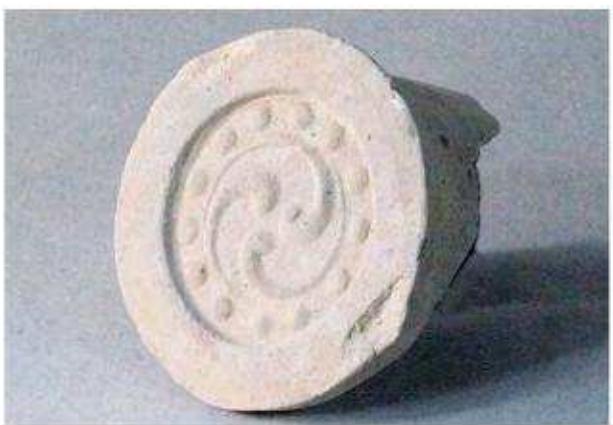


写真 1 1-1



写真 2 1-2



写真 3 2-1



写真 4 2-2



写真 5 3-1

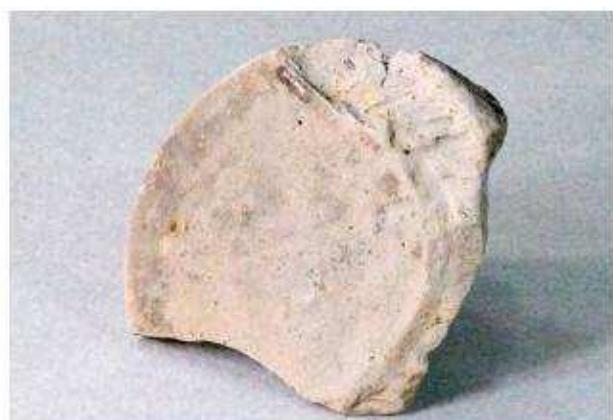


写真 6 3-2



写真 7 4-1



写真 8 4-2



写真9 5-1



写真10 5-2



写真17 9-1



写真18 9-2



写真11 6-1



写真12 6-2



写真19 10-1

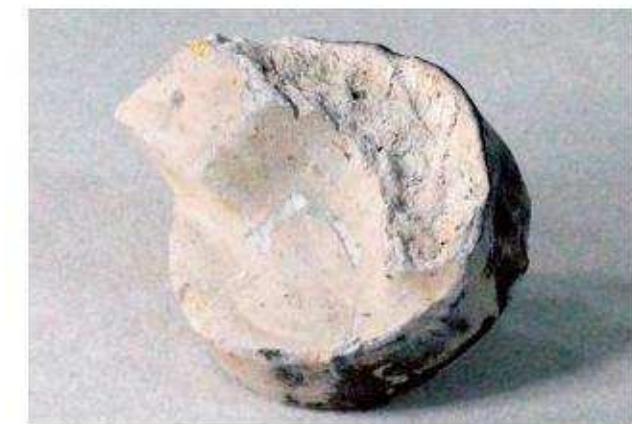


写真20 10-2



写真13 7-1



写真14 7-2



写真21 11-1



写真22 11-2



写真15 8-1



写真16 8-2



写真23 12-1



写真24 12-2



写真25 13-1



写真26 13-2



写真33 17-1



写真34 17-2



写真27 14-1



写真28 14-2



写真35 17-3



写真36 18-1



写真29 15-1



写真30 15-2



写真37 18-2



写真38 19-1



写真31 16-1



写真32 16-2



写真39 19-2



写真40 20-1



写真41 21-1



写真42 21-2



写真49 25-1



写真50 25-2



写真43 22-1

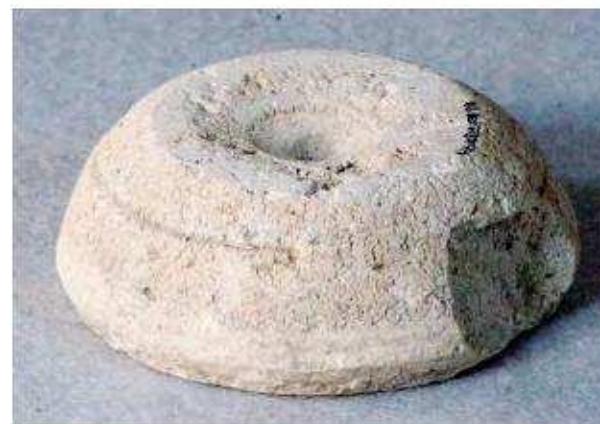


写真44 22-2



写真51 26-1



写真52 26-2



写真45 23-1



写真46 23-2



写真53 27-1



写真54 27-2



写真47 24-1



写真48 24-2

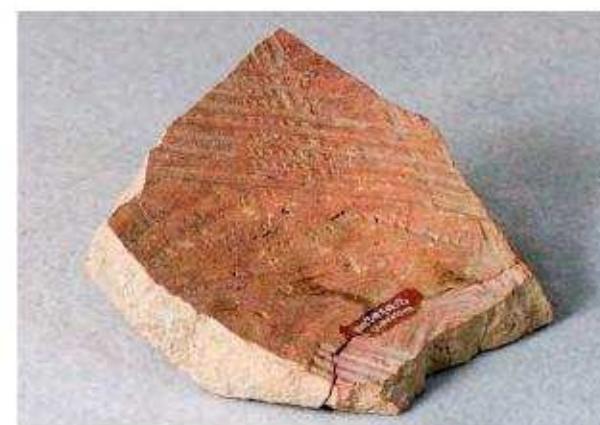


写真55 28-1

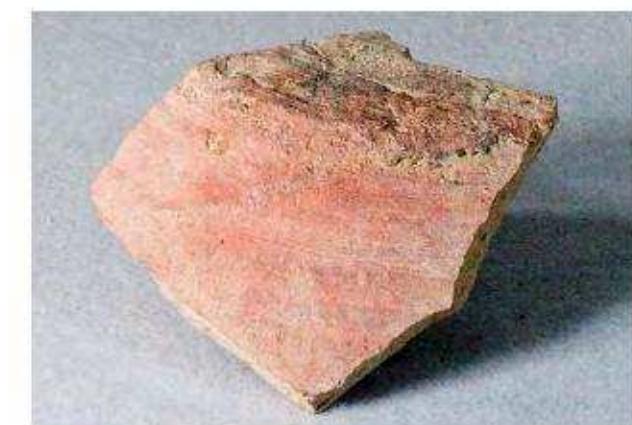


写真56 28-2



写真57 29-1



写真58 29-2



写真65 33-1



写真66 33-2

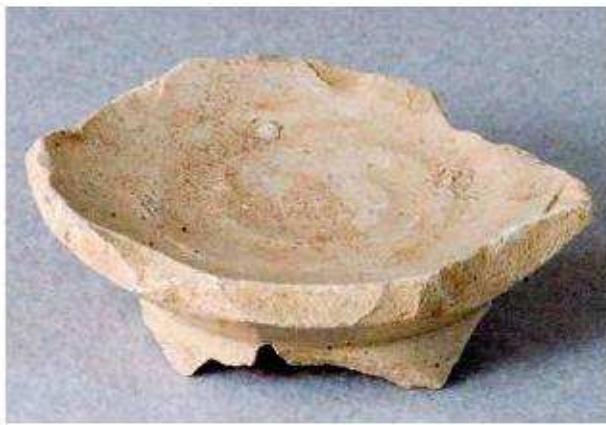


写真59 30-1



写真60 30-2



写真67 33-3



写真68 33-4



写真61 31-1



写真62 31-2



写真69 34-1



写真70 34-2



写真63 32-1



写真64 32-2



写真71 35-1



写真72 35-2



写真73 36-1



写真74 36-2



写真81 40-1



写真82 40-2



写真75 37-1



写真76 37-2



写真83 41-1



写真84 41-2



写真77 38-1



写真78 38-2



写真85 42-1



写真86 42-2



写真79 39-1



写真80 39-2



写真87 43-1



写真88 43-2



写真89 44-1

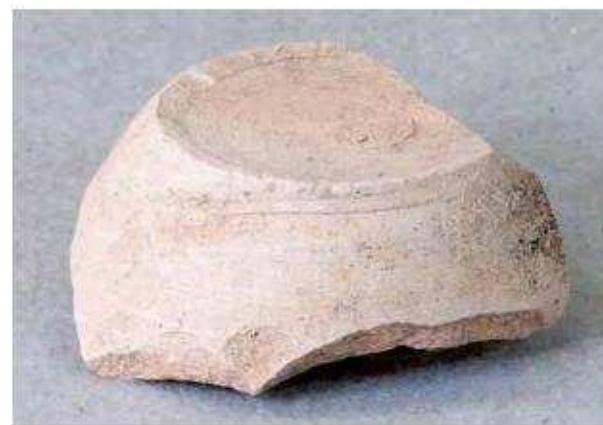


写真90 44-2



写真97 48-1



写真98 48-2

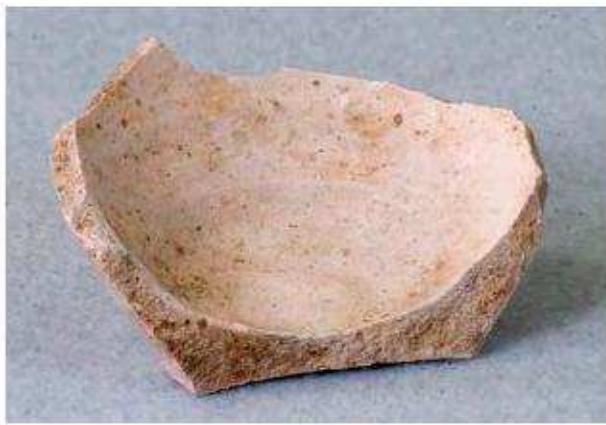


写真91 45-1



写真92 45-2

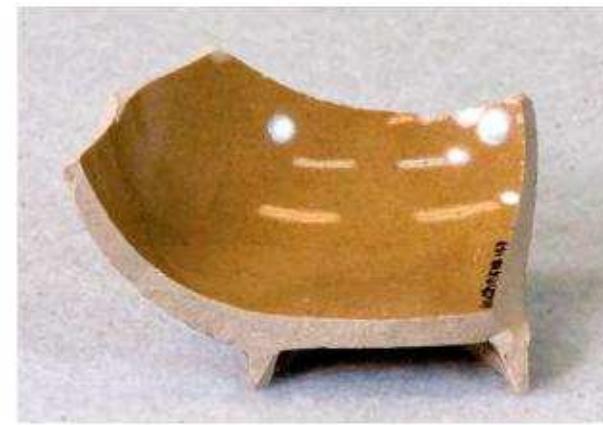


写真99 49-1



写真100 49-2



写真93 46-1



写真94 46-2



写真101 50-1



写真102 50-2



写真95 47-1



写真96 47-2



写真103 51-1



写真104 51-2

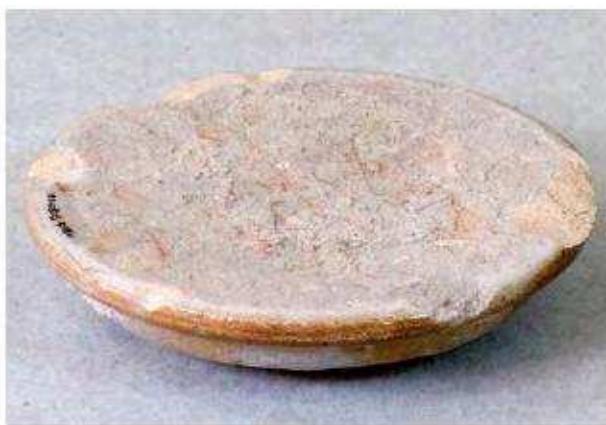


写真105 52-1



写真106 52-2



写真113 56-1



写真114 56-2

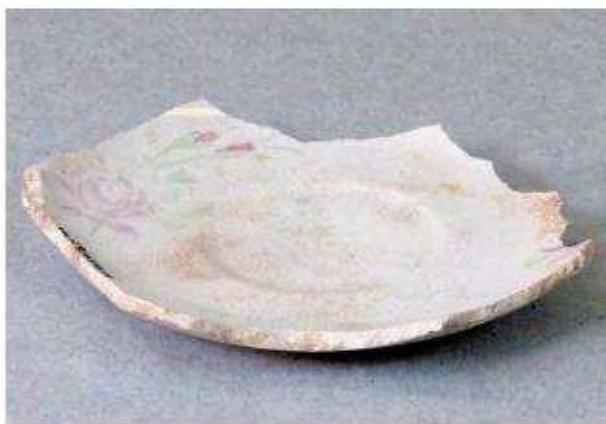


写真107 53-1



写真108 53-2



写真115 57-1



写真116 57-2



写真109 54-1



写真110 54-2



写真117 58-1



写真118 58-2



写真111 55-1



写真112 55-2



写真119 59-1



写真120 59-2



写真121 60-1



写真122 60-2



写真129 64-1



写真130 64-2



写真123 61-1



写真124 61-2



写真131 64-3



写真132 64-4



写真125 62-1



写真126 62-2



写真133 65-1



写真134 65-2



写真127 63-1



写真128 63-2



写真135 66-1



写真136 66-2



写真137 67-1



写真138 67-2



写真145 71-1



写真146 71-2



写真139 68-1

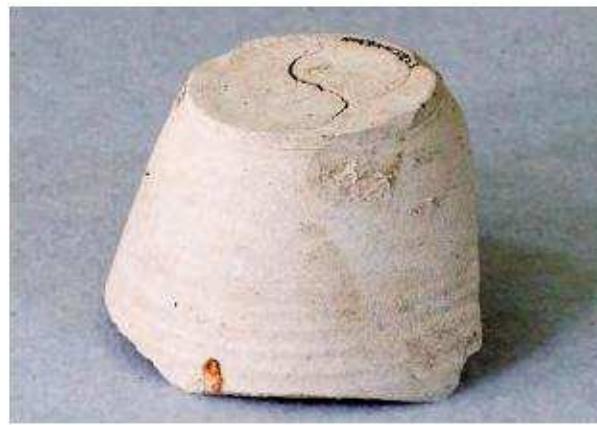


写真140 68-2



写真147 72-1



写真148 72-2



写真141 69-1



写真142 69-2



写真149 73-1



写真150 73-2



写真143 70-1



写真144 70-2



写真151 74-1



写真152 74-2



写真153 75-1



写真154 75-2



写真161 78-1



写真162 78-2



写真155 76-1



写真156 76-2



写真163 79-1



写真164 79-2



写真157 77-1



写真158 77-2



写真165 80-1



写真166 80-2



写真159 77-3



写真160 77-4



写真167 81-1



写真168 81-2



写真169 82-1

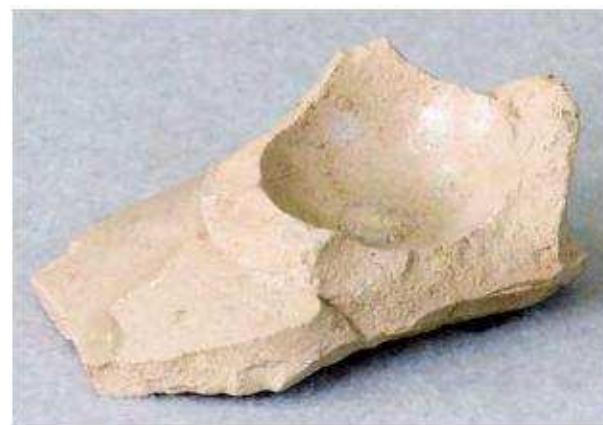


写真170 82-2



写真177 86-1



写真178 86-2



写真171 83-1



写真172 83-2



写真179 87-1



写真180 87-2

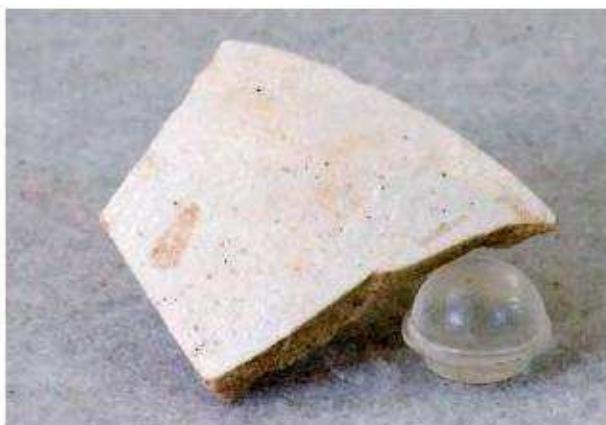


写真173 84-1

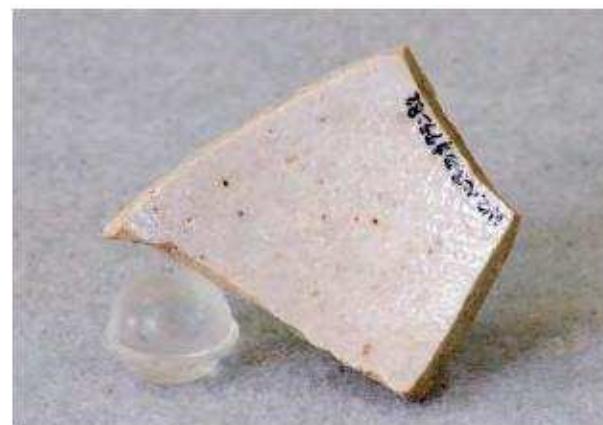


写真174 84-2



写真181 88-1



写真182 88-2



写真175 85-1



写真176 85-2



写真183 88-3



写真184 88-4



写真185 89-1



写真186 89-2



写真193 93-1



写真194 93-2



写真187 90-1



写真188 90-2

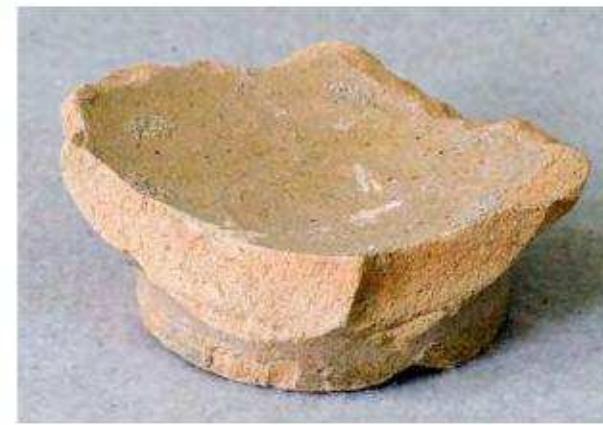


写真195 94-1



写真196 94-2



写真189 91-1



写真190 91-2



写真197 95-1



写真198 95-2



写真191 92-1



写真192 92-2



写真199 96-1



写真200 96-2



写真201 97-1



写真202 97-2



写真209 101-1



写真210 101-2



写真203 98-1



写真204 98-2



写真211 102-1

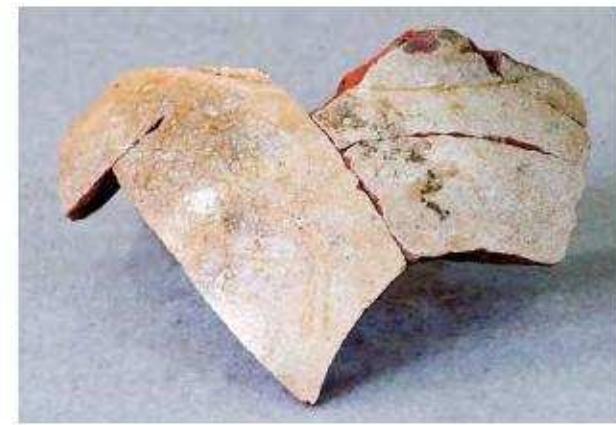


写真212 102-2



写真205 99-1



写真206 99-2

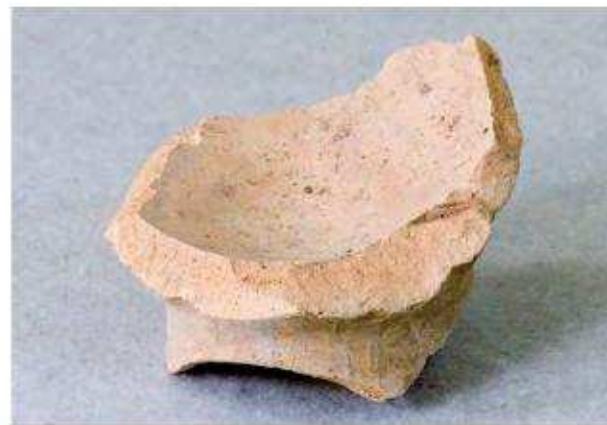


写真213 103-1



写真214 103-2



写真207 100-1



写真208 100-2



写真215 104-1



写真216 104-2



写真217 105-1



写真218 105-2



写真225 109-1



写真226 109-2



写真219 106-1



写真220 106-2



写真227 110-1



写真228 110-2



写真221 107-1



写真222 107-2



写真229 111-1



写真230 111-2



写真223 108-1



写真224 108-2



写真231 112-1



写真232 112-2



写真233 113-1



写真234 113-2



写真241 117-1



写真242 117-2



写真235 114-1



写真236 114-2



写真243 118-1



写真244 118-2



写真237 115-1



写真238 115-2



写真245 119-1

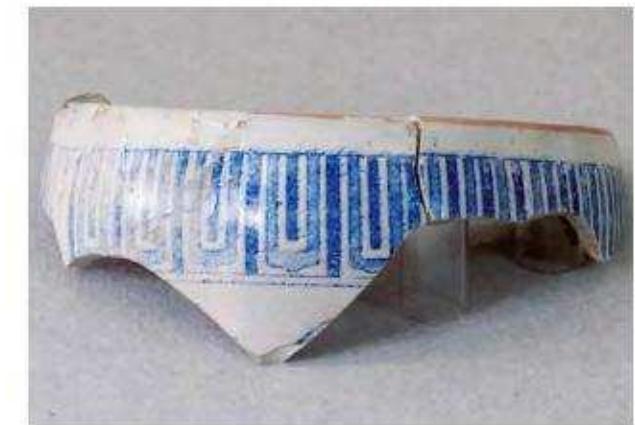


写真246 119-2



写真239 116-1



写真240 116-2



写真247 120-1



写真248 120-2



写真249 121-1



写真250 121-2



写真257 124-3



写真258 124-4



写真251 122-1



写真252 122-2



写真259 125-1



写真260 125-2



写真263 123-1



写真264 123-2



写真261 126-1



写真262 126-3



写真255 124-1



写真256 124-2



写真263 127-1



写真264 127-2



写真265 128-1



写真266 128-2



写真273 132-1



写真274 132-2



写真267 129-1



写真268 129-2



写真275 133-1



写真276 133-2



写真269 130-1



写真270 130-2



写真277 134-1



写真278 134-2



写真271 131-1



写真272 131-2



写真279 135-1



写真280 135-2

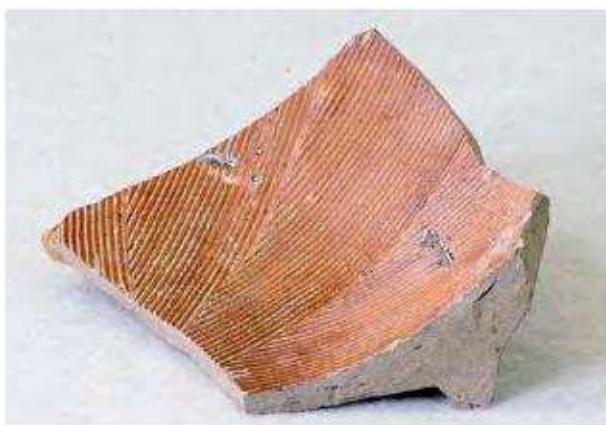


写真281 136-1



写真282 136-2



写真289 140-1



写真290 140-2



写真283 137-1



写真284 137-2



写真291 141-1



写真292 141-2



写真285 138-1



写真286 138-2



写真293 142-1



写真294 142-2



写真287 139-1



写真288 139-2



写真295 143-1



写真296 143-2



写真297 144-1



写真298 144-2



写真305 148-1



写真306 148-2



写真299 145-1



写真300 145-2



写真307 149-1



写真308 149-2

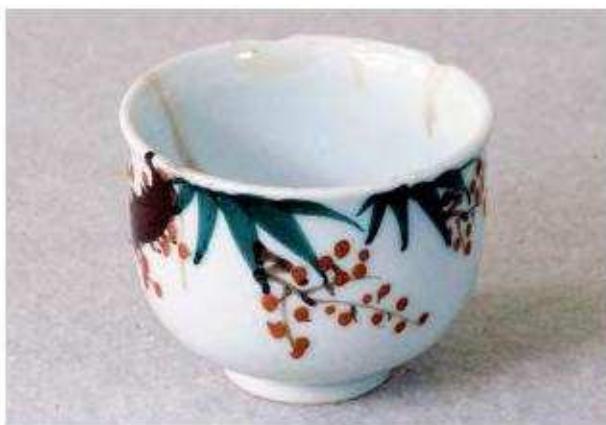


写真301 146-1



写真302 146-2



写真309 150-1



写真310 150-2



写真303 147-1



写真304 147-2



写真311 151-1



写真312 151-2



写真313 152-1



写真314 152-2

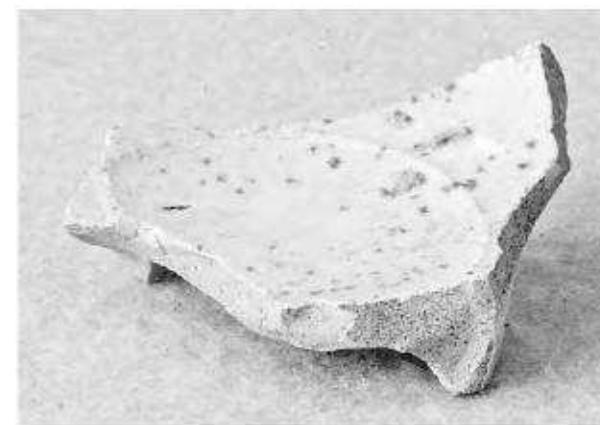


写真321 156-1



写真322 156-2



写真315 153-1

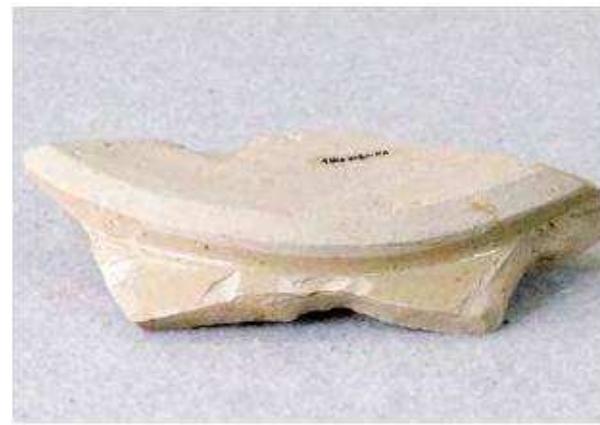


写真316 153-2

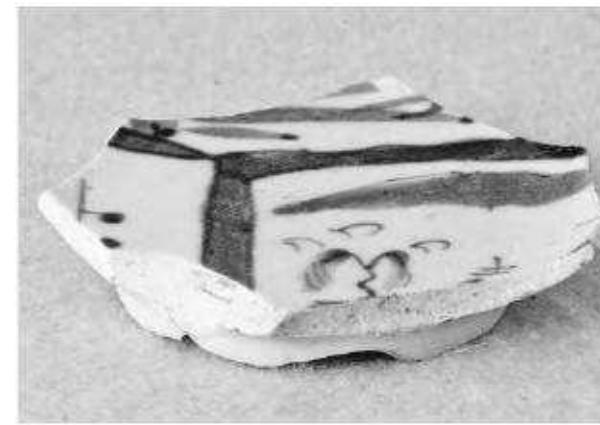


写真323 157-1



写真324 157-2



写真317 154-1

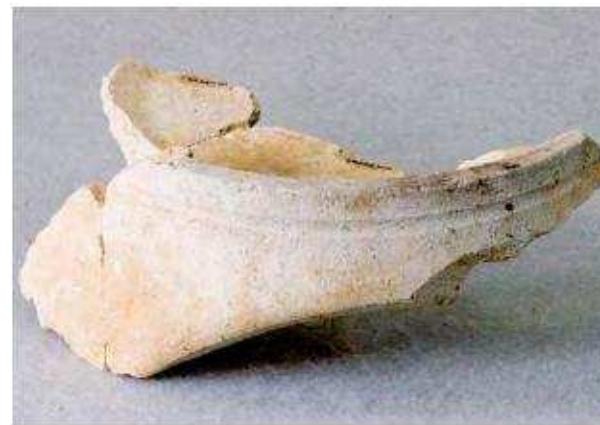


写真318 154-2

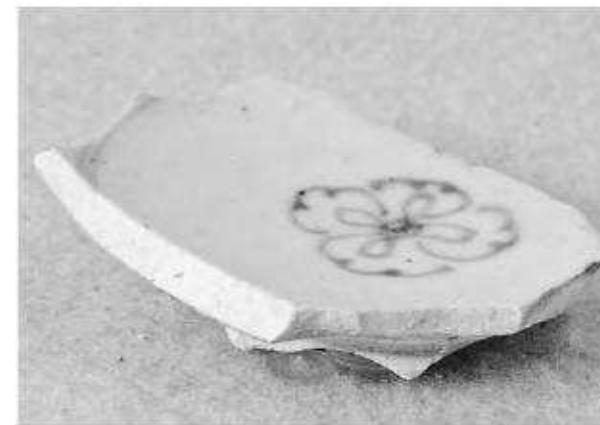


写真325 158-1



写真326 158-2



写真319 155-1



写真320 155-2



写真327 159-1



写真328 159-2

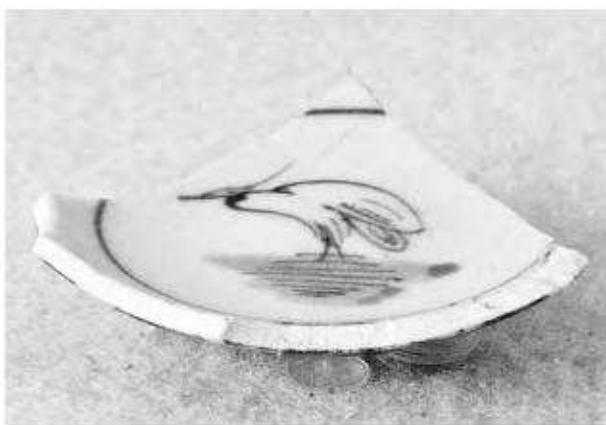


写真329 160-1

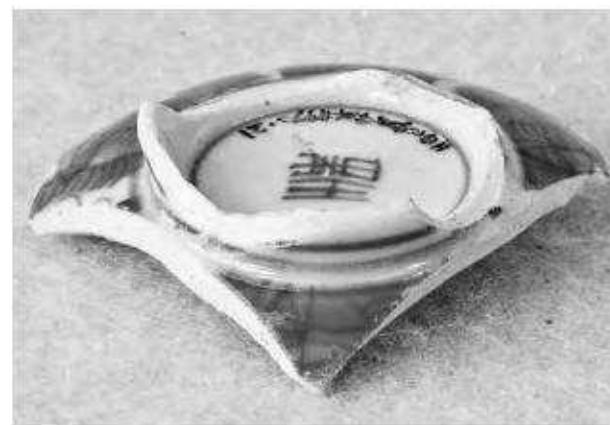


写真330 160-2

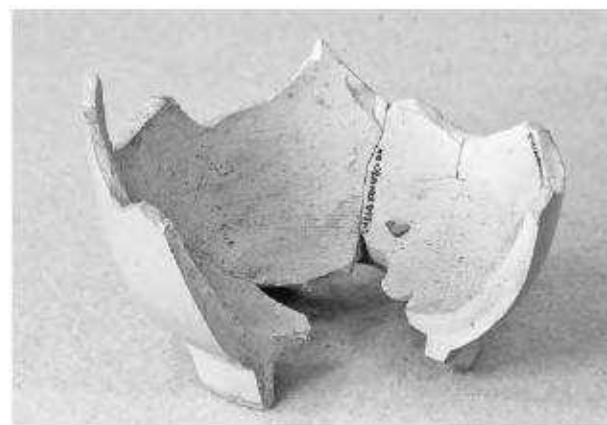


写真337 163-1



写真338 163-2

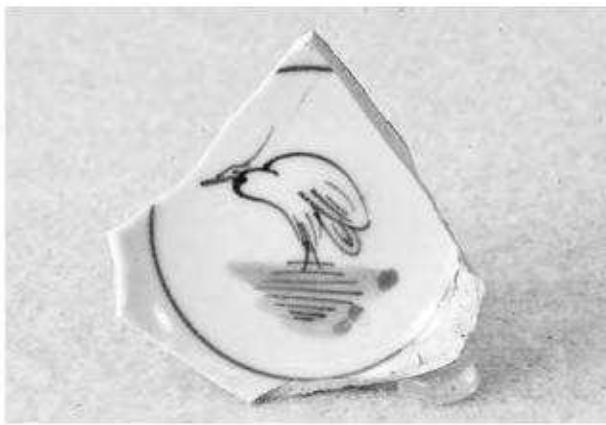


写真331 160-3



写真332 160-4

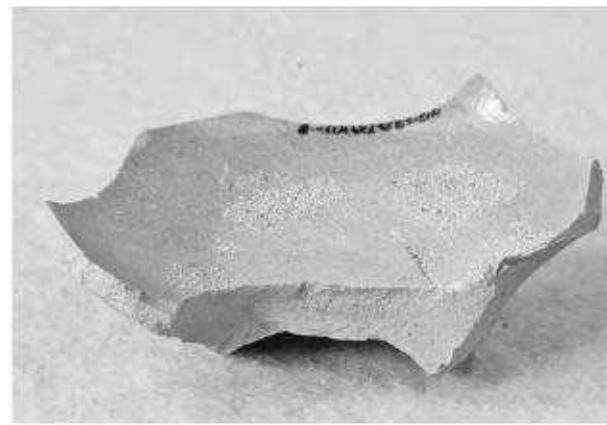


写真339 164-1



写真340 164-2



写真333 161-1



写真334 161-2

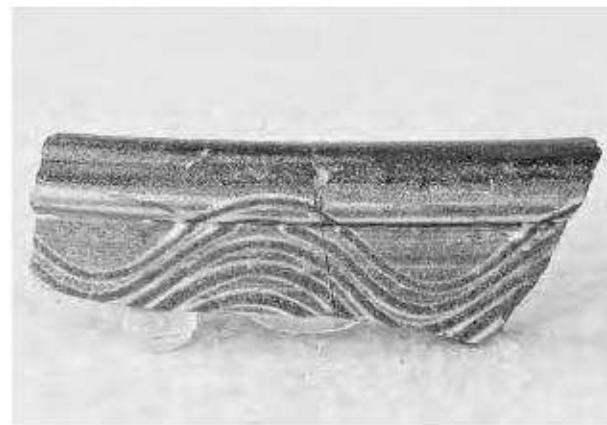


写真341 165-1

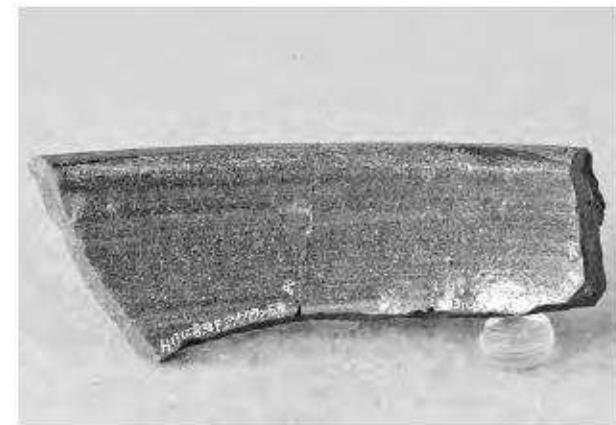


写真342 165-2



写真335 162-1



写真336 162-2



写真343 166-1

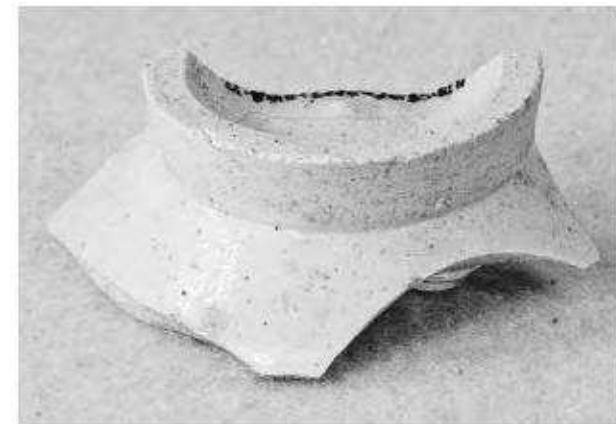


写真344 166-2



写真345 167-1



写真346 167-2



写真353 171-1

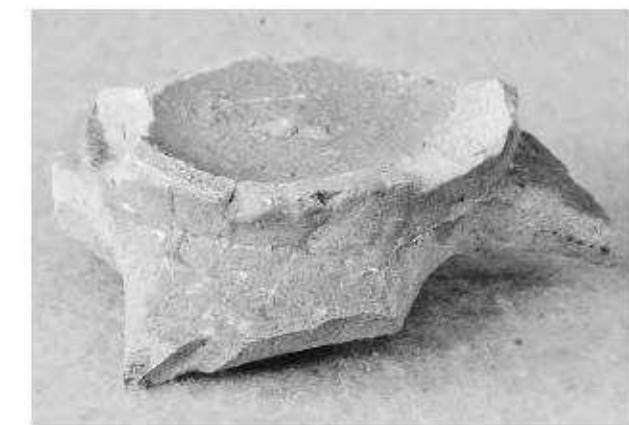


写真354 171-2

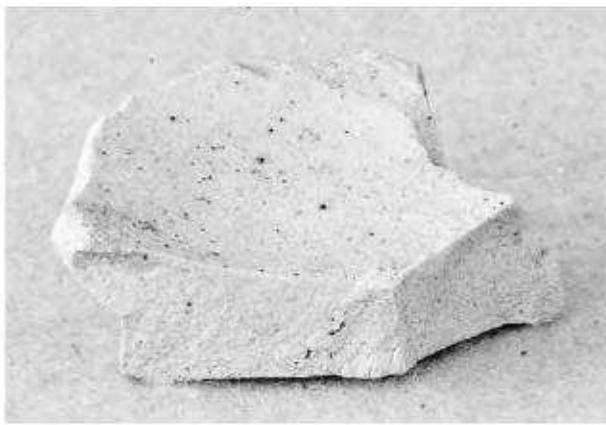


写真347 168-1



写真348 168-2

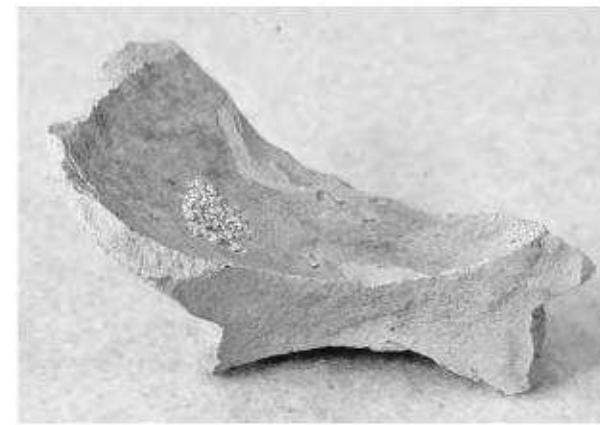


写真355 172-1

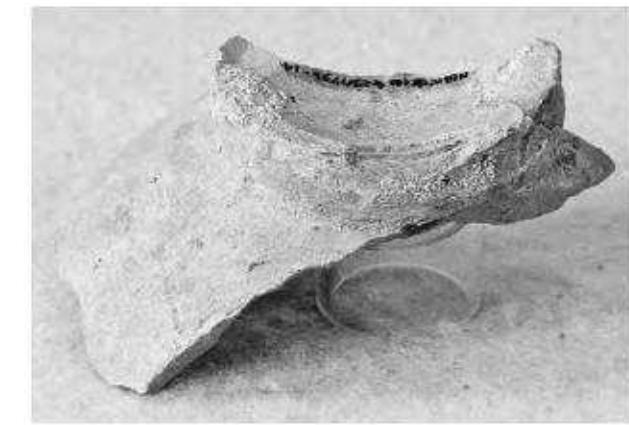


写真356 172-2



写真349 169-1



写真350 169-2

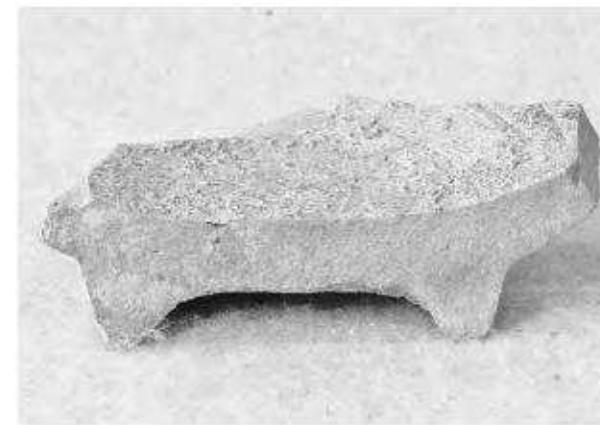


写真357 173-1

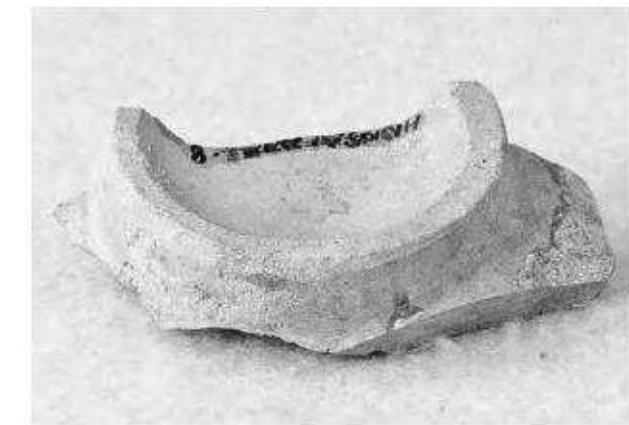


写真358 173-2



写真351 170-1



写真352 170-2



写真359 174-1



写真360 174-2



写真361 175-1

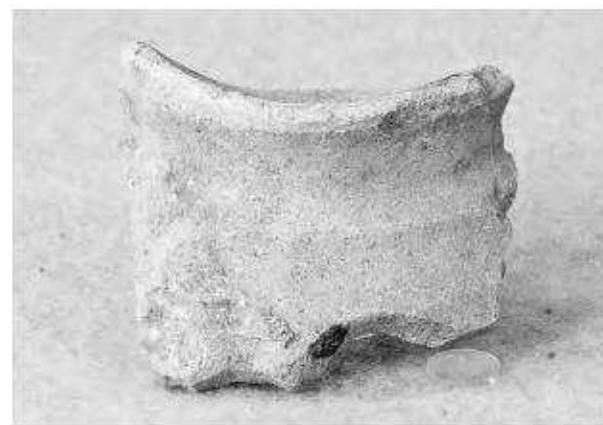


写真362 175-2

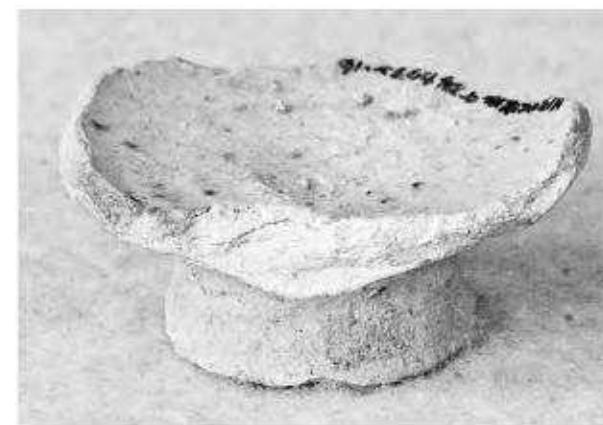


写真369 179-1



写真370 179-2



写真363 176-1



写真364 176-2

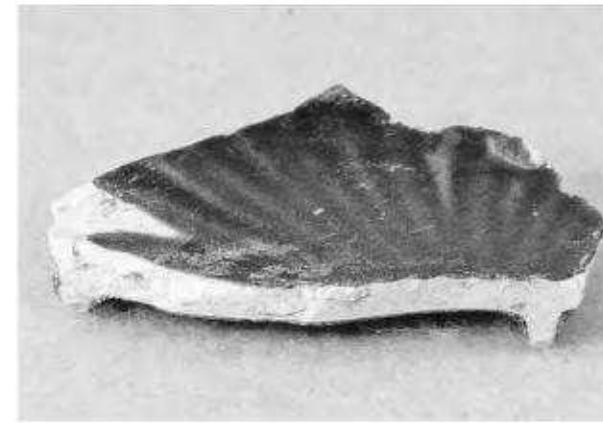


写真371 180-1

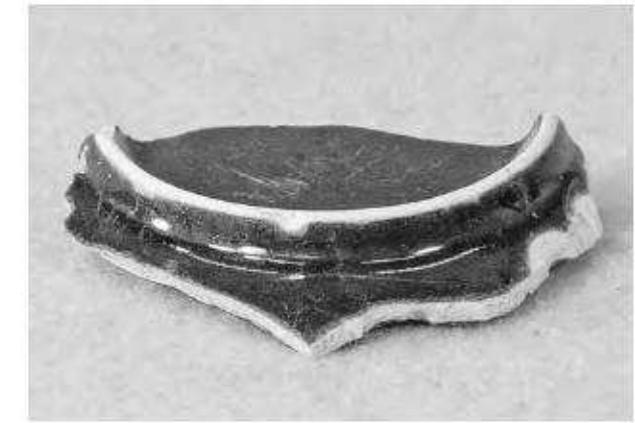


写真372 180-2

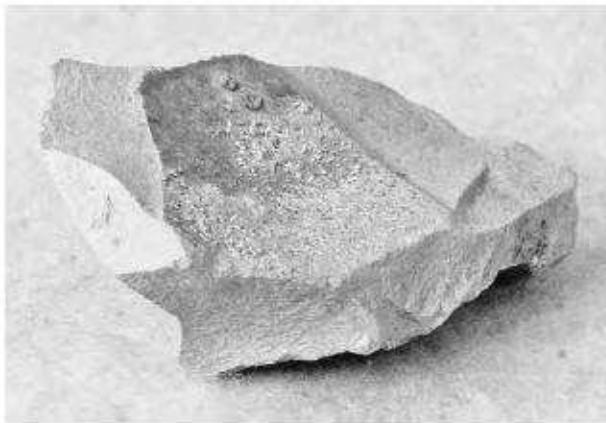


写真365 177-1



写真366 177-2



写真373 181-1



写真374 181-2

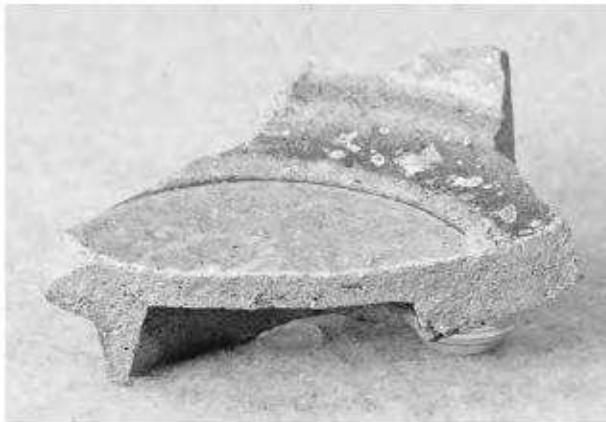


写真367 178-1

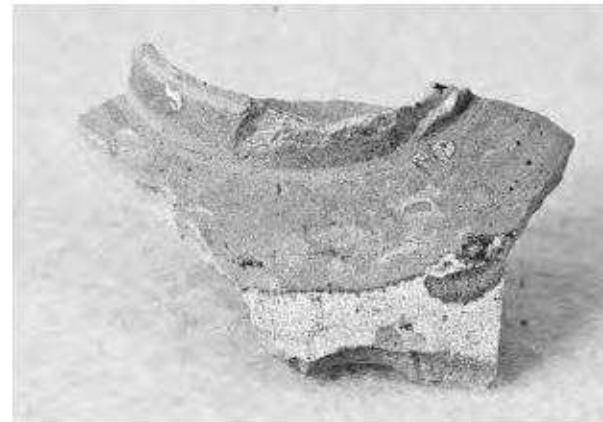


写真368 178-2

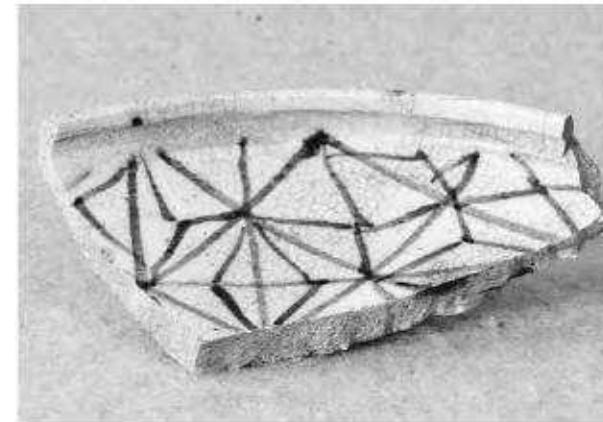


写真375 182-1



写真376 182-2



写真377 183-1

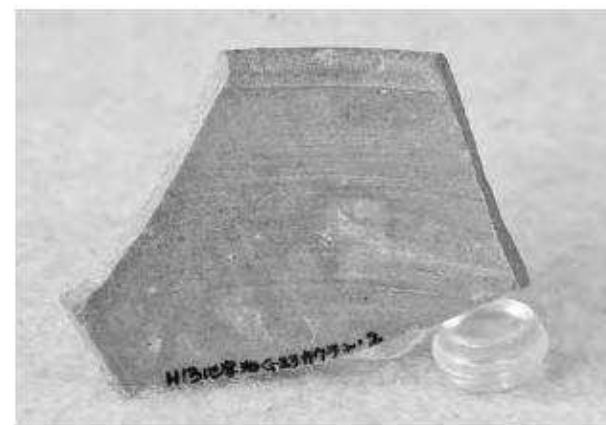


写真378 183-2



写真385 187-1



写真386 187-2



写真379 184-1



写真380 184-2



写真387 188-1



写真388 188-2



写真381 185-1



写真382 185-2



写真389 189-1



写真390 189-2

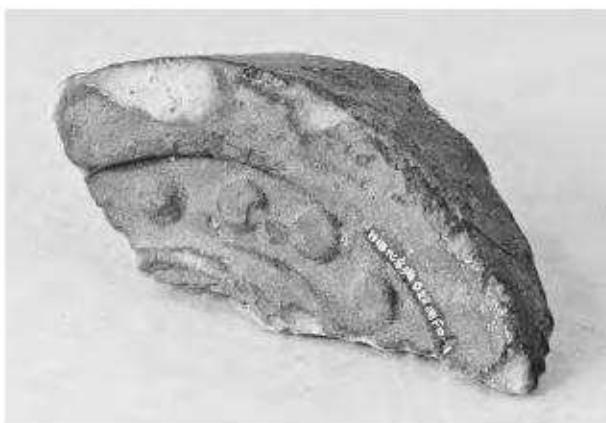


写真383 186-1



写真384 186-2



写真391 190-1

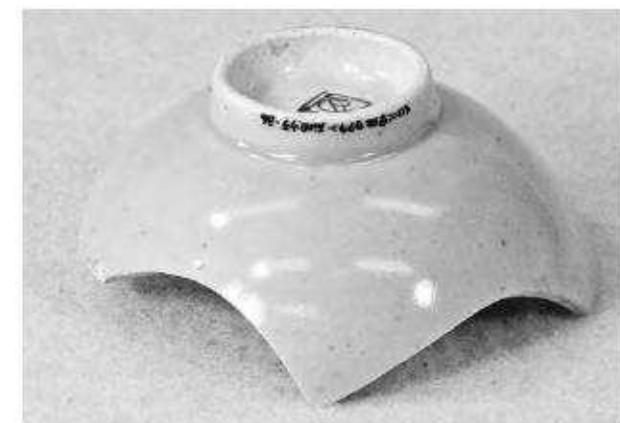


写真392 190-2



写真393 191-1

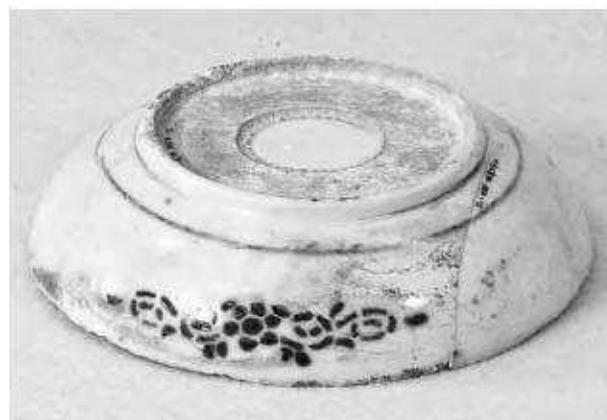


写真394 191-2



写真401 195-1



写真402 195-2

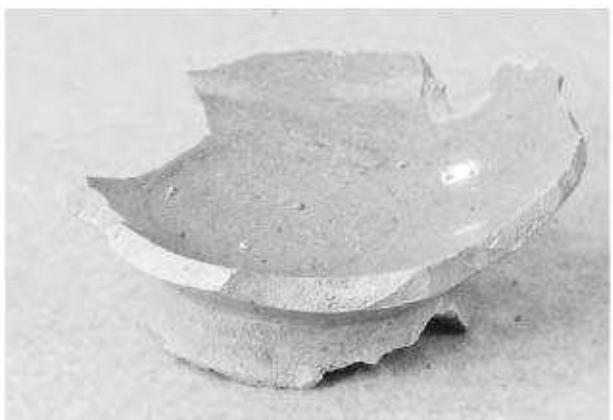


写真395 192-1



写真396 192-2



写真403 196-1



写真404 196-2



写真397 193-1



写真398 193-2



写真405 197-1



写真406 197-2



写真399 194-1



写真400 194-2



写真407 198-1



写真408 198-2



写真409 199-1



写真410 199-2



写真417 202-1



写真418 202-2

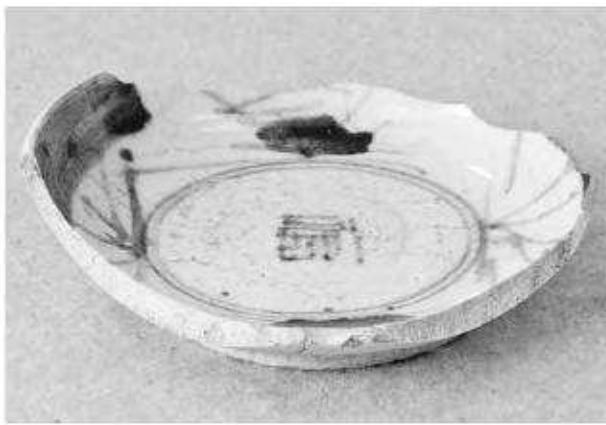


写真411 200-1



写真412 200-2

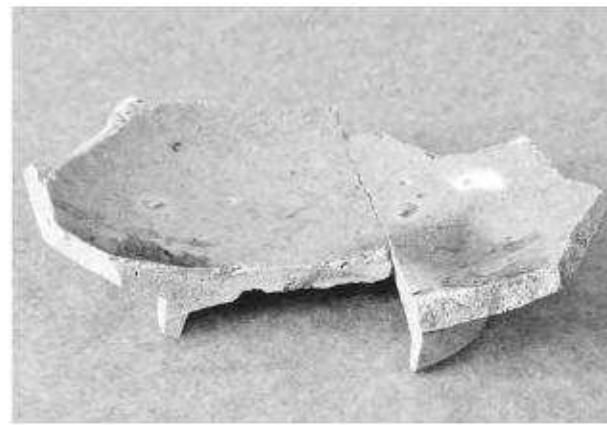


写真419 203-1

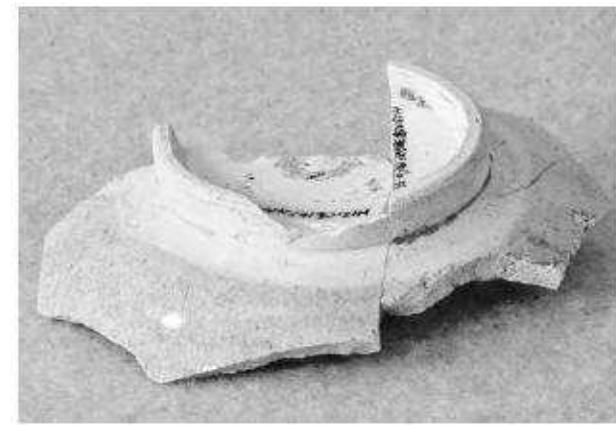


写真420 203-2



写真413 200-3

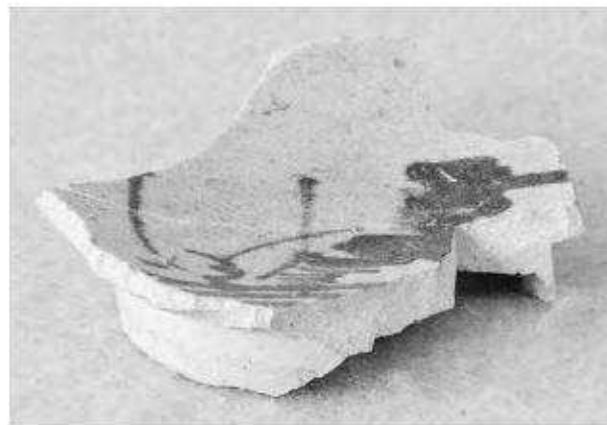


写真414 201-1



写真421 204-1



写真422 204-2



写真415 201-2



写真416 201-3



写真423 205-1



写真424 205-2



写真425 206-1



写真426 206-2



写真433 210-1



写真434 210-2



写真427 207-1



写真428 207-2



写真435 211-1



写真436 211-2



写真429 208-1



写真430 208-2



写真437 212-1



写真438 212-2



写真431 209-1



写真432 209-2



写真439 213-1



写真440 213-2



写真441 214-1



写真442 214-2



写真449 218-1



写真450 218-2

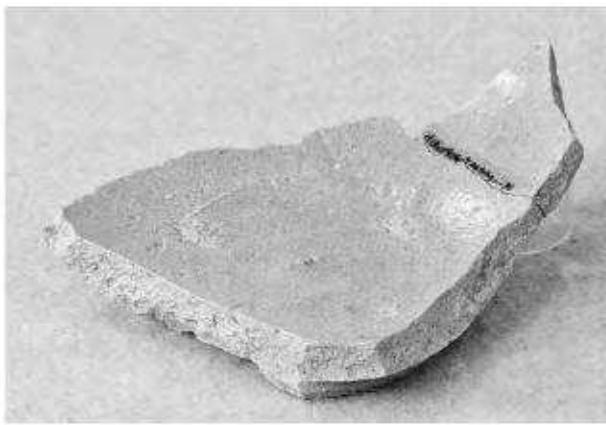


写真443 215-1

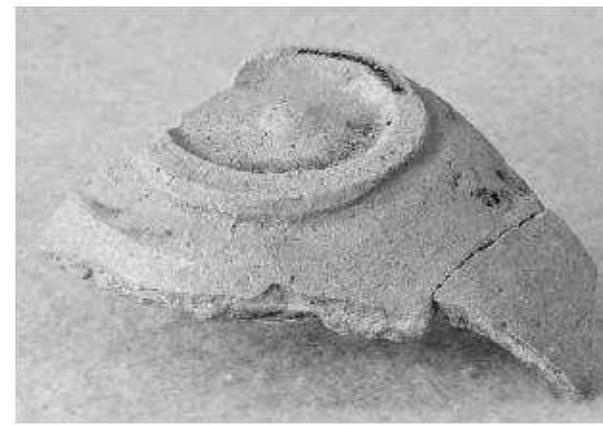


写真444 215-2

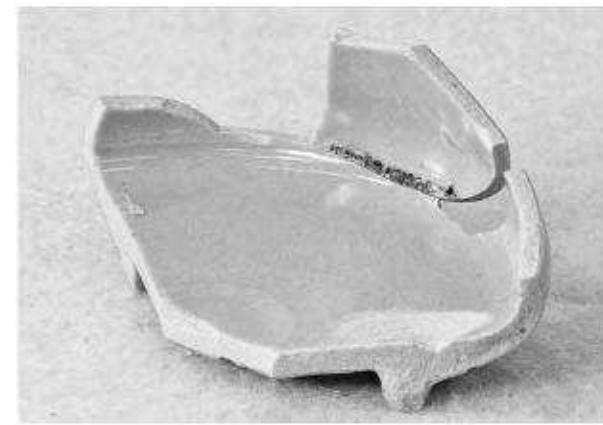


写真451 219-1

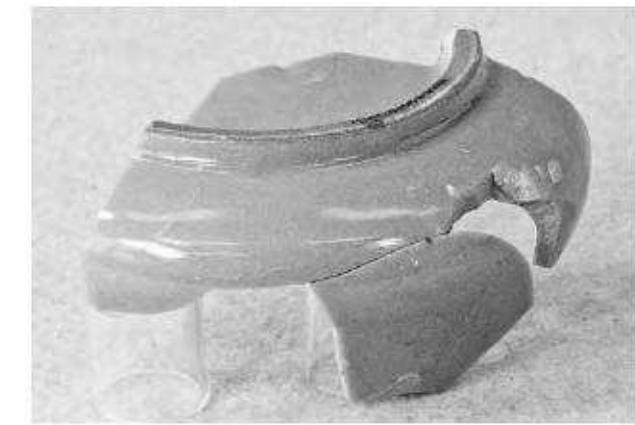


写真452 219-2



写真445 216-1



写真446 216-2



写真453 220-1



写真454 220-2



写真447 217-1



写真448 217-2



写真455 221-1



写真456 221-2



写真457 222-1



写真458 222-2



写真465 226-1



写真466 226-2



写真459 223-1



写真460 223-2

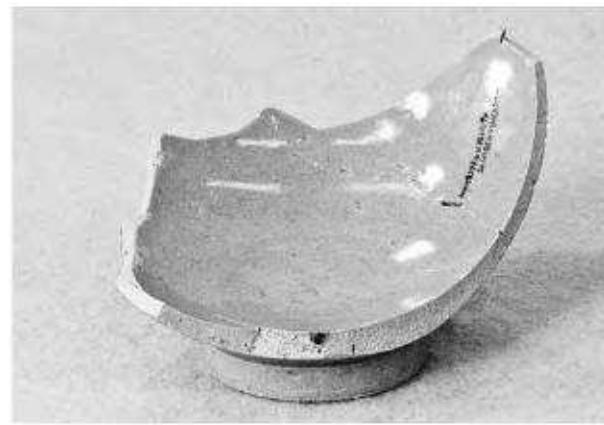


写真467 227-1



写真468 227-2



写真461 224-1



写真462 224-2



写真469 228-1



写真470 228-2



写真463 225-1



写真464 225-2



写真471 229-1



写真472 229-2



写真473 230-1



写真474 230-2



写真481 233-1



写真482 233-2



写真475 231-1



写真476 231-2



写真483 234-1



写真484 234-2



写真477 232-1



写真478 232-2



写真485 235-1



写真486 235-2



写真479 232-3

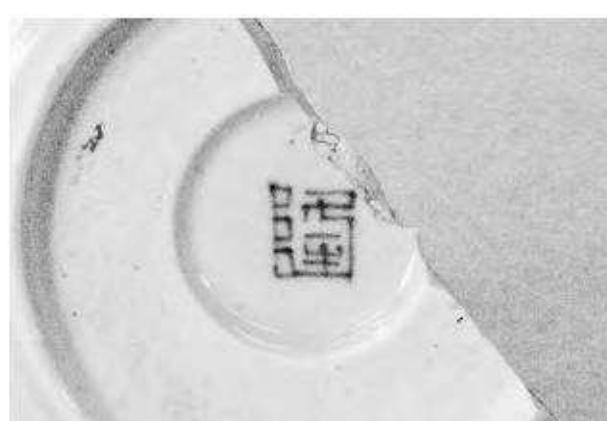


写真480 232-4



写真487 236-1



写真488 236-2



写真489 237-1



写真490 237-2



写真497 241-1



写真498 241-2

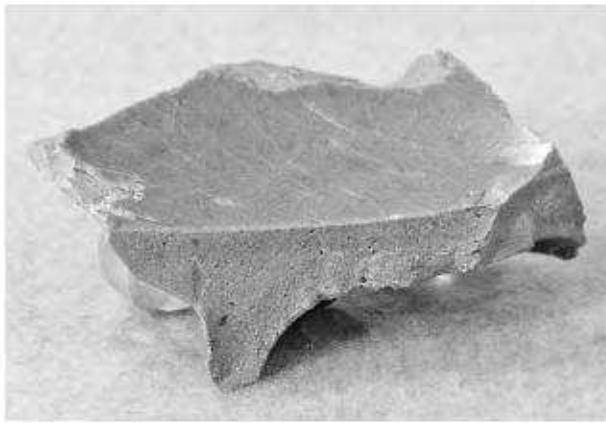


写真491 238-1



写真492 238-2



写真499 242-1



写真500 242-2

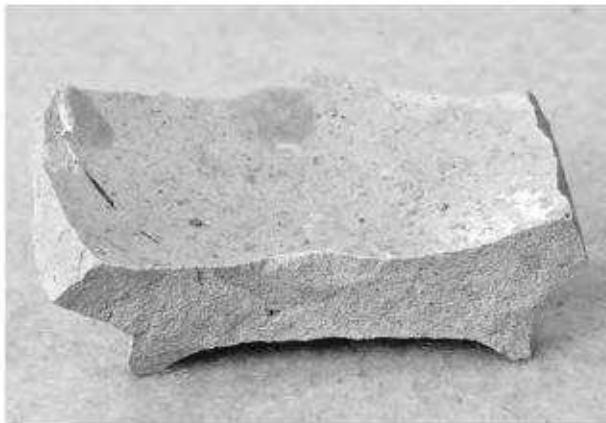


写真493 239-1



写真494 239-2



写真501 243-1

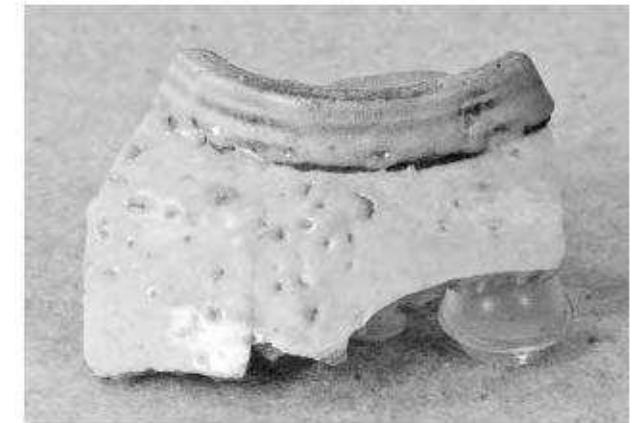


写真502 243-2



写真495 240-1



写真496 240-2



写真503 244-1



写真504 244-2

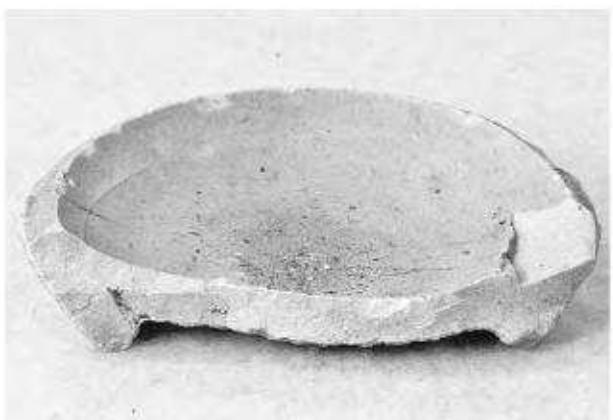


写真505 245-1



写真506 245-2



写真513 249-1



写真514 249-2



写真507 246-1



写真508 246-2



写真515 250-1



写真516 250-2



写真509 247-1



写真510 247-2



写真517 251-1



写真518 251-2



写真511 248-1



写真512 248-2



写真519 252-1



写真520 252-2

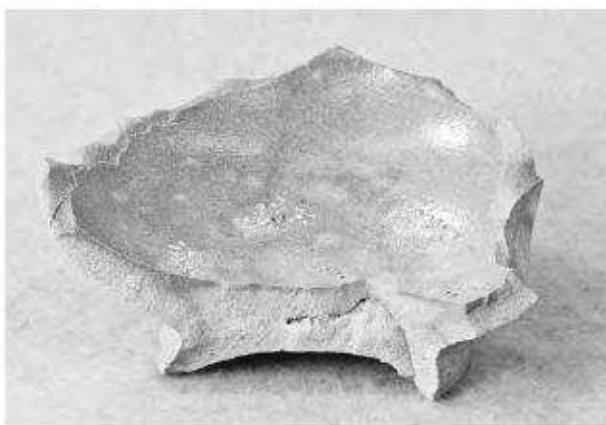


写真521 253-1



写真522 253-2



写真529 257-1



写真530 257-2



写真523 254-1



写真524 254-2

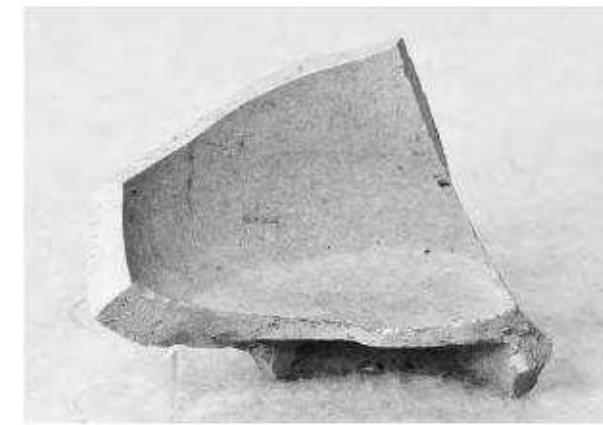


写真531 258-1



写真532 258-2

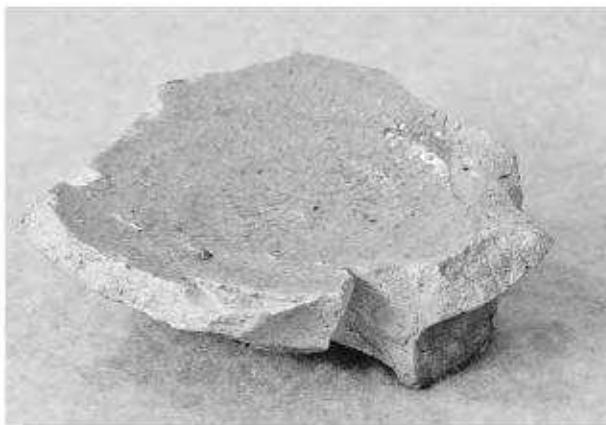


写真525 255-1



写真526 255-2



写真533 259-1



写真534 259-2



写真527 256-1



写真528 256-2



写真535 260-1



写真536 260-2



写真537 261-1

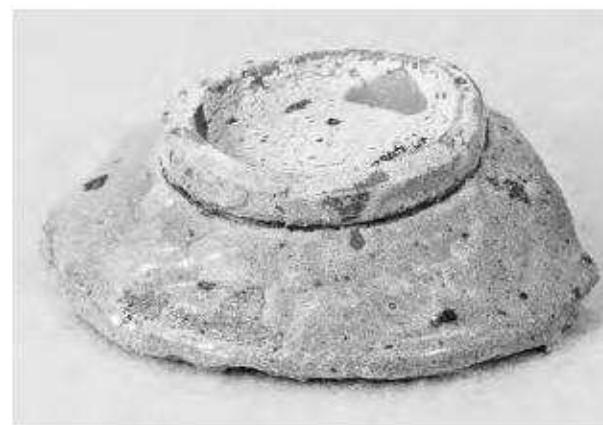


写真538 261-2

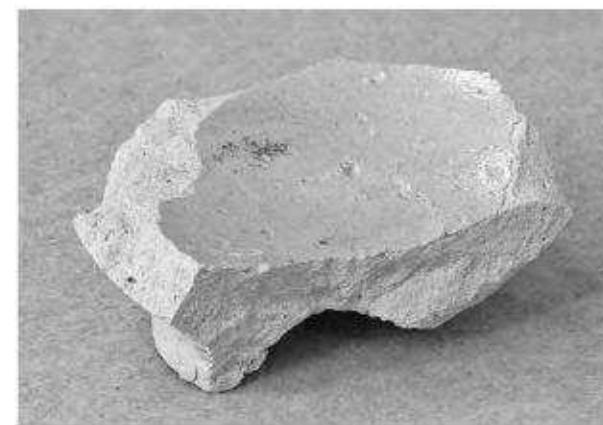


写真545 265-1



写真546 265-2

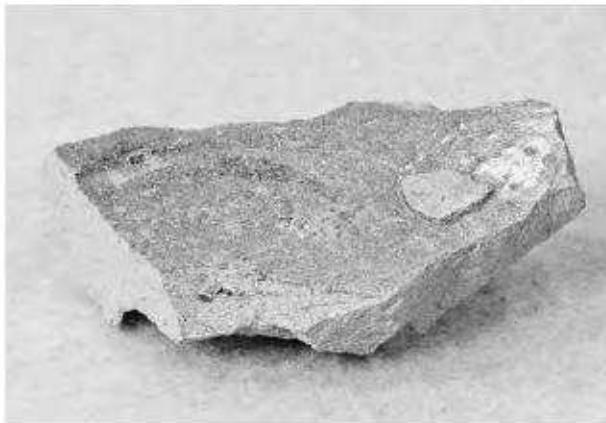


写真539 262-1

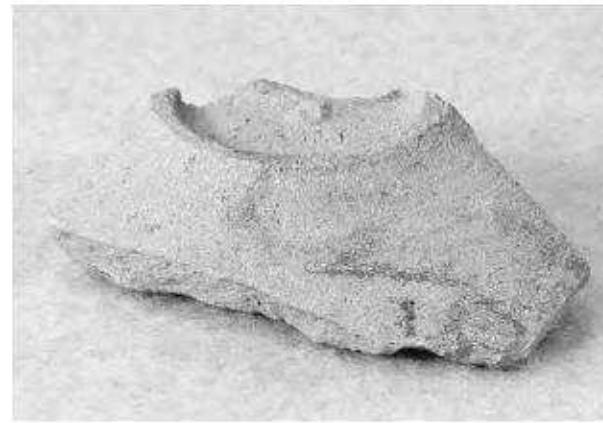


写真540 262-2

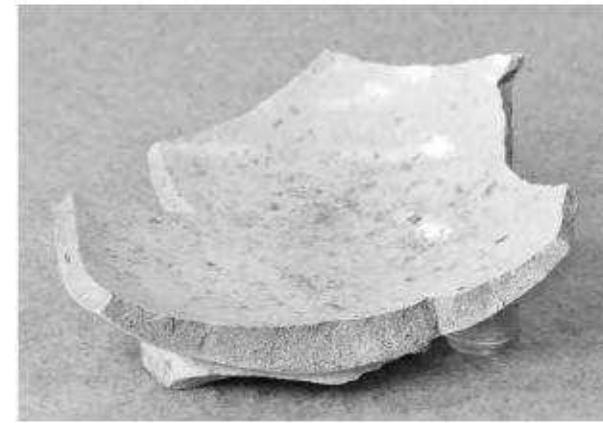


写真547 266-1



写真548 266-2

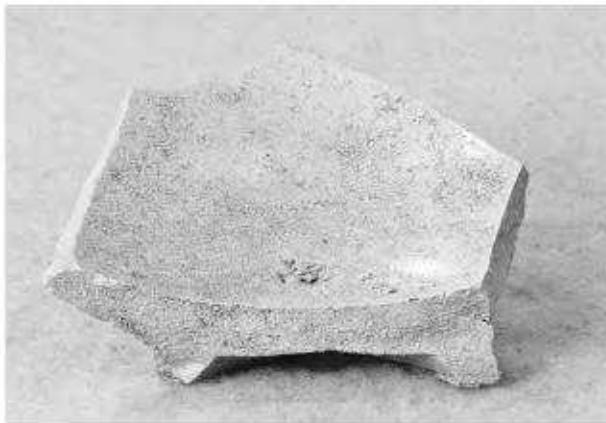


写真541 263-1



写真542 263-2



写真549 267-1



写真550 267-2

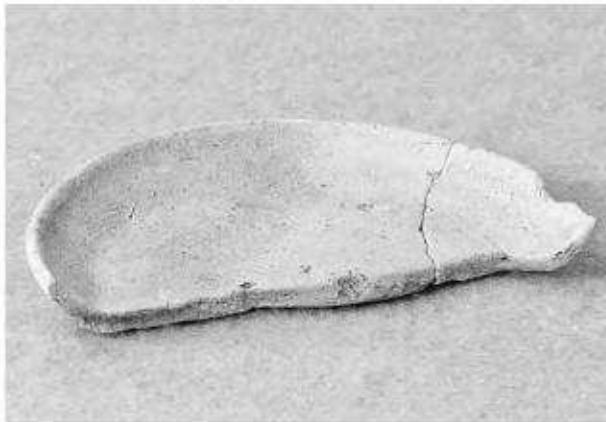


写真543 264-1

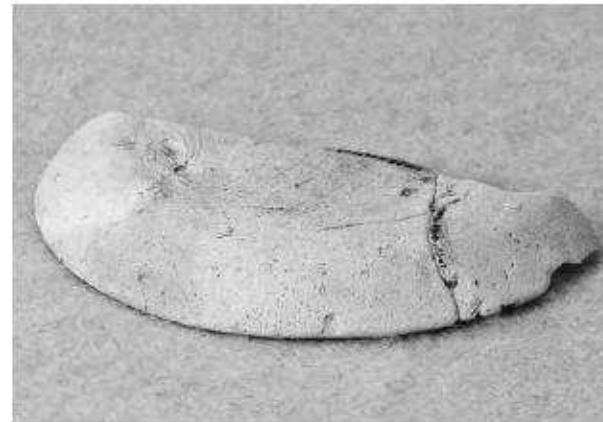


写真544 264-2



写真551 268-1



写真552 268-2

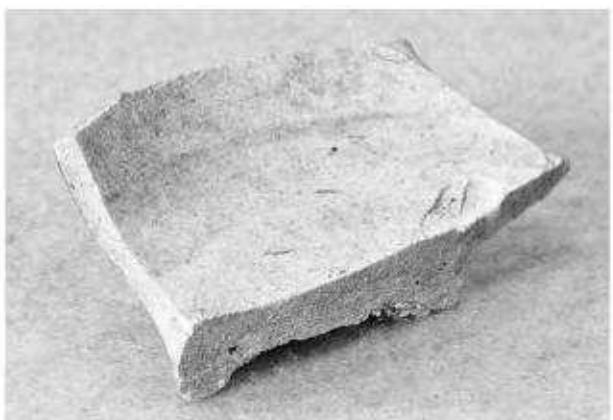


写真553 269-1



写真554 269-2



写真561 273-1



写真562 273-2



写真555 270-1



写真556 270-2



写真563 274-1



写真564 274-2



写真557 271-1



写真558 271-2



写真565 275-1



写真566 275-2



写真559 272-1



写真560 272-2



写真567 276-1



写真568 276-2



写真569 277-1



写真570 277-2

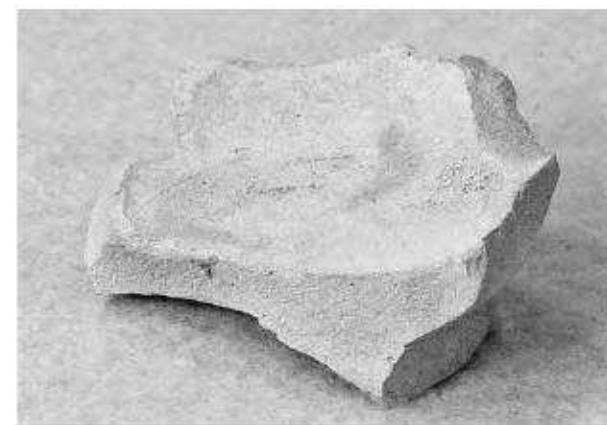


写真577 281-1



写真578 281-2

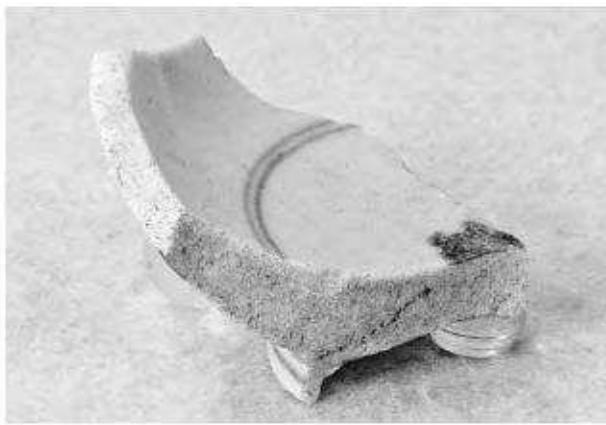


写真571 278-1

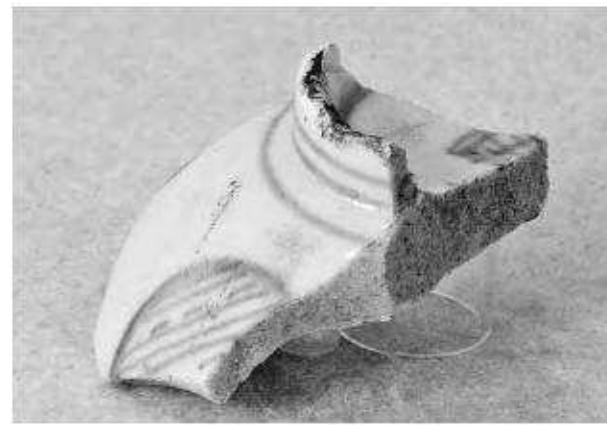


写真572 278-2



写真579 282-1



写真580 282-2

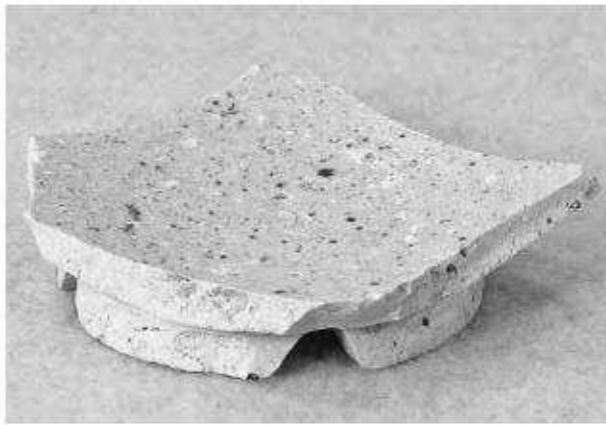


写真573 279-1

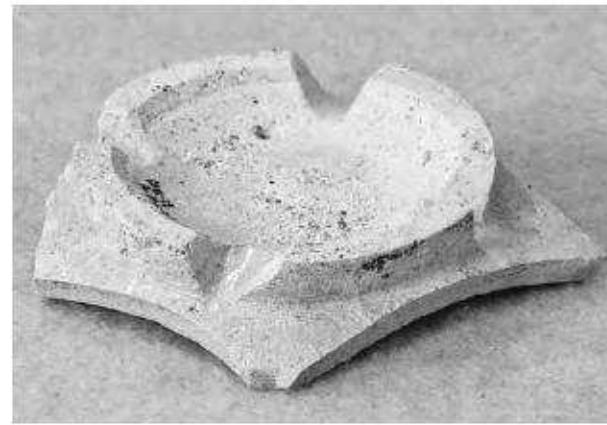


写真574 279-2

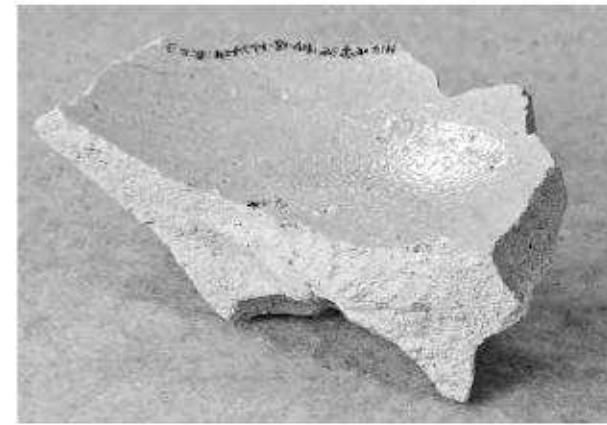


写真581 283-1



写真582 283-2



写真575 280-1



写真576 280-2



写真583 284-1

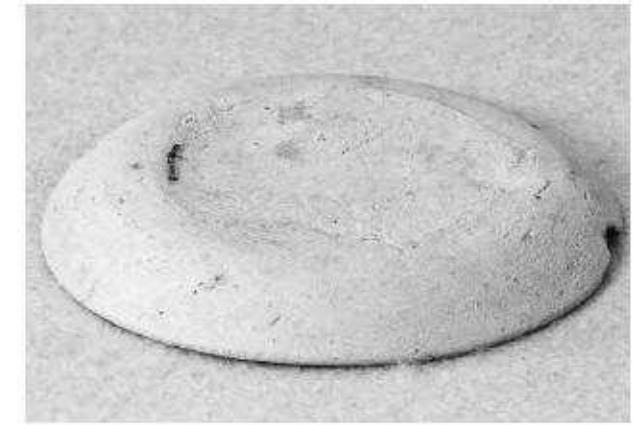


写真584 284-2



写真585 285-1



写真586 285-2



写真593 289-1



写真594 289-2



写真587 286-1



写真588 286-2



写真595 290-1



写真596 290-2

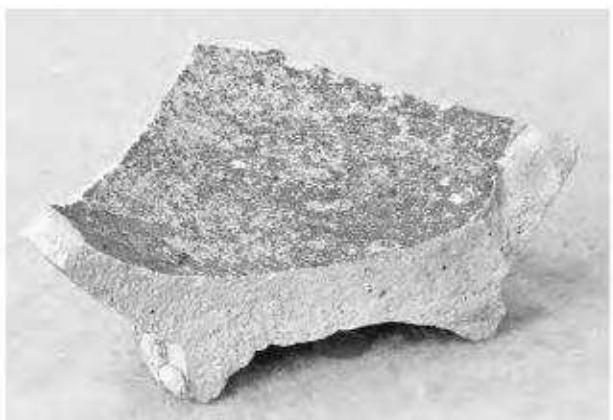


写真589 287-1



写真590 287-2



写真597 291-1



写真598 291-2



写真591 288-1



写真592 288-2



写真599 292-1



写真600 292-2

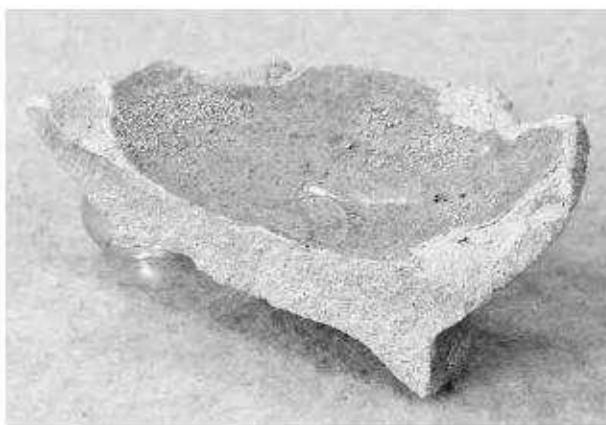


写真601 293-1



写真602 293-2



写真609 296-1



写真610 296-2



写真603 294-1



写真604 294-2



写真611 297-1



写真612 297-2



写真605 294-3



写真606 295-1

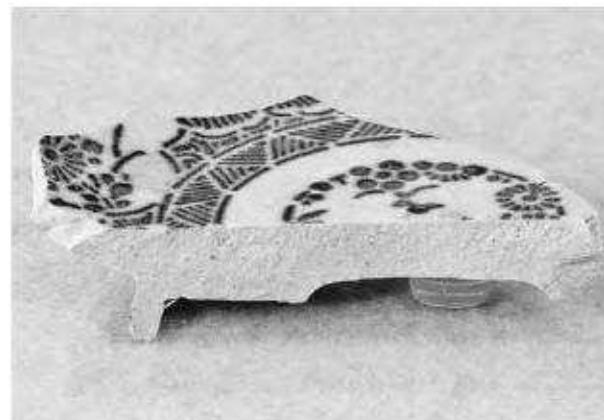


写真613 298-1



写真614 298-2



写真607 295-2



写真608 295-3



写真615 299-1



写真616 299-2

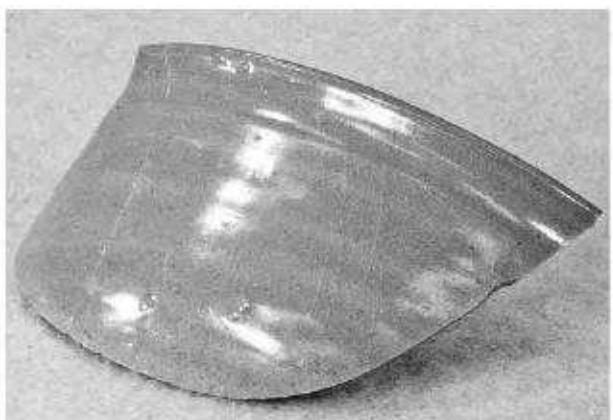


写真617 300-1

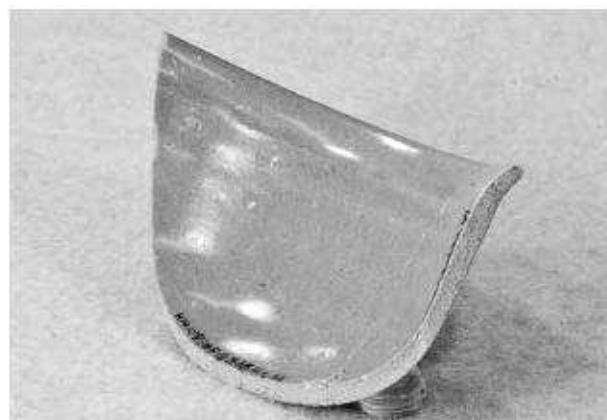


写真618 300-2

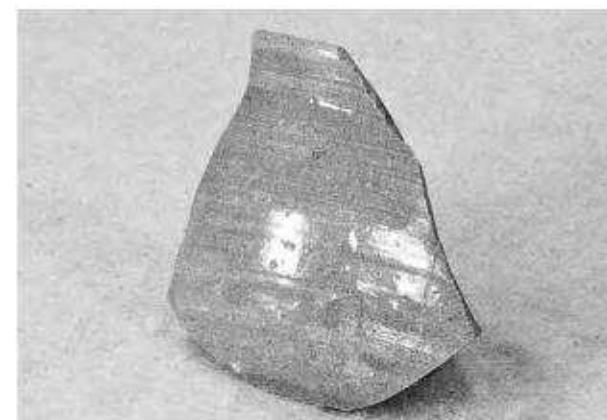


写真625 304-1

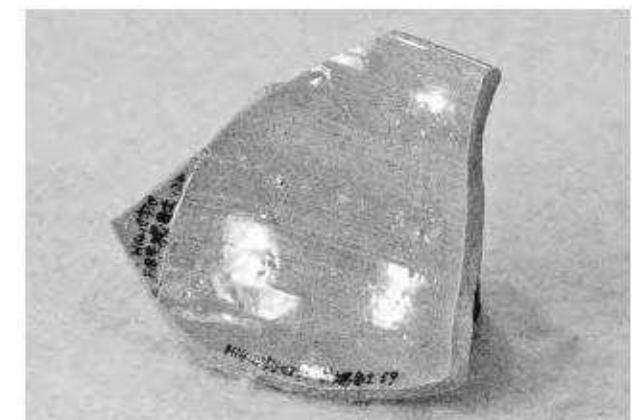


写真626 304-2



写真619 301-1



写真620 301-2

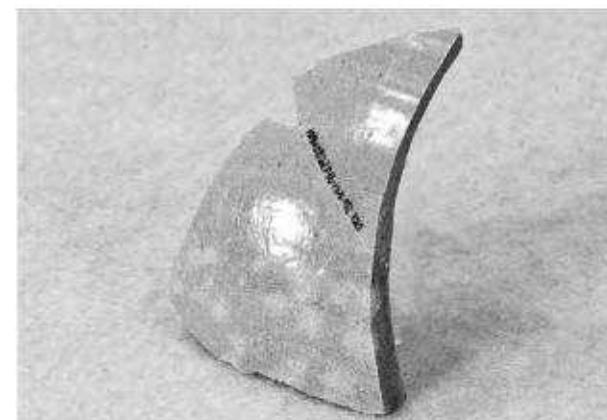


写真627 305-1

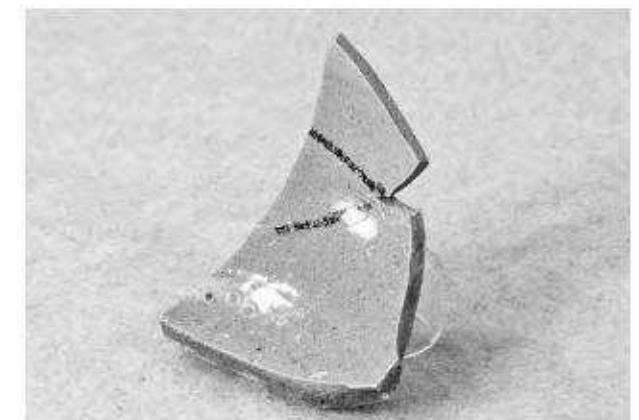


写真628 305-2



写真621 302-1

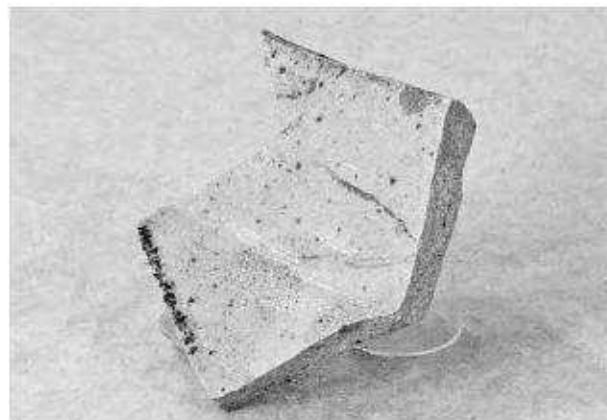


写真622 302-2



写真629 306-1



写真630 306-2



写真623 303-1



写真624 303-2

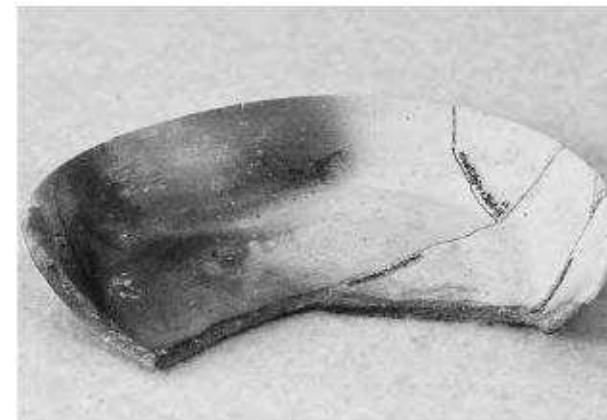


写真631 307-1

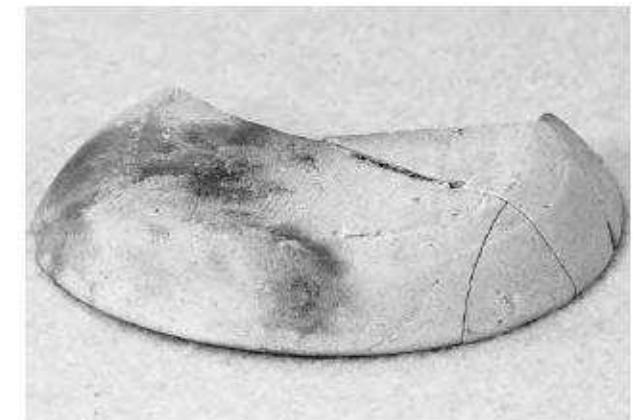


写真632 307-2

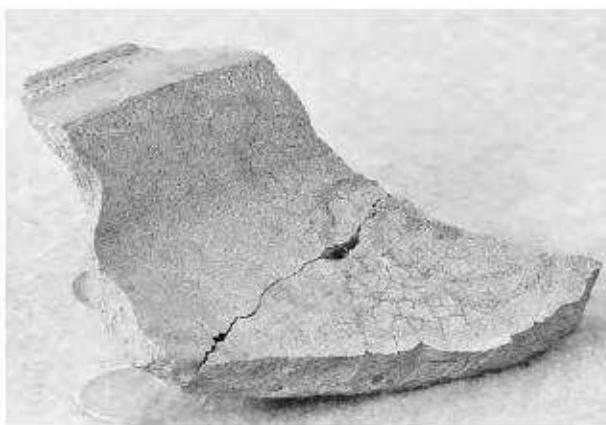


写真633 308-1

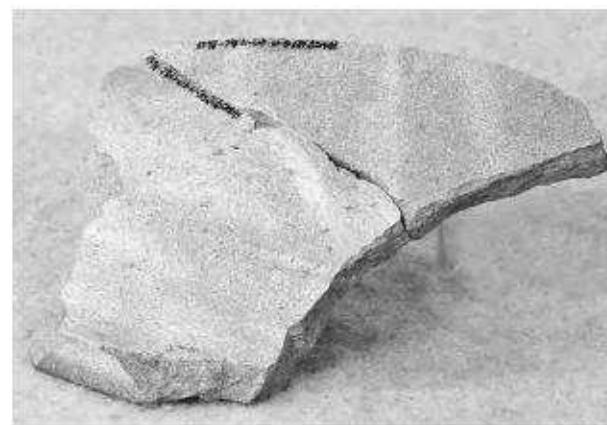


写真634 308-2

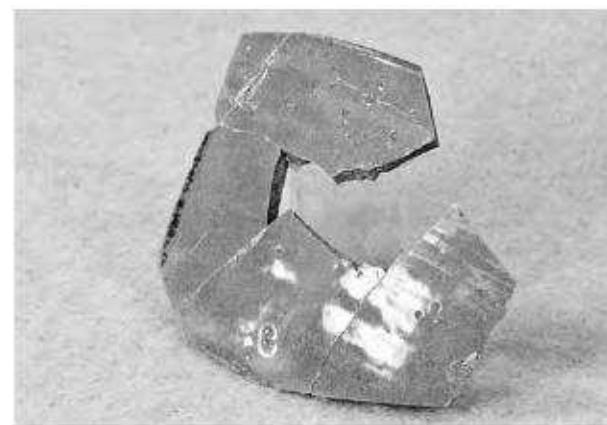


写真641 312-1

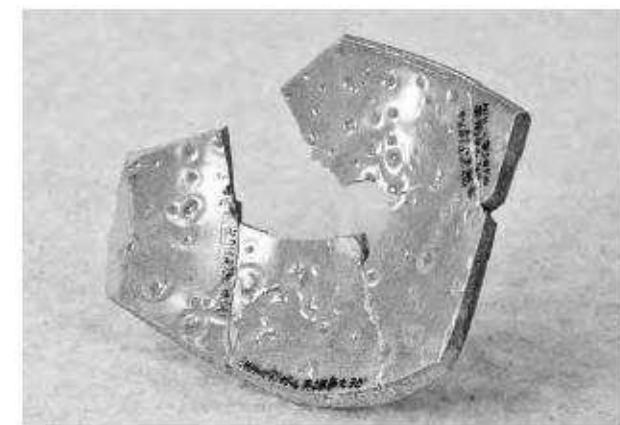


写真642 312-2



写真635 309-1



写真636 309-2



写真643 313-1



写真644 313-2

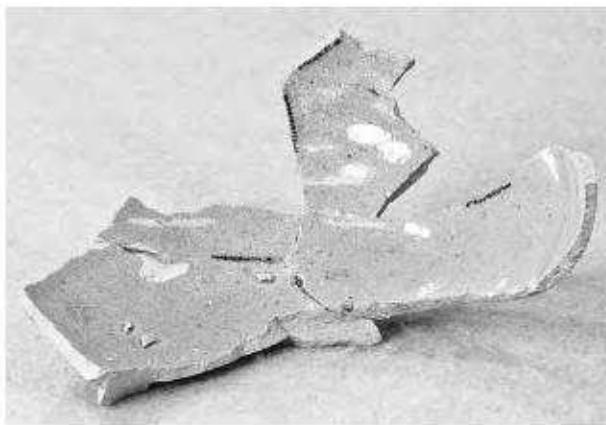


写真637 310-1

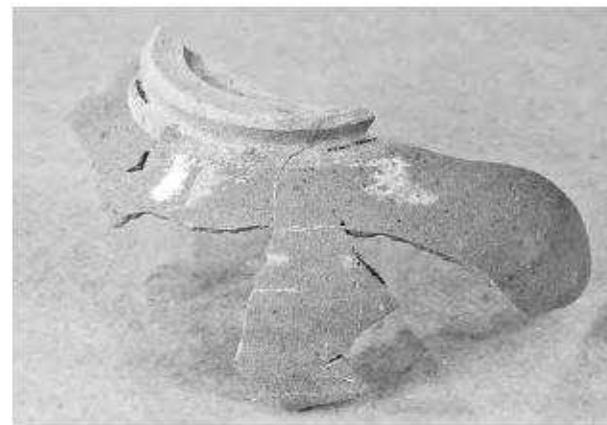


写真638 310-2

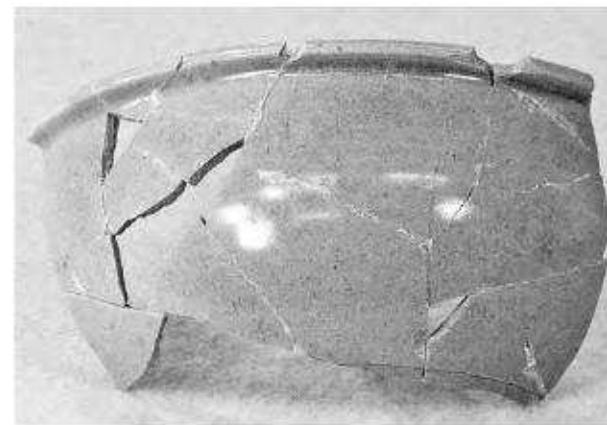


写真645 314-1

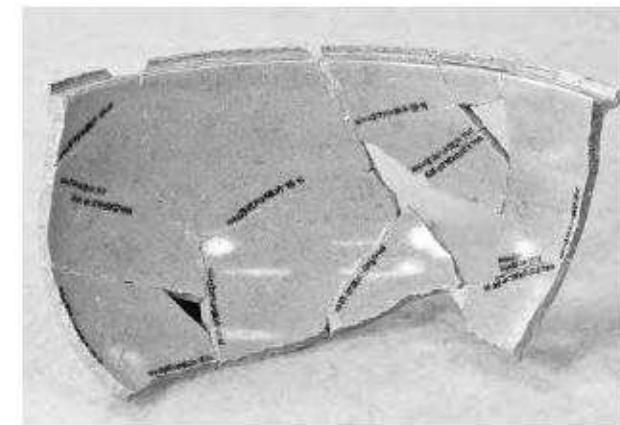


写真646 314-2

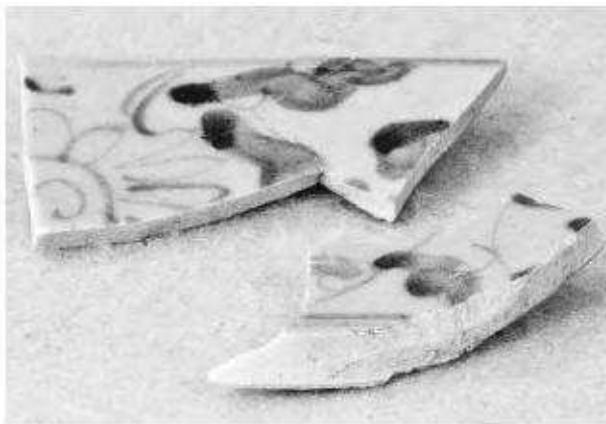


写真639 311-1



写真640 311-2



写真647 315-1



写真648 315-2

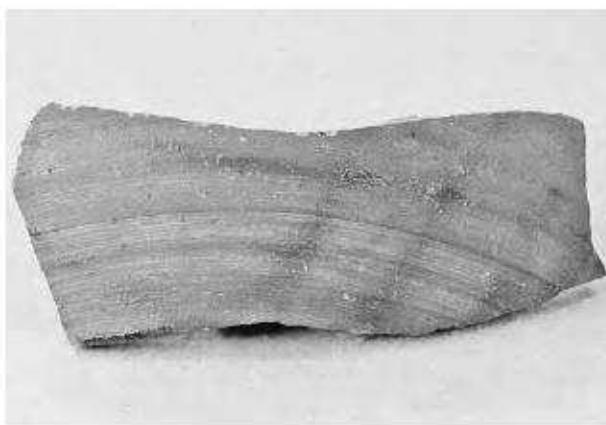


写真649 316-1

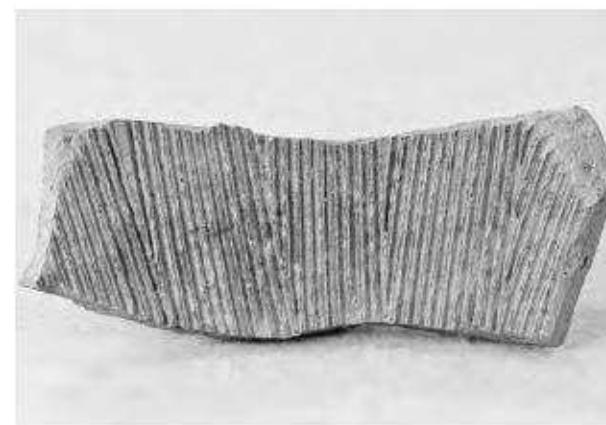


写真650 316-2



写真657 319-2

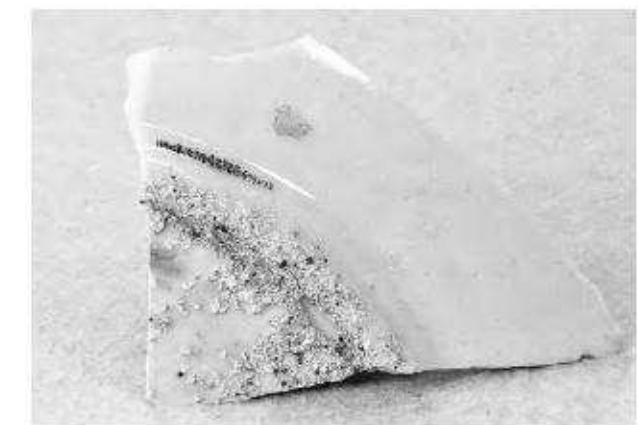


写真658 319-3



写真651 317-1

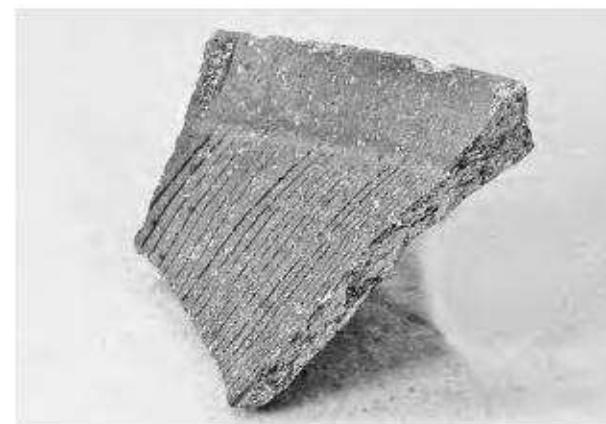


写真652 317-2



写真659 320-1



写真660 320-2



写真653 318-1



写真654 318-2



写真661 321-1



写真662 321-2



写真655 318-3



写真656 319-1



写真663 322-1



写真664 322-2



写真665 323-1

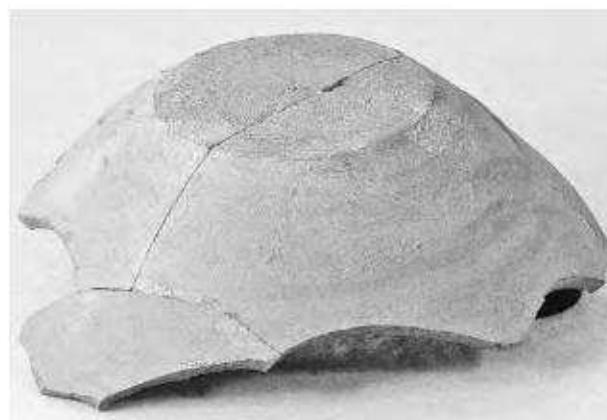


写真666 323-2



写真673 327-1



写真674 327-2

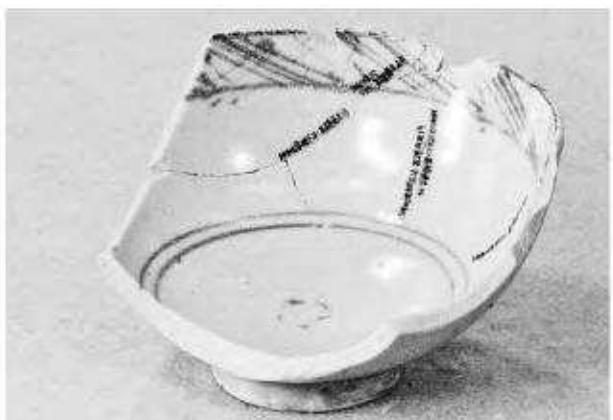


写真667 324-1



写真668 324-2

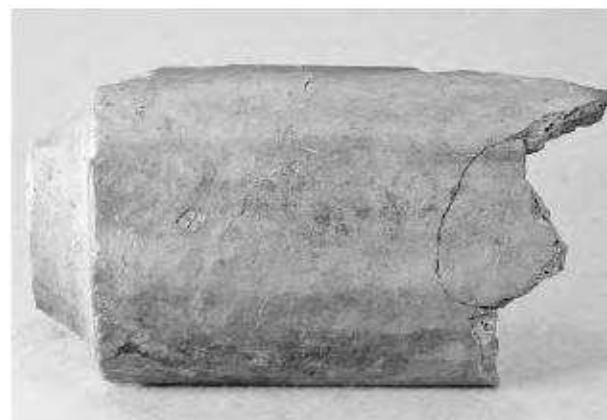


写真675 327-3



写真676 327-4

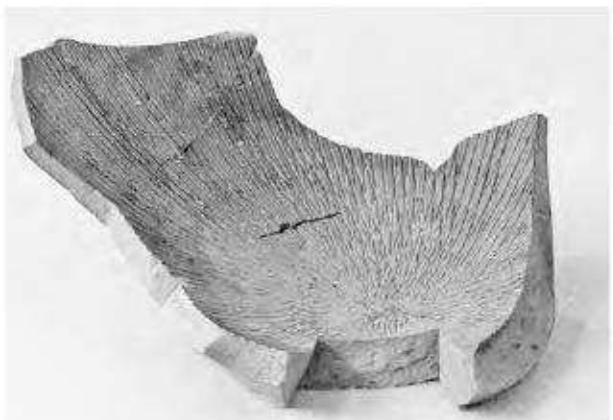


写真669 325-1

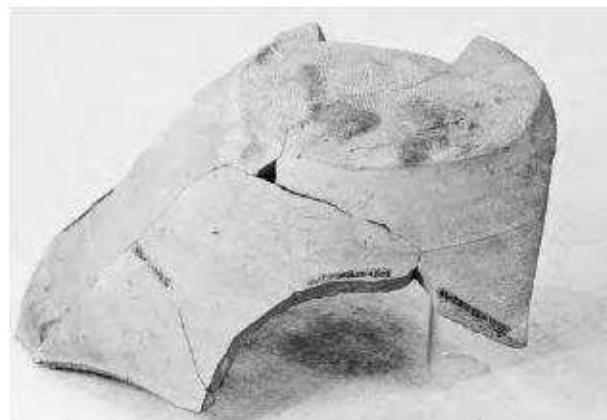


写真670 325-2



写真677 328-1



写真678 328-2

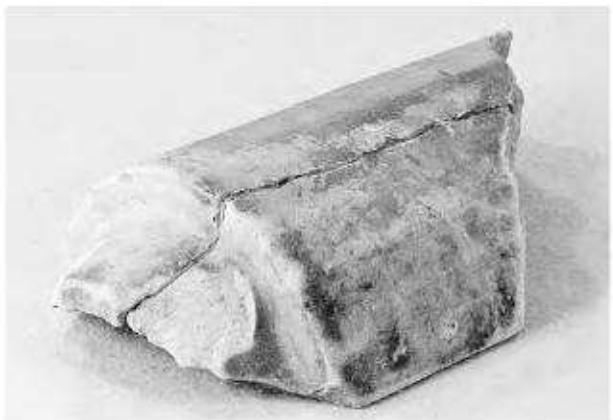


写真671 326-1



写真672 326-2



写真679 329-1



写真680 329-2



写真681 330-1



写真682 330-2



写真689 332-3



写真690 332-4



写真683 331-1



写真684 331-2



写真691 333-1

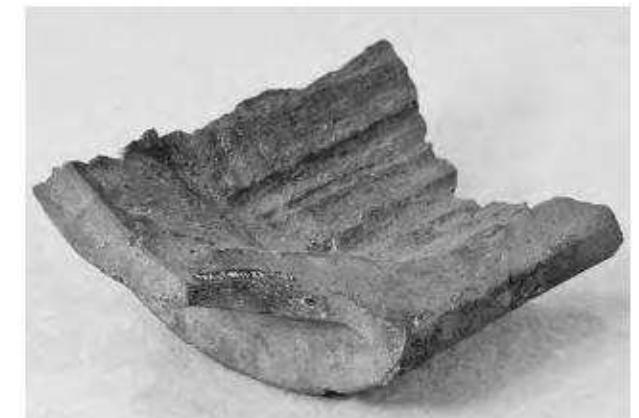


写真692 333-2



写真685 331-3



写真686 331-4



写真693 333-3



写真694 333-4



写真687 332-1



写真688 332-2



写真695 334-1



写真696 334-2



写真697 335-1



写真698 335-2



写真705 339-1



写真706 339-2



写真699 336-1

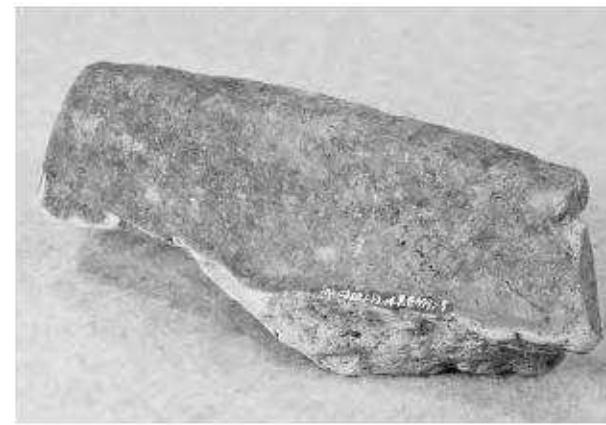


写真700 336-2

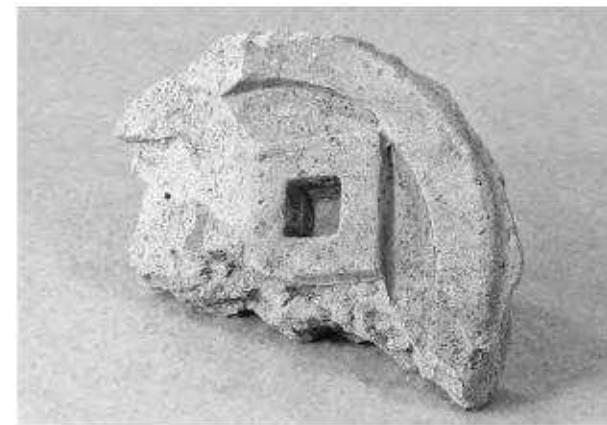


写真707 340-1



写真708 340-2



写真701 337-1



写真702 337-2



写真709 341-1

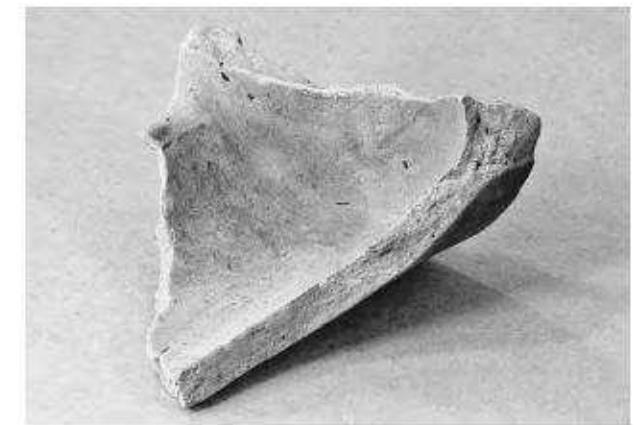


写真710 341-2



写真703 338-1



写真704 338-2



写真711 342-1



写真712 342-2



写真713 343-1



写真714 343-2



写真721 347-1



写真722 347-2



写真715 344-1

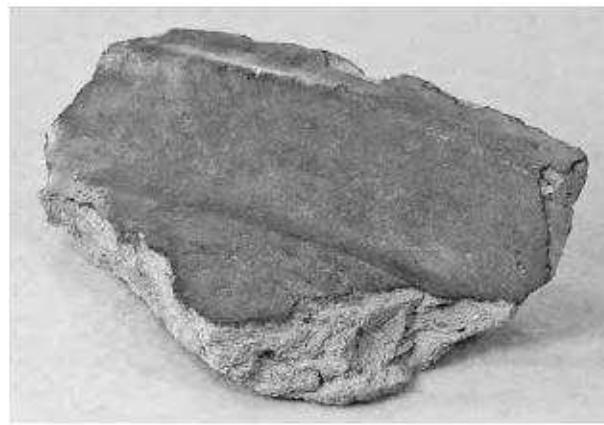


写真716 344-2



写真723 348-1

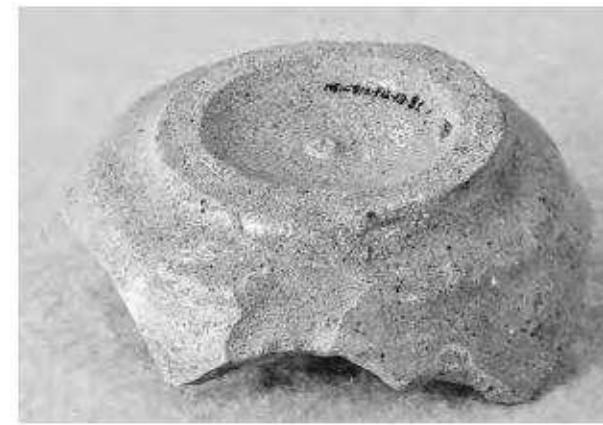


写真724 348-2



写真717 345-1



写真718 345-2



写真725 349-1

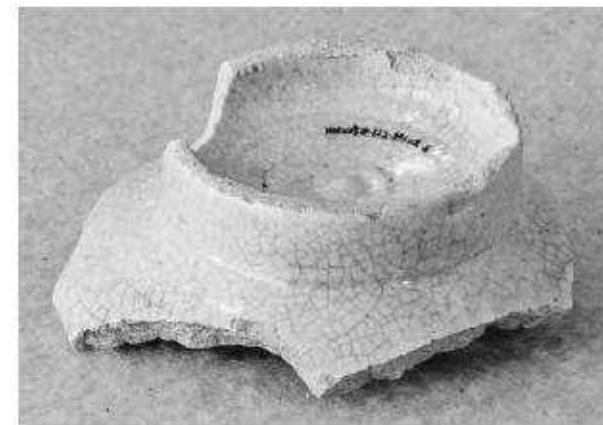


写真726 349-2



写真719 346-1



写真720 346-2



写真727 350-1



写真728 350-2



写真729 351-1



写真730 351-2



写真737 355-1



写真738 355-2



写真731 352-1



写真732 352-2



写真739 356-1



写真740 356-2



写真733 353-1



写真734 353-2

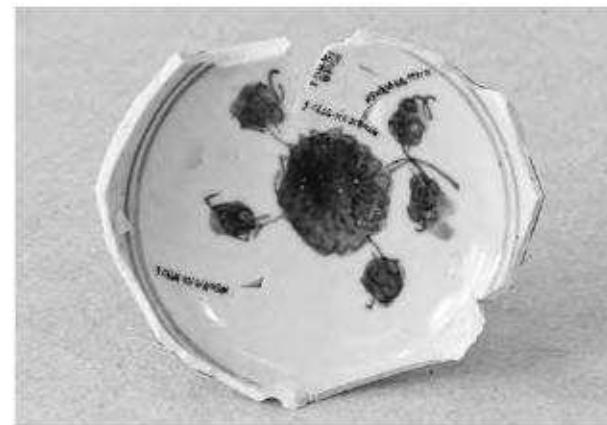


写真741 356-3



写真742 356-4



写真735 354-1



写真736 354-2



写真743 357-1

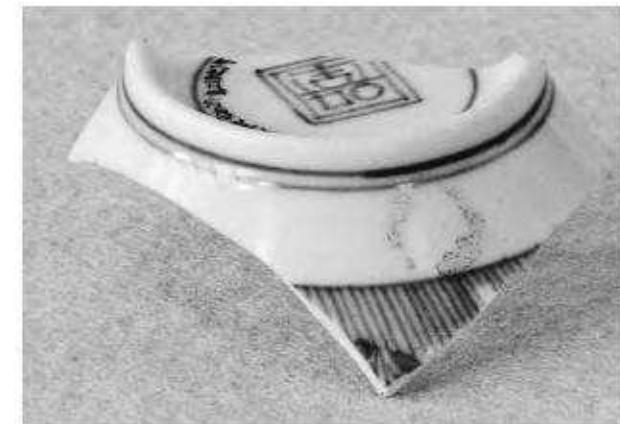


写真744 357-2



写真745 357-3



写真746 357-4



写真753 361-1



写真754 361-2



写真747 358-1



写真748 358-2

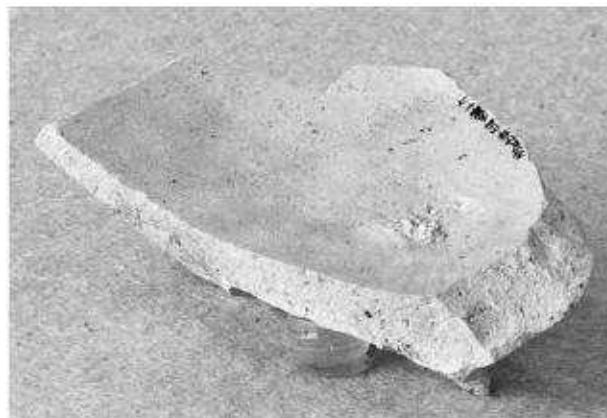


写真755 362-1



写真756 362-2

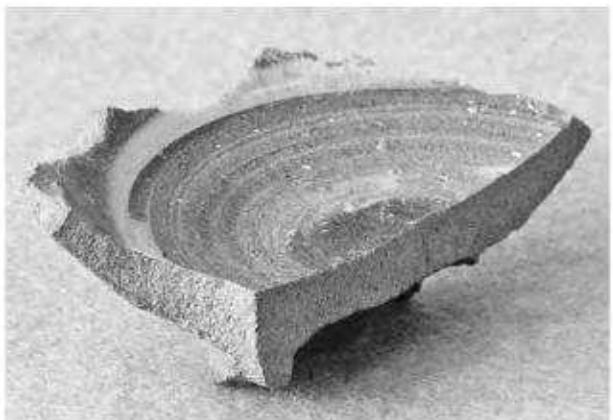


写真749 359-1



写真750 359-2



写真757 363-1

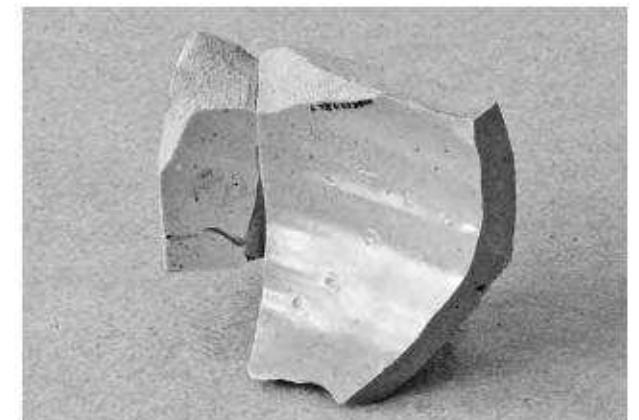


写真758 363-2

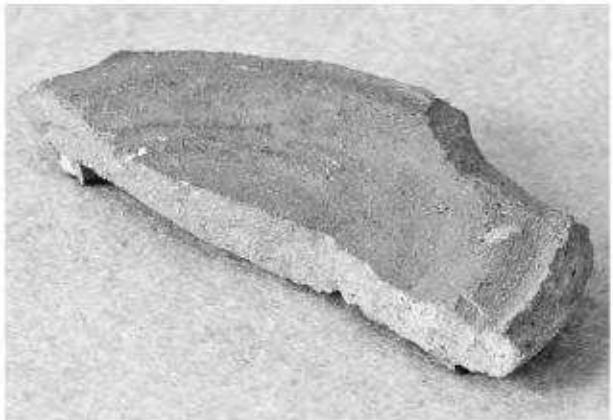


写真751 360-1

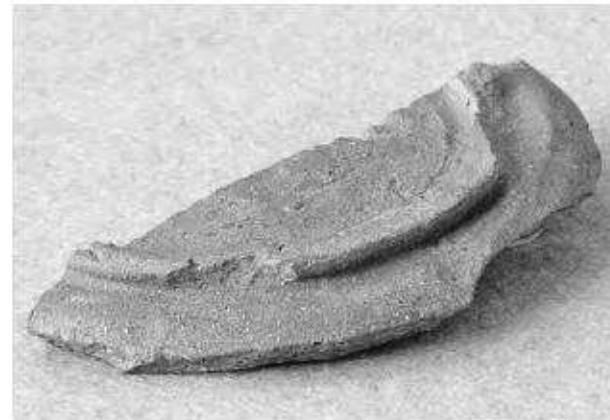


写真752 360-2

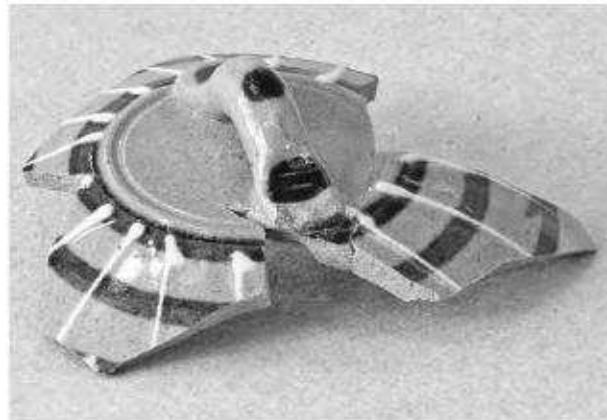


写真759 364-1

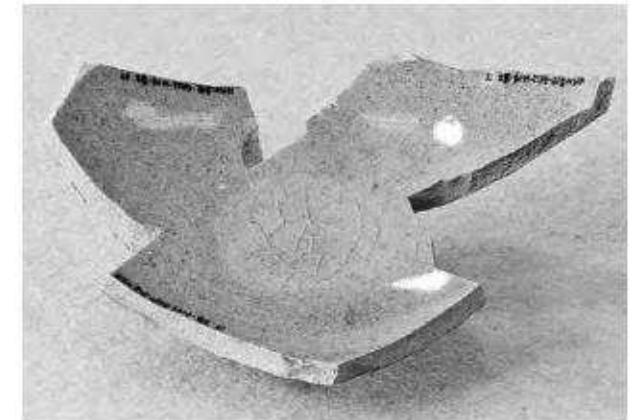


写真760 364-2

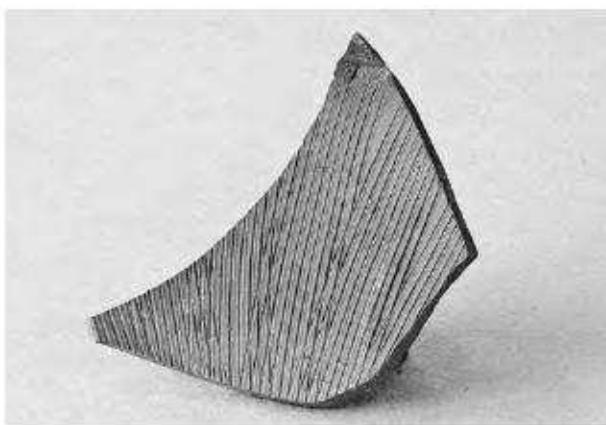


写真761 365-1



写真762 365-2



写真769 369-1



写真770 369-2



写真763 366-1

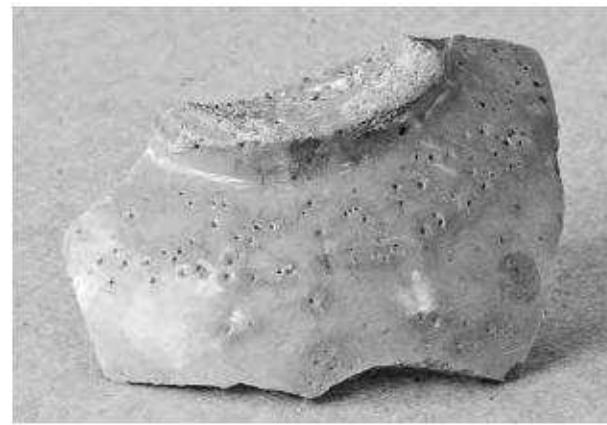


写真764 366-2

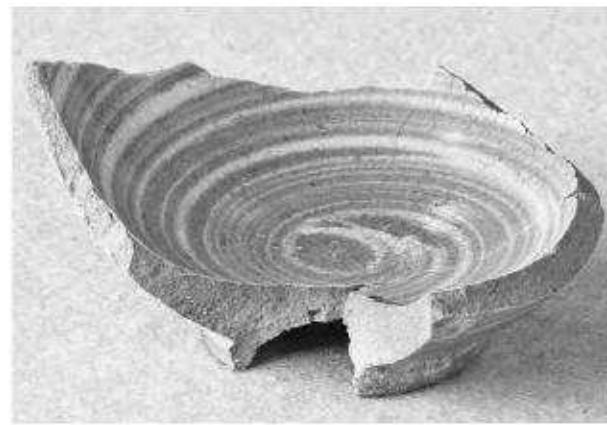


写真771 370-1



写真772 370-2

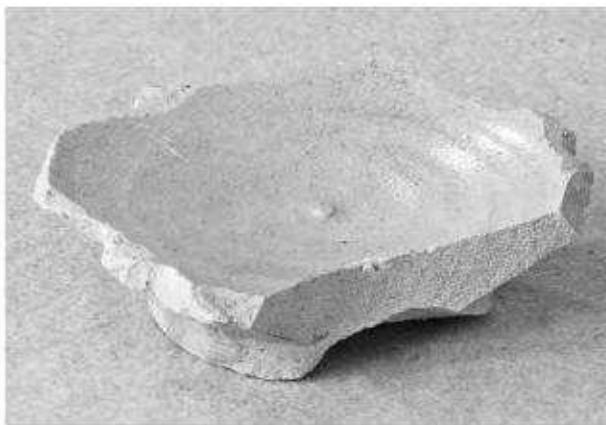


写真765 367-1



写真766 367-2

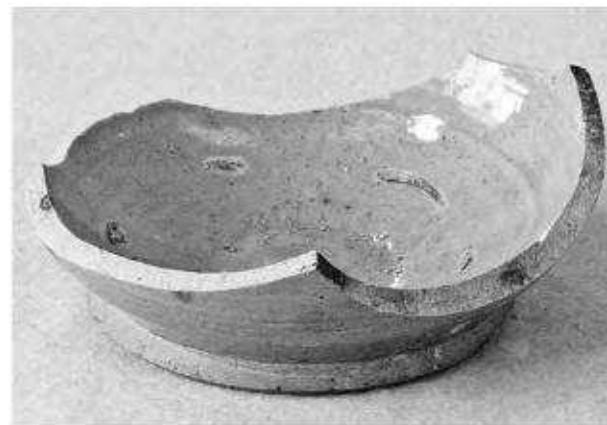


写真773 371-1



写真774 371-2

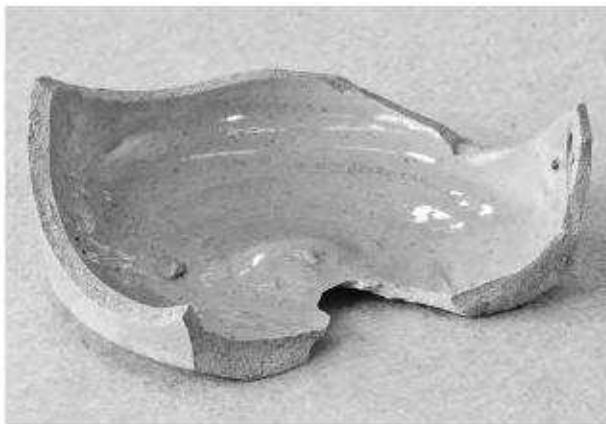


写真767 368-1

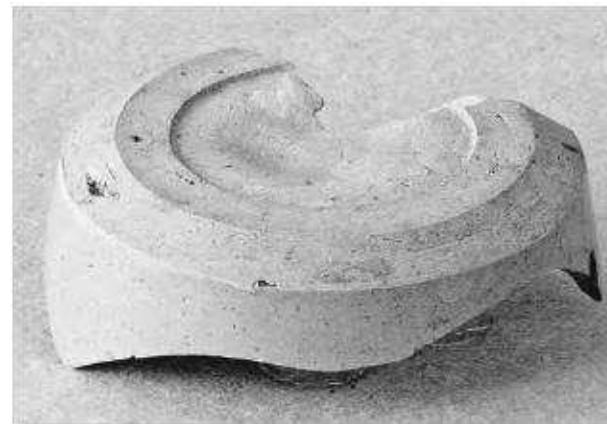


写真768 368-2



写真775 372-1



写真776 372-2

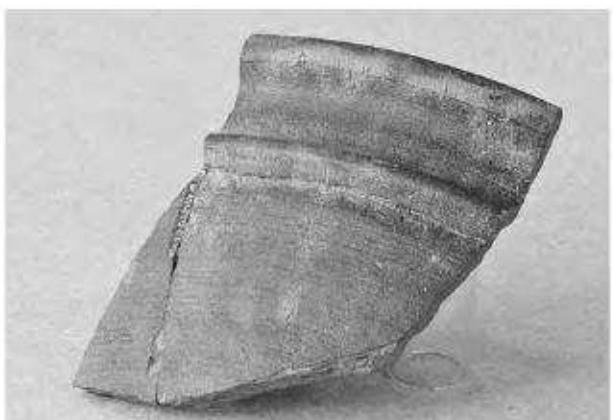


写真777 373-1



写真778 373-2

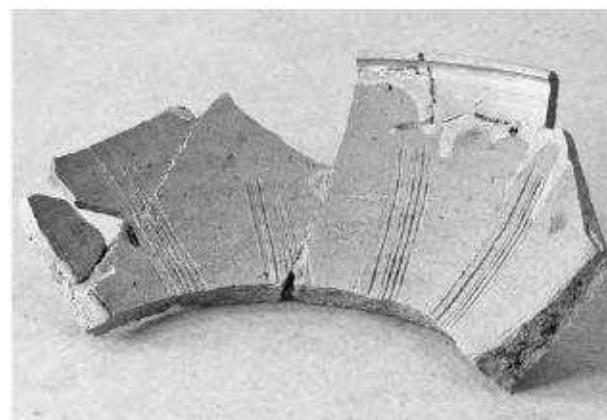


写真785 377-1

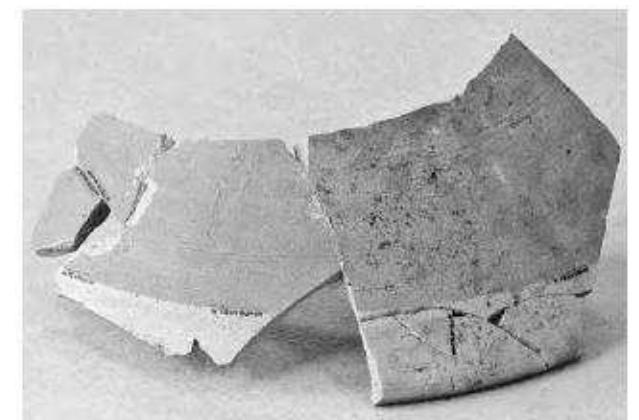


写真786 377-2



写真779 374-1



写真780 374-2

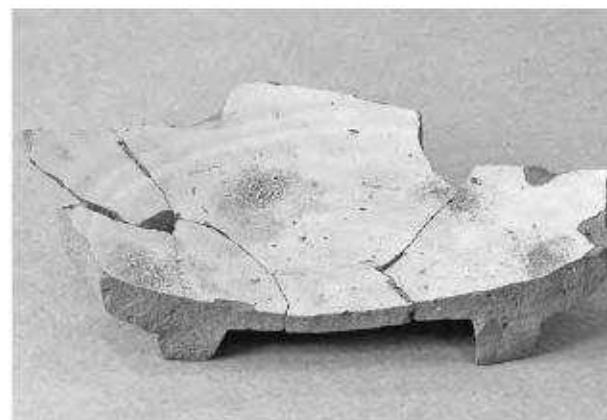


写真787 378-1



写真788 378-2

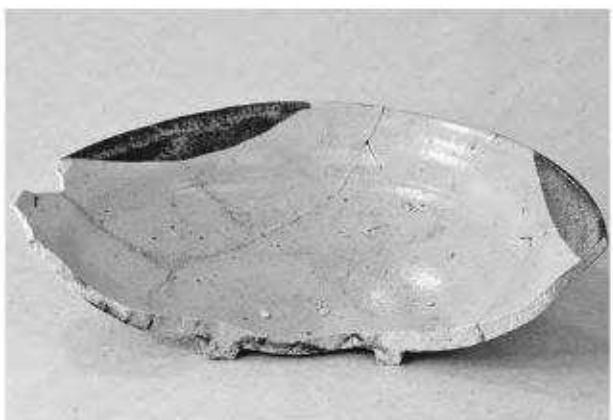


写真781 375-1



写真782 375-2



写真789 379-1



写真790 379-2



写真783 376-1



写真784 376-2



写真791 380-1

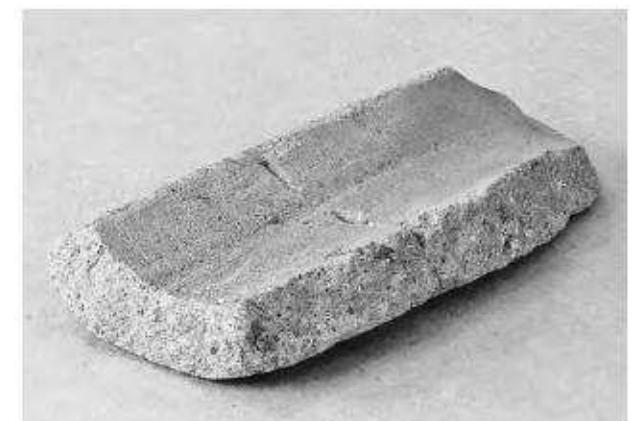


写真792 380-2



写真793 381-1



写真794 381-2



写真801 383-3



写真802 384-1



写真795 381-3

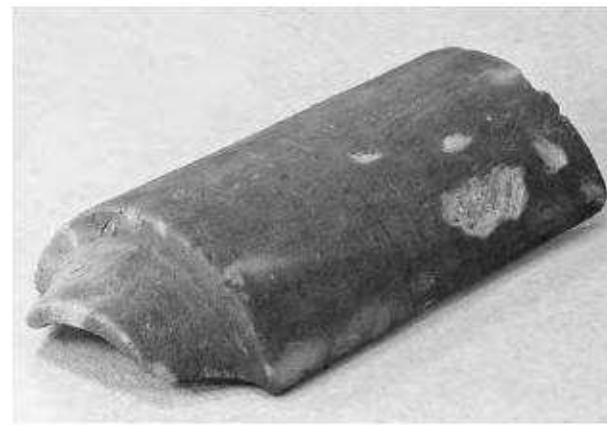


写真796 382-1



写真803 384-2



写真804 384-3



写真797 382-2



写真798 382-3

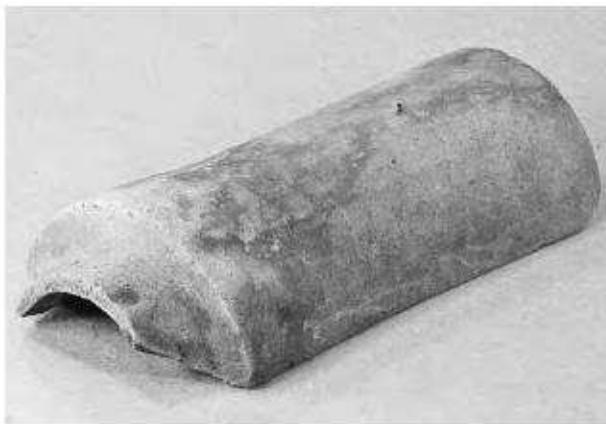


写真799 383-1



写真800 383-2



写真805 385-1



写真806 385-2



写真807 385-3



写真814 387-4



写真815 388-1

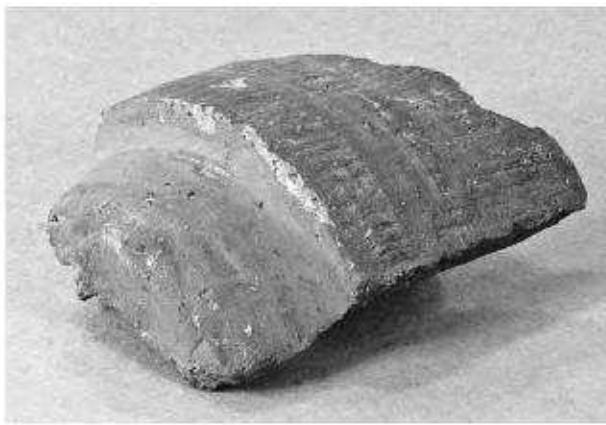


写真808 386-1



写真809 386-2



写真816 388-2



写真817 388-3



写真810 386-3



写真811 387-1



写真818 389-1



写真812 387-2



写真813 387-3



写真819 389-2

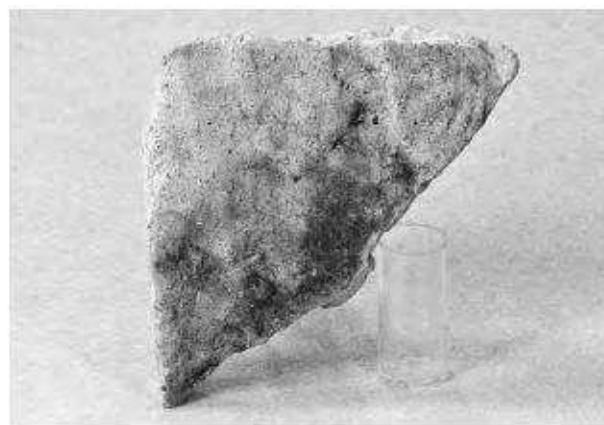


写真820 389-3



写真827 392-1

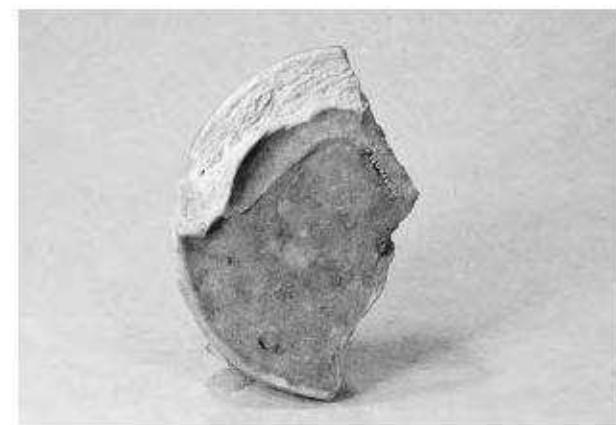


写真828 392-2



写真821 390-1



写真822 390-2



写真829 393-1



写真830 393-2



写真823 390-3



写真824 390-4



写真831 394-1

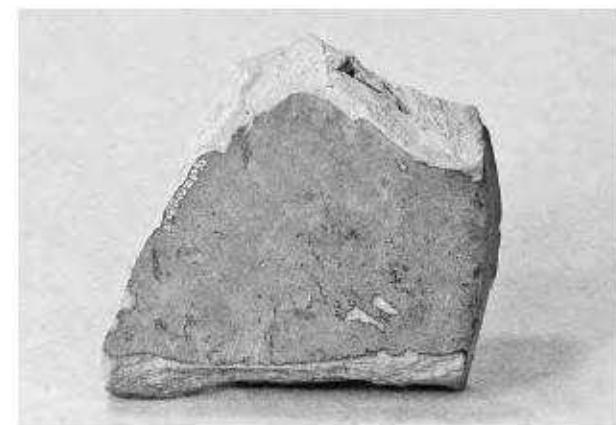


写真832 394-2



写真825 391-1



写真826 391-2



写真833 395-1



写真834 395-2

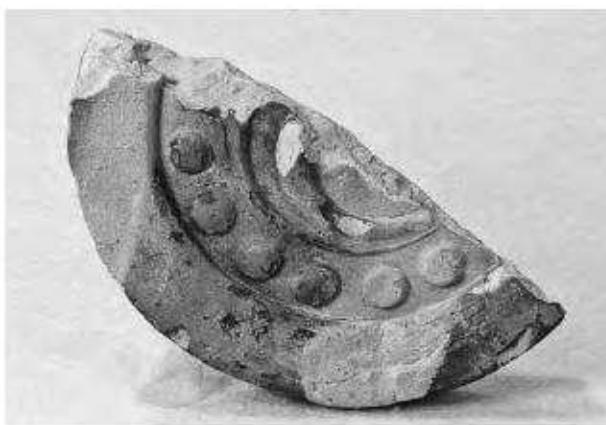


写真835 396-1

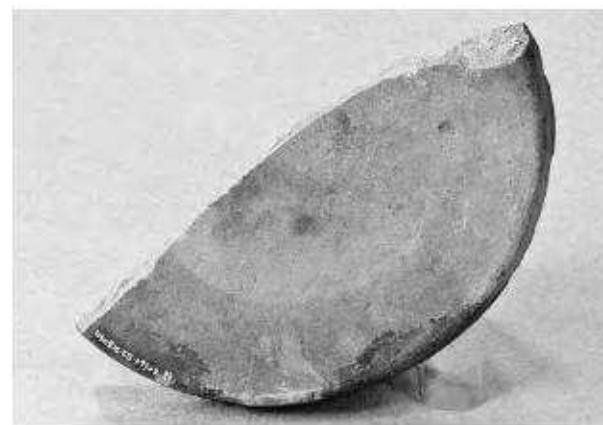


写真836 396-2



写真843 400-1



写真844 400-2



写真837 397-1



写真838 397-2



写真845 401-1



写真846 401-2



写真839 398-1

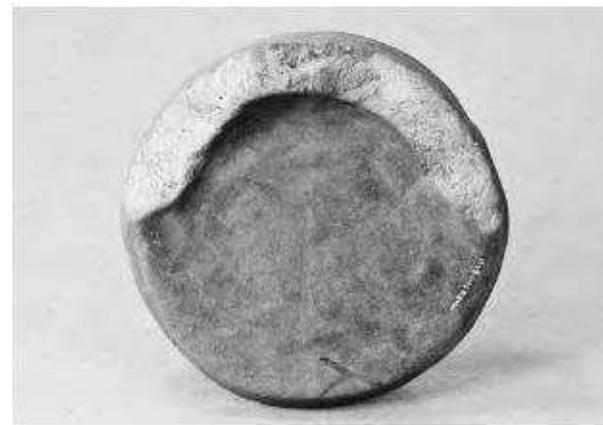


写真840 398-2



写真847 402-1



写真848 402-2



写真841 399-1



写真842 399-2



写真849 402-3



写真850 402-4



写真851 403-1



写真852 403-2



写真859 406-1



写真860 406-2

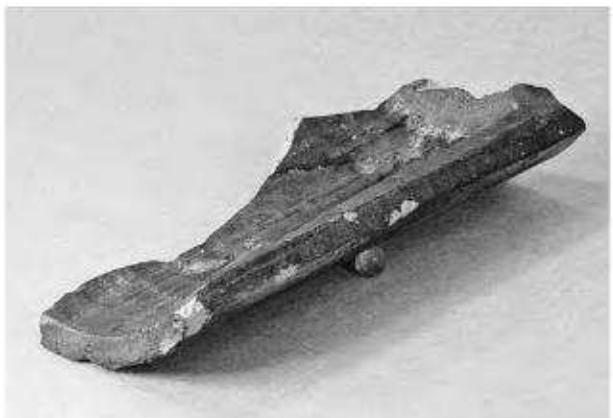


写真853 403-3



写真854 403-4



写真861 407-1



写真862 407-2



写真855 404-1



写真856 404-2



写真863 408-1



写真864 408-2



写真857 405-1



写真858 405-2



写真865 409-1



写真866 409-2



写真867 410-1



写真868 410-2



写真875 414-1



写真876 414-2



写真869 411-1



写真870 411-2

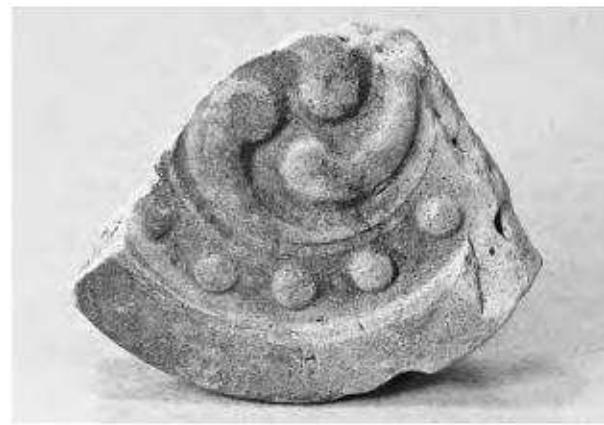


写真877 415-1

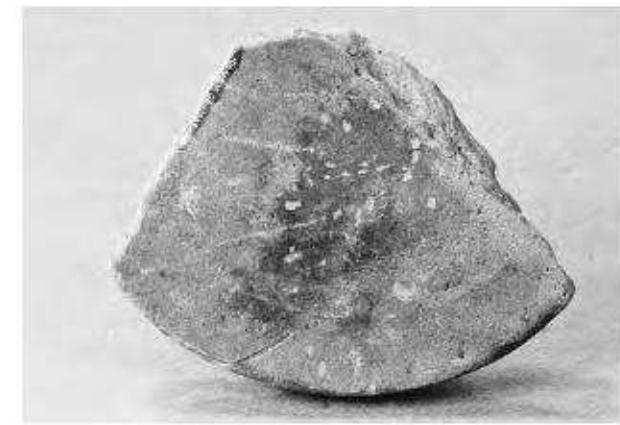


写真878 415-2



写真871 412-1



写真872 412-2



写真879 416-1



写真880 416-2



写真873 413-1



写真874 413-2



写真881 417-1



写真882 417-2



写真883 418-1



写真884 418-2

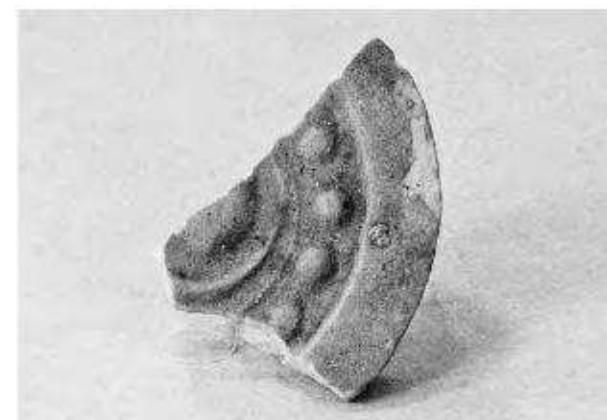


写真891 422-1



写真892 422-2



写真885 419-1



写真886 419-2



写真893 423-1



写真894 423-2

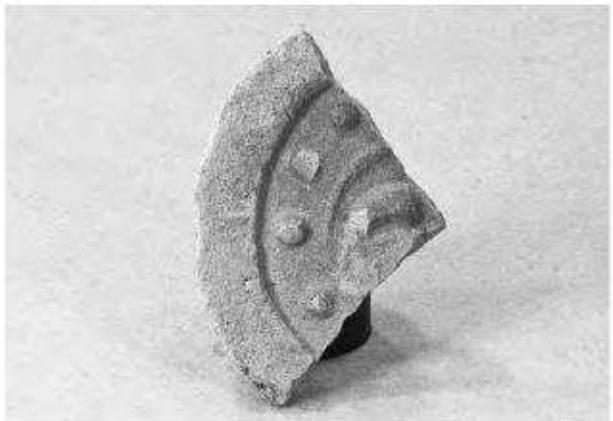


写真887 420-1



写真888 420-2



写真895 424-1



写真896 424-2



写真889 421-1



写真890 421-2



写真897 425-1



写真898 425-2



写真899 426-1



写真900 426-2



写真907 431-1



写真908 432-1



写真901 427-1



写真902 427-2



写真909 432-2



写真910 432-3



写真903 428-1



写真904 428-2



写真911 433-1



写真912 433-2



写真905 429-1



写真906 430-1



写真913 434-1



写真914 434-2



写真915 434-3



写真916 434-4



写真923 436-1



写真924 436-2



写真917 434-5



写真918 435-1



写真925 436-3



写真926 436-4



写真919 435-2



写真920 435-3



写真927 436-5



写真928 437-1

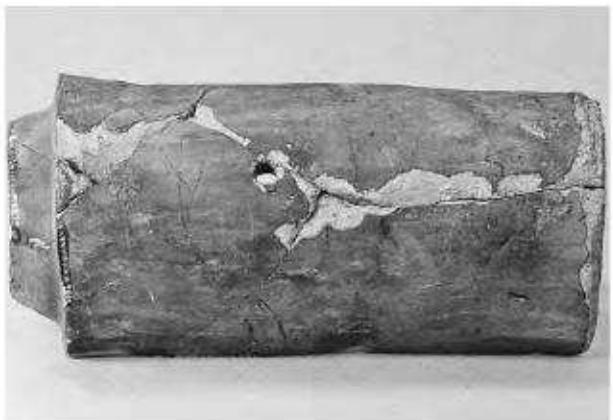


写真921 435-4



写真922 435-5



写真929 437-2

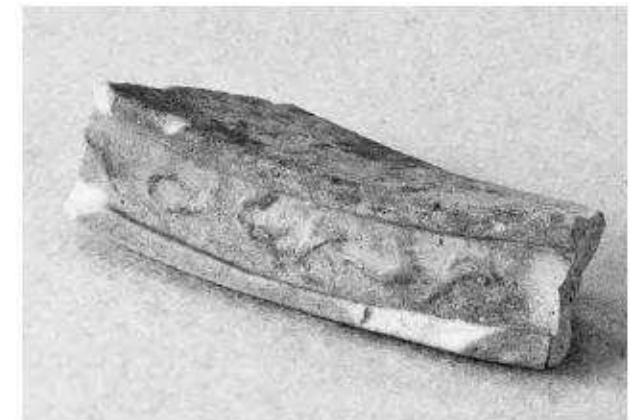


写真930 438-1

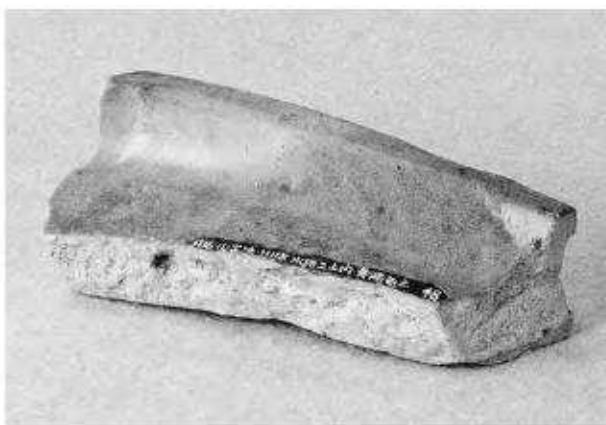


写真931 438-2



写真932 439-1



写真939 442-2



写真940 443-1



写真933 439-2



写真934 440-1



写真941 443-2



写真942 444-1

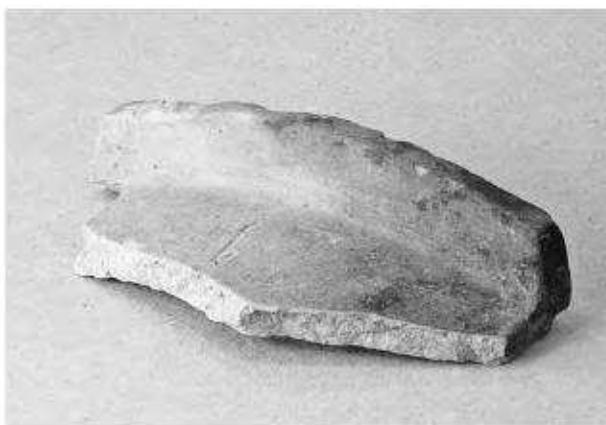


写真935 440-2



写真936 441-1



写真943 444-2



写真944 445-1



写真937 441-2

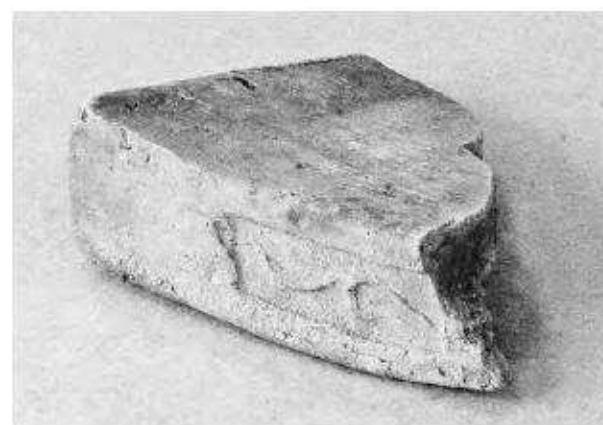


写真938 442-1



写真945 445-2



写真946 446-1



写真947 446-2



写真948 447-1



写真955 450-1



写真956 450-2



写真949 447-2



写真950 448-1

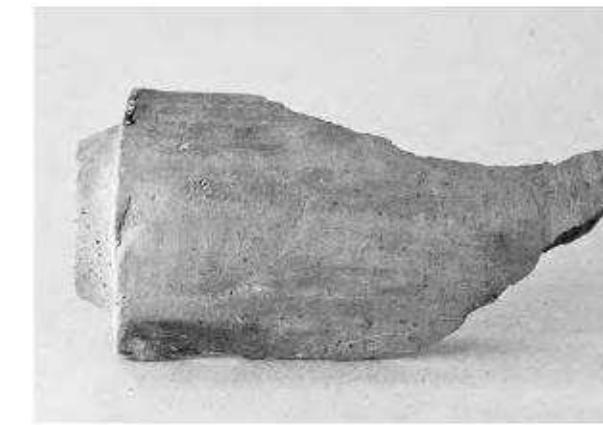


写真957 450-3



写真958 450-4

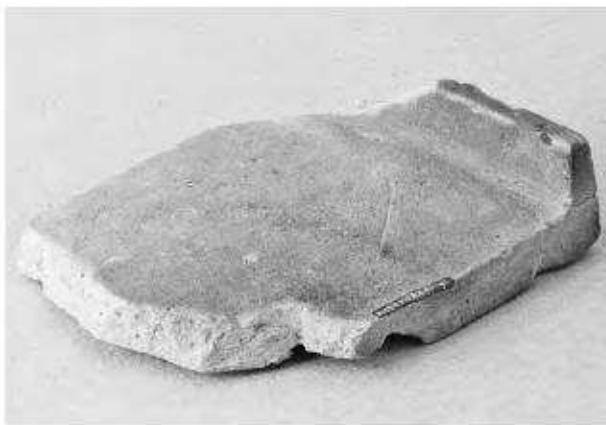


写真951 448-2

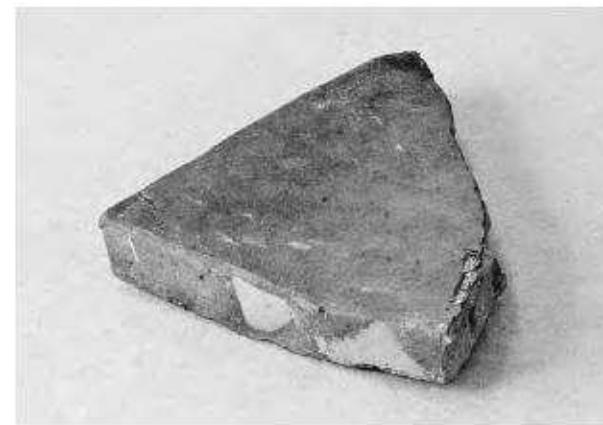


写真952 449-1



写真959 451-1



写真960 451-2

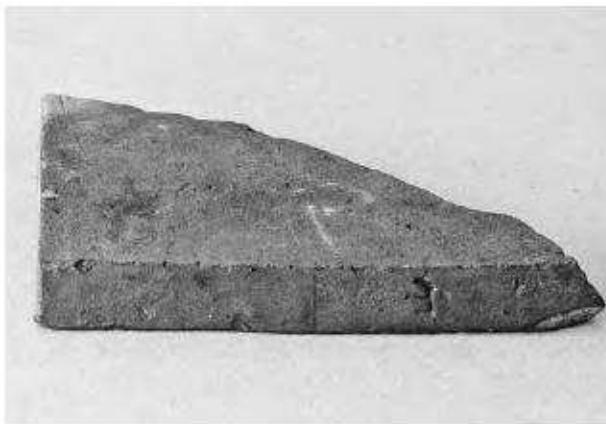


写真953 449-2



写真954 449-3

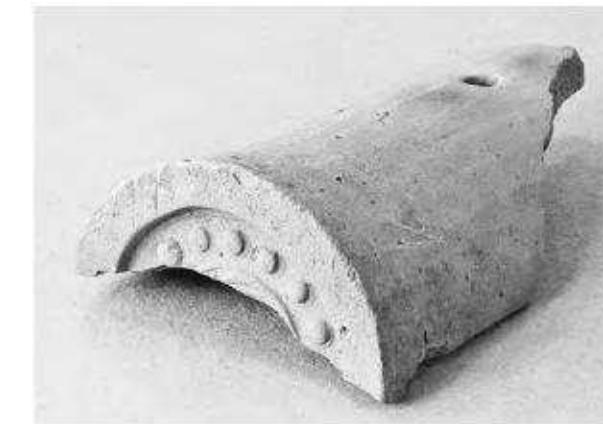


写真961 452-1



写真962 452-2



写真963 453-1



写真964 453-2



写真971 457-1



写真972 457-2



写真965 454-1



写真966 454-2



写真973 458-1

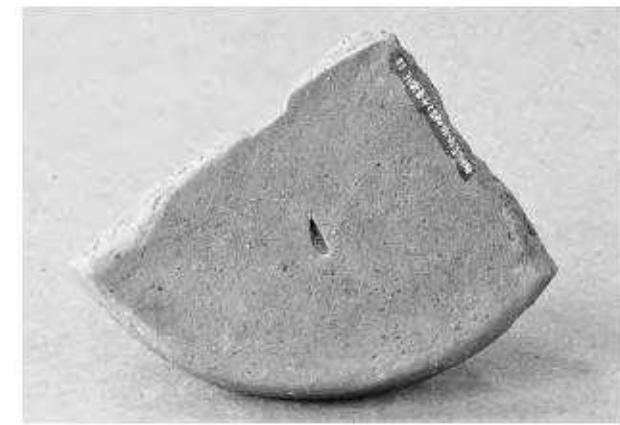


写真974 458-2



写真967 455-1



写真968 455-2



写真975 459-1



写真976 459-2



写真969 456-1



写真970 456-2



写真977 460-1



写真978 460-2



写真979 461-1

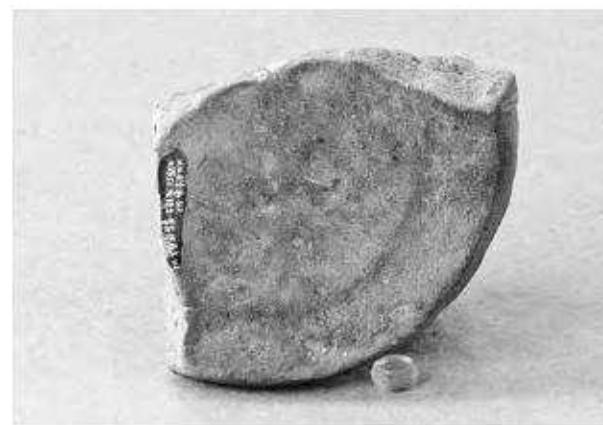


写真980 461-2



写真987 464-3



写真988 464-4



写真981 462-1



写真982 462-2



写真989 465-1



写真990 465-2



写真983 463-1



写真984 463-2



写真991 466-1



写真992 466-2



写真985 464-1



写真986 464-2



写真993 467-1

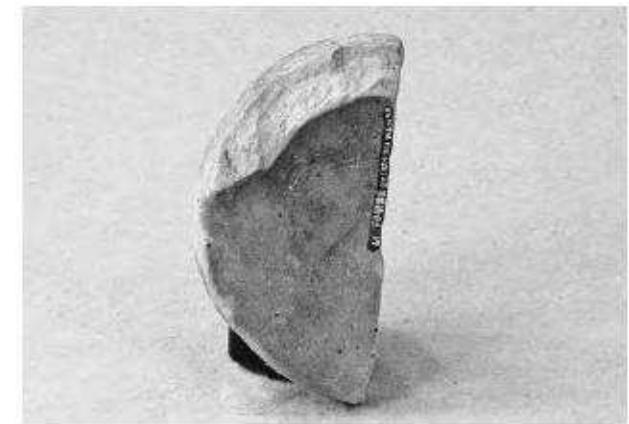


写真994 467-2



写真995 468-1



写真996 468-2



写真1003 472-1



写真1004 472-2



写真997 469-1



写真998 469-2

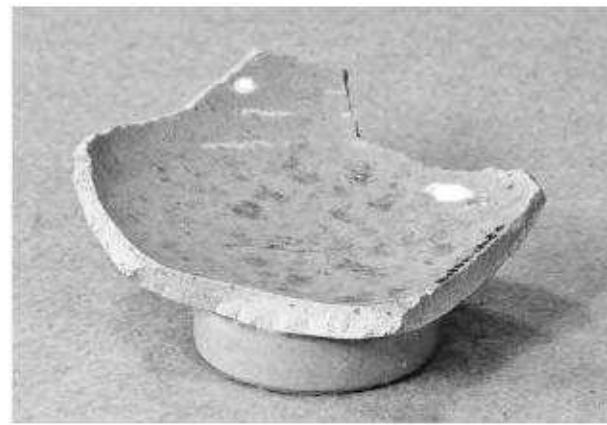


写真1005 473-1



写真1006 473-2



写真999 470-1



写真1000 470-2



写真1007 474-1



写真1008 474-2



写真1001 471-1



写真1002 471-2

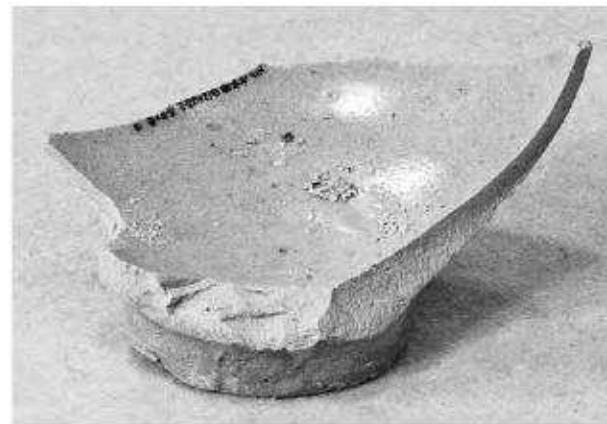


写真1009 475-1



写真1010 475-2



写真1011 476-1



写真1012 476-2



写真1019 479-1



写真1020 479-2



写真1013 477-1



写真1014 477-2

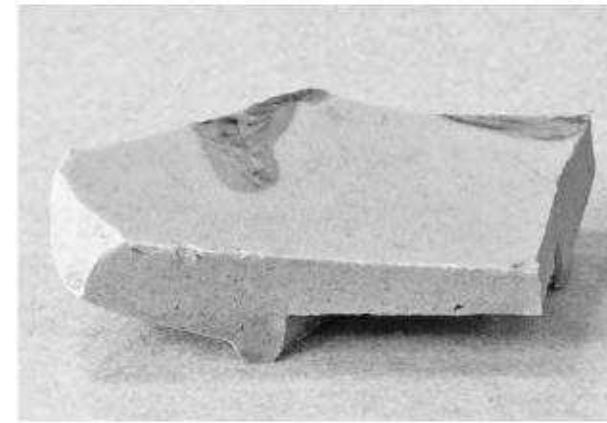


写真1021 480-1



写真1022 480-2



写真1015 478-1



写真1016 478-2

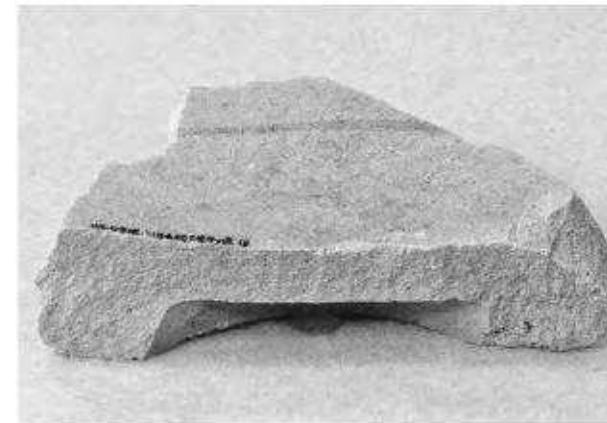


写真1023 481-1



写真1024 481-2



写真1017 478-3



写真1018 478-4

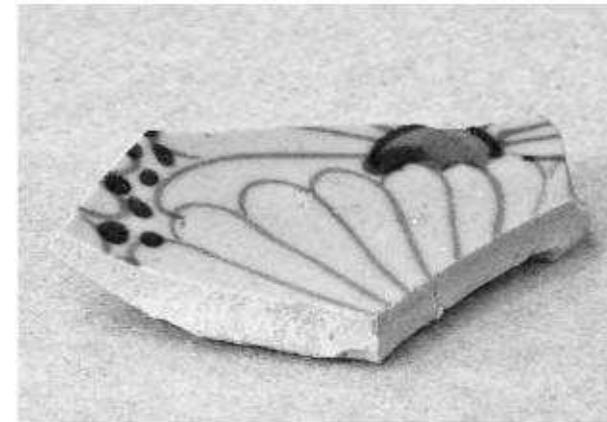


写真1025 482-1



写真1026 482-2

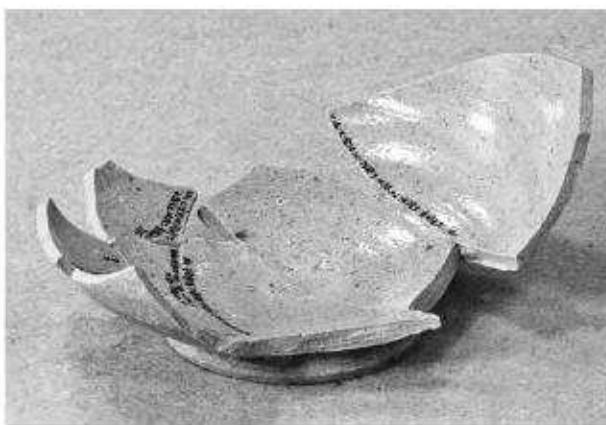


写真1027 483-1



写真1028 483-2



写真1035 487-1



写真1036 487-2

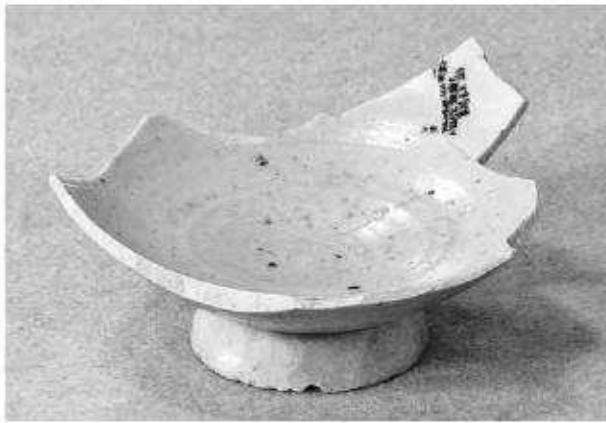


写真1029 484-1



写真1030 484-2



写真1037 488-1



写真1038 488-2



写真1031 485-1



写真1032 485-2

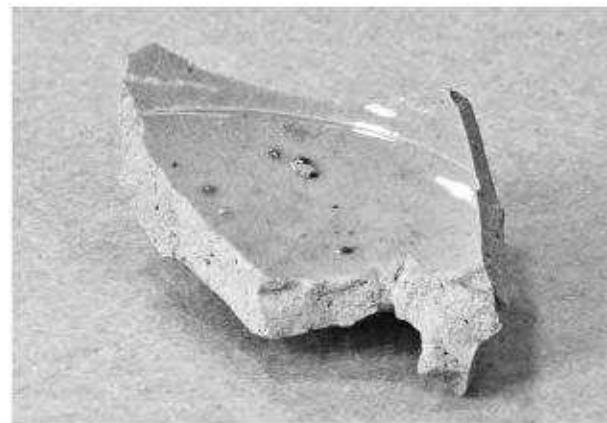


写真1039 489-1



写真1040 489-2



写真1033 486-1



写真1034 486-2

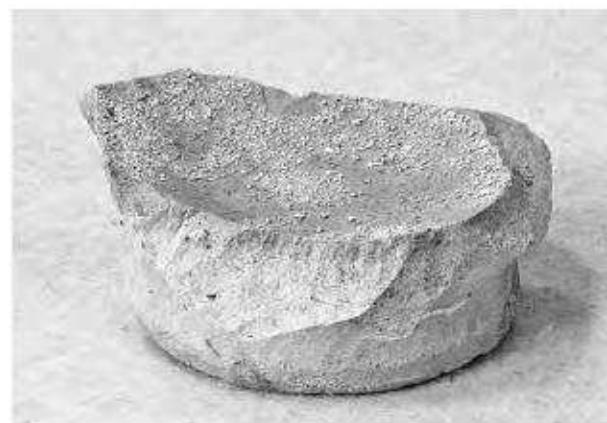


写真1041 490-1



写真1042 490-2



写真1043 491-1



写真1044 491-2



写真1051 495-1



写真1052 495-2

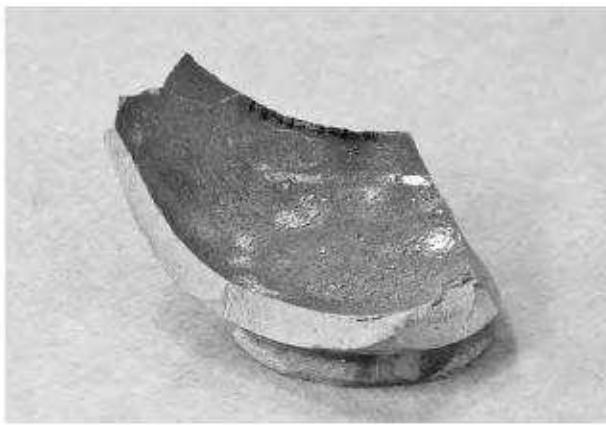


写真1045 492-1



写真1046 492-2



写真1053 496-1



写真1054 496-2



写真1047 493-1



写真1048 493-2



写真1055 497-1



写真1056 497-2

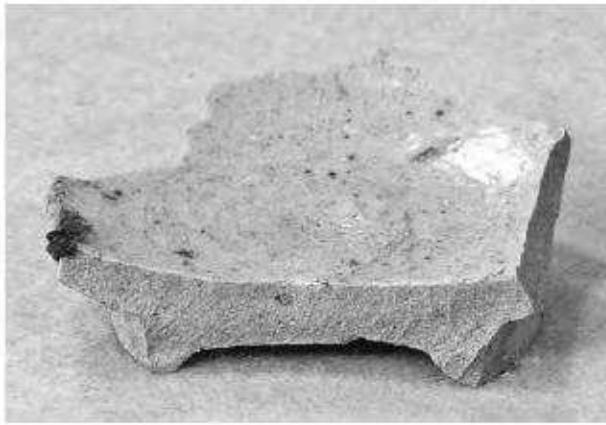


写真1049 494-1



写真1050 494-2



写真1057 498-1



写真1058 498-2



写真1059 499-1



写真1060 499-2



写真1067 503-1



写真1068 503-2

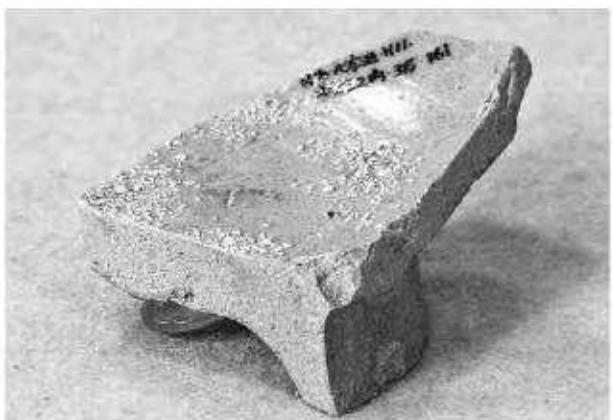


写真1061 500-1



写真1062 500-2



写真1069 504-1

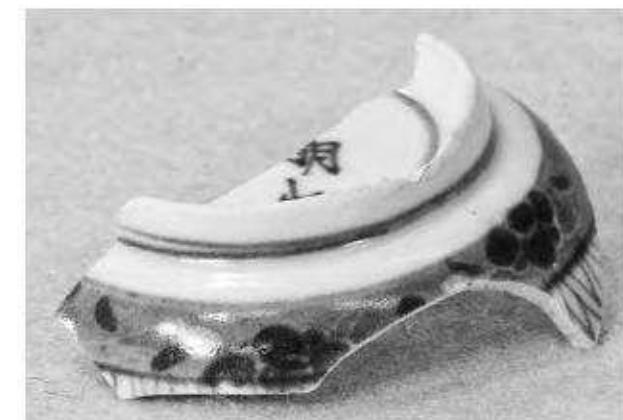


写真1070 504-2

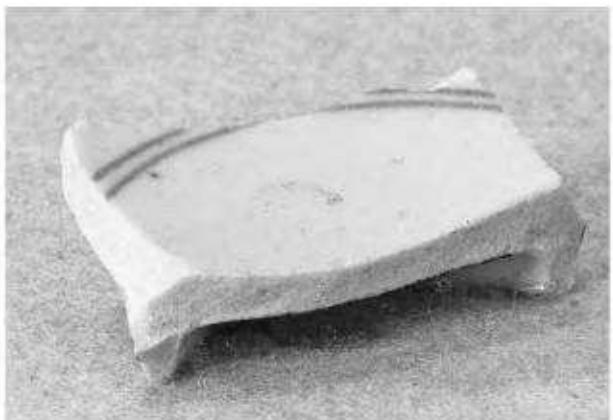


写真1063 501-1



写真1064 501-2



写真1071 504-3

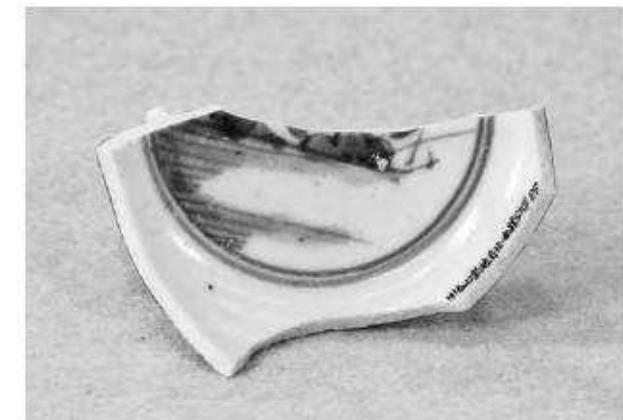


写真1072 504-4



写真1065 502-1



写真1066 502-2

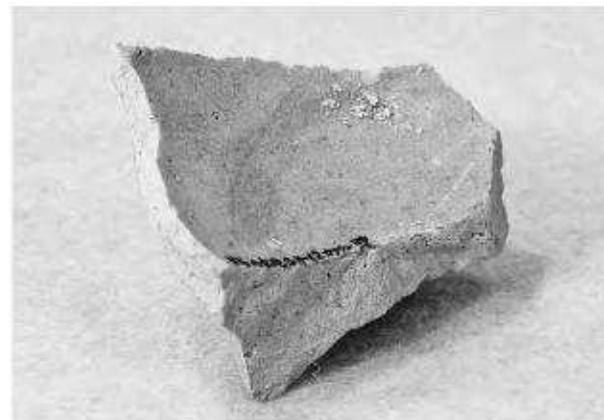


写真1073 505-1



写真1074 505-2



写真1075 506-1



写真1076 506-2



写真1083 510-1



写真1084 510-2



写真1077 507-1

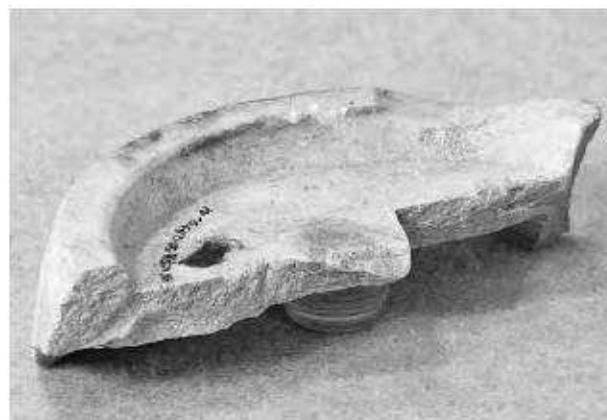


写真1078 507-2

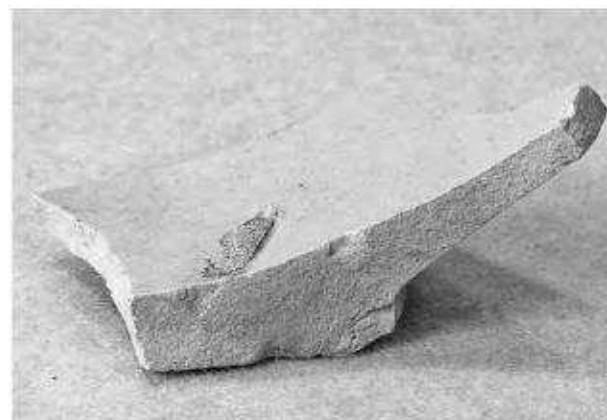


写真1085 511-1

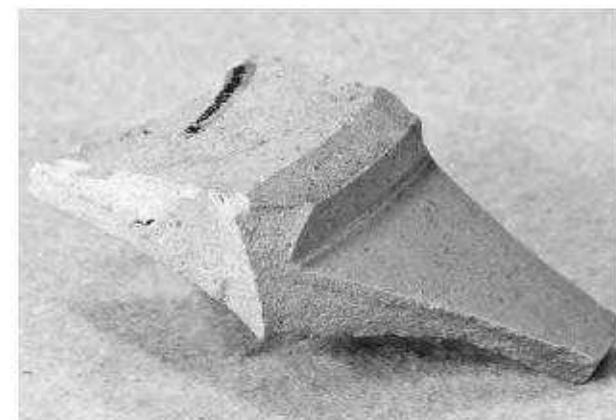


写真1086 511-2



写真1079 508-1



写真1080 508-2

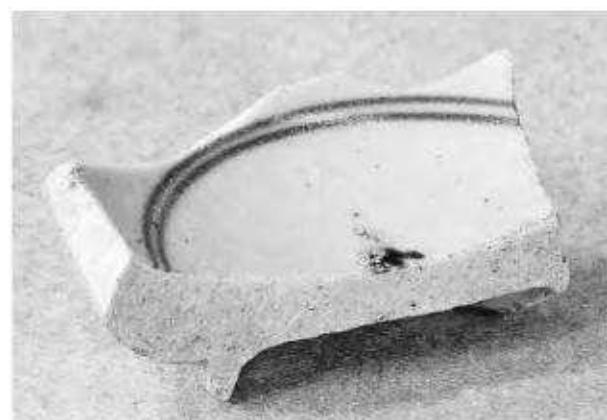


写真1087 512-1



写真1088 512-2



写真1081 509-1



写真1082 509-2



写真1089 513-1



写真1090 513-2



写真1091 514-1



写真1092 514-2



写真1099 518-1



写真1100 518-2



写真1093 515-1

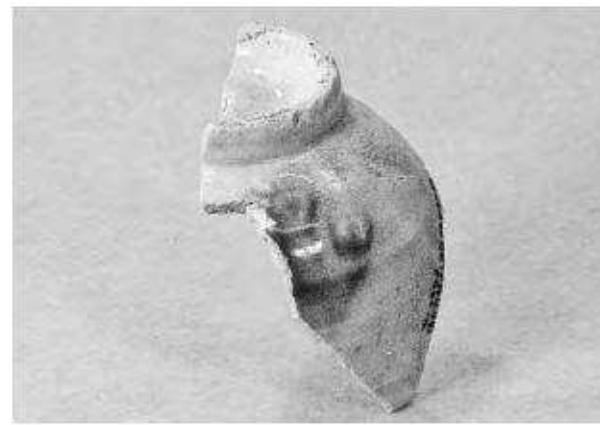


写真1094 515-2

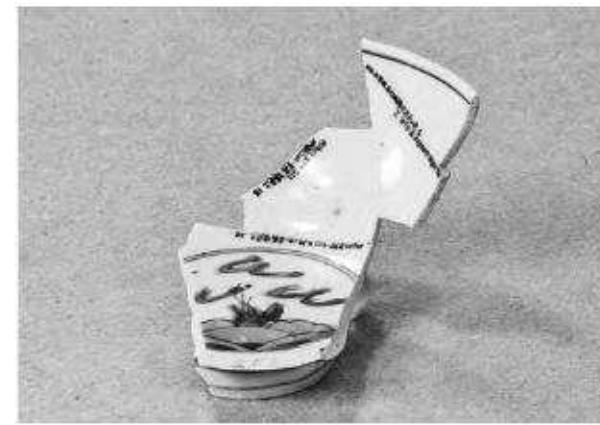


写真1101 519-1



写真1102 519-2

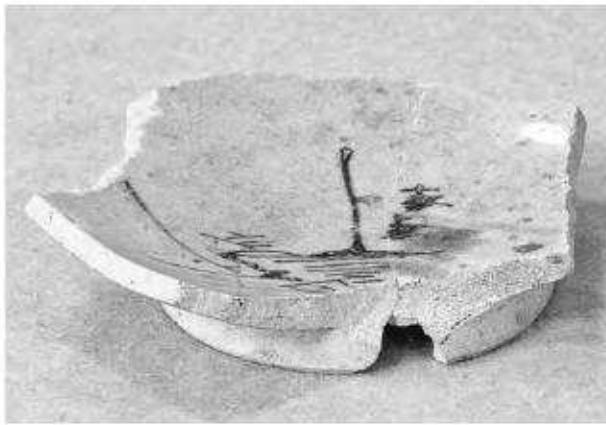


写真1095 516-1

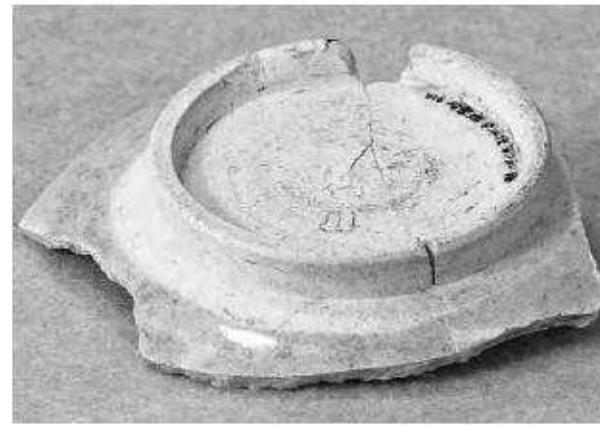


写真1096 516-2



写真1103 519-3



写真1104 519-4

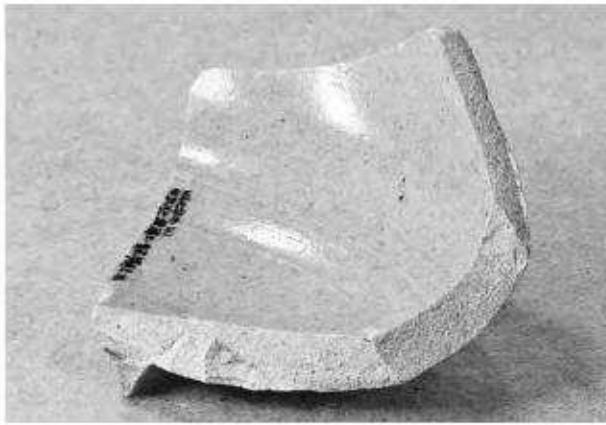


写真1097 517-1



写真1098 517-2



写真1105 520-1



写真1106 520-2



写真1107 521-1



写真1108 521-2



写真1115 525-1

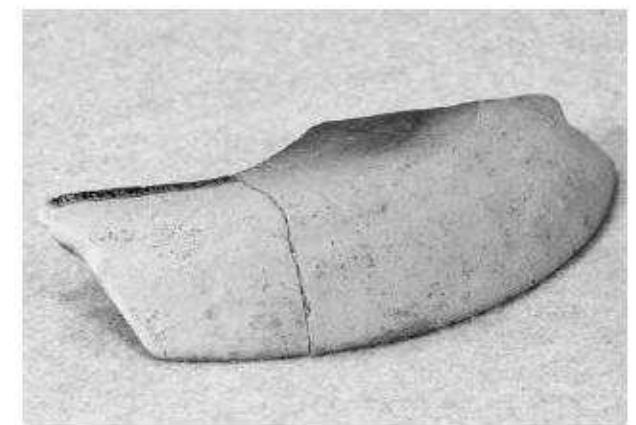


写真1116 525-2

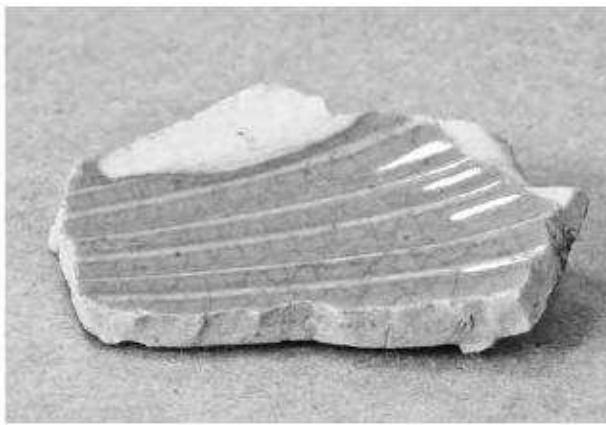


写真1109 522-1



写真1110 522-2

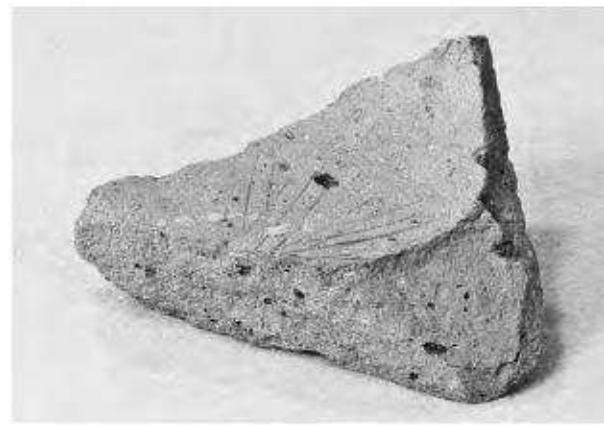


写真1117 526-1



写真1118 526-2

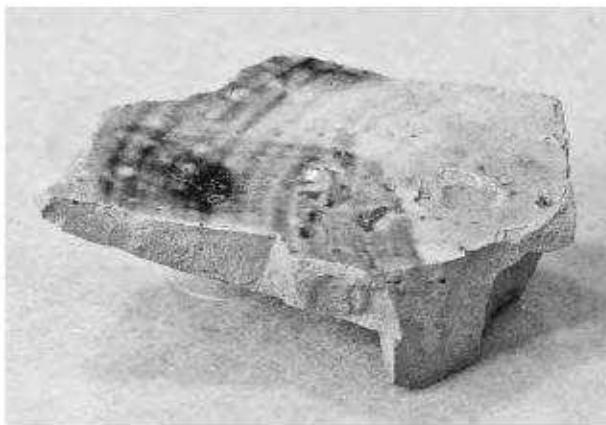


写真1111 523-1

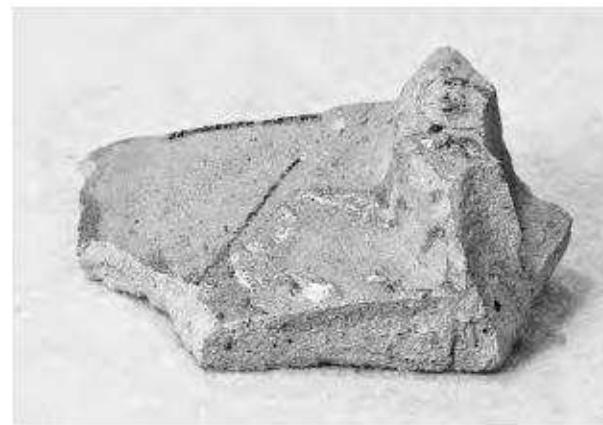


写真1112 523-2

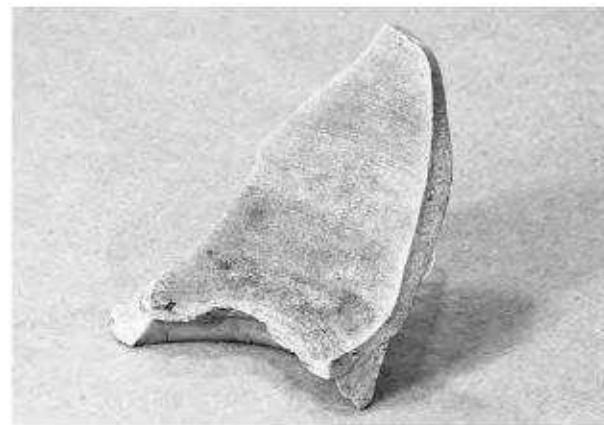


写真1119 527-1



写真1120 527-2



写真1113 524-1



写真1114 524-2



写真1121 528-1



写真1122 528-2



写真1123 529-1



写真1124 529-2



写真1131 533-1



写真1132 533-2



写真1125 530-1

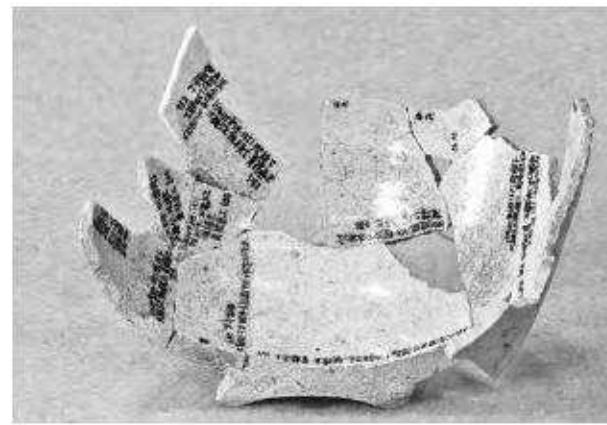


写真1126 530-2

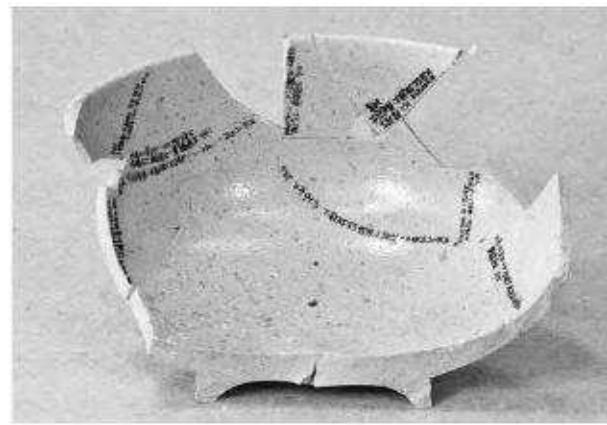


写真1133 534-1

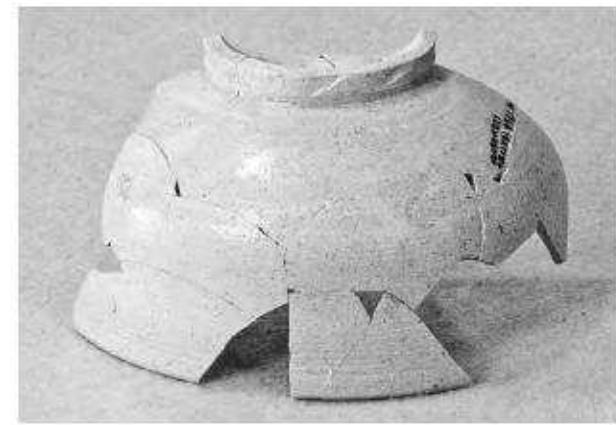


写真1134 534-2



写真1127 531-1



写真1128 531-2



写真1135 535-1



写真1136 535-2

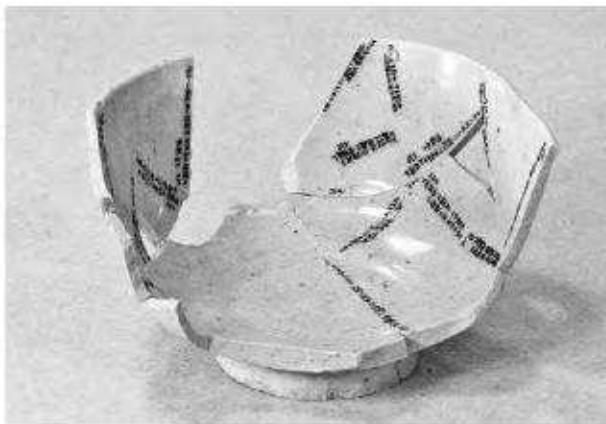


写真1129 532-1

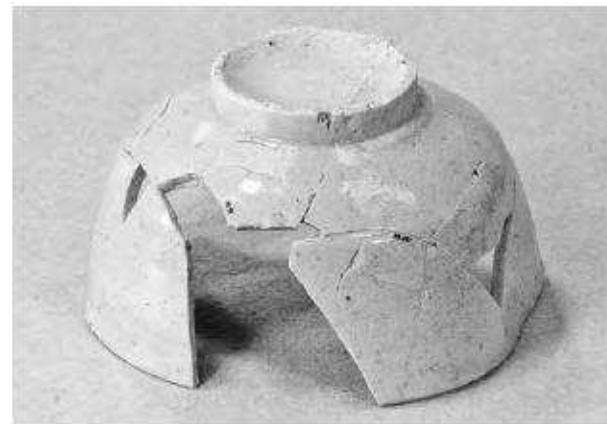


写真1130 532-2



写真1137 536-1

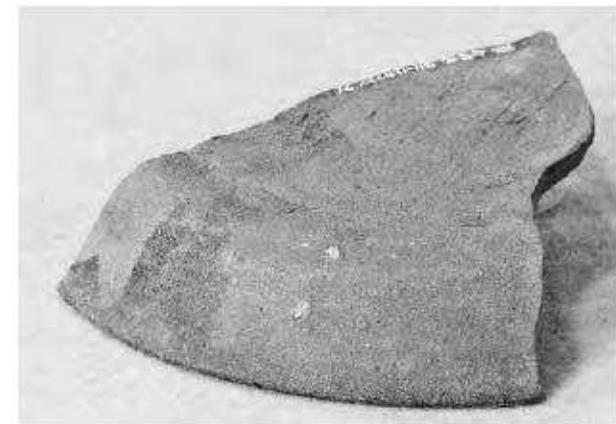


写真1138 536-2



写真1139 537-1

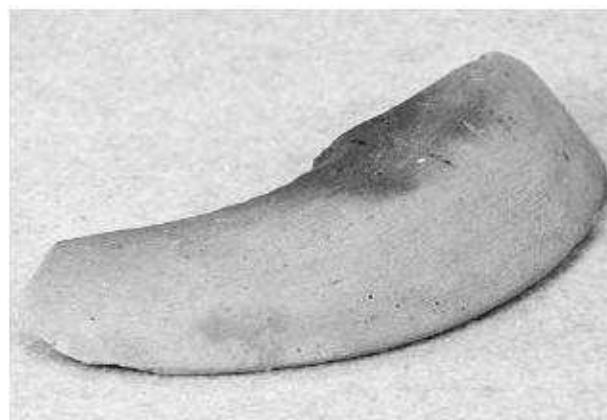


写真1140 537-2



写真1147 541-1

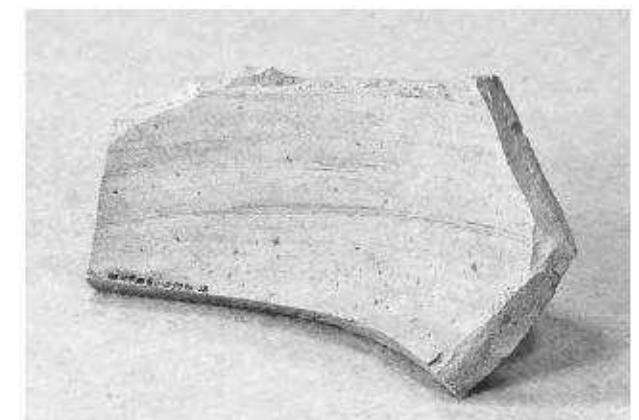


写真1148 541-2



写真1141 538-1



写真1142 538-2



写真1149 542-1



写真1150 542-2

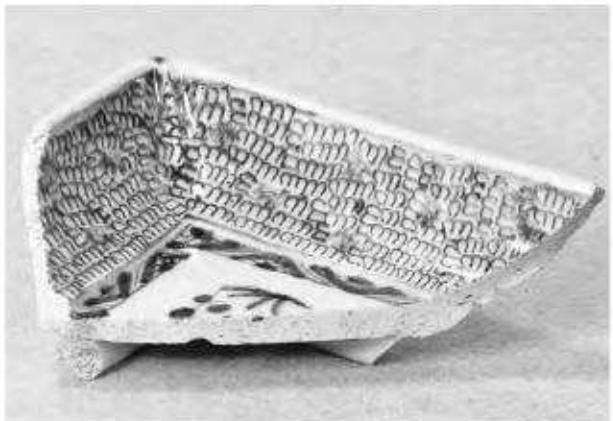


写真1143 539-1

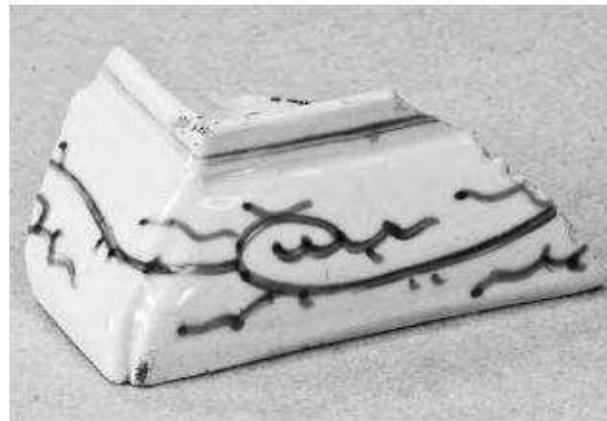


写真1144 539-2



写真1151 543-1



写真1152 543-2



写真1145 540-1

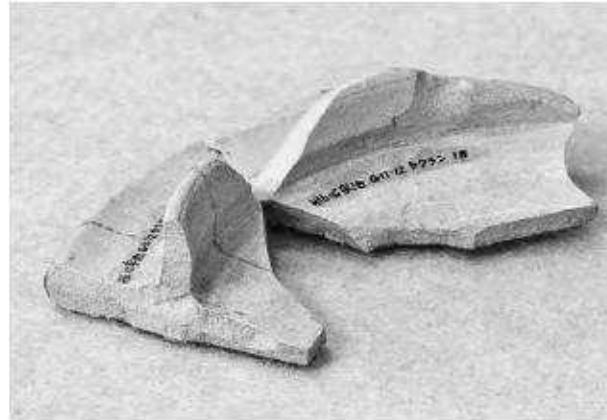


写真1146 540-2

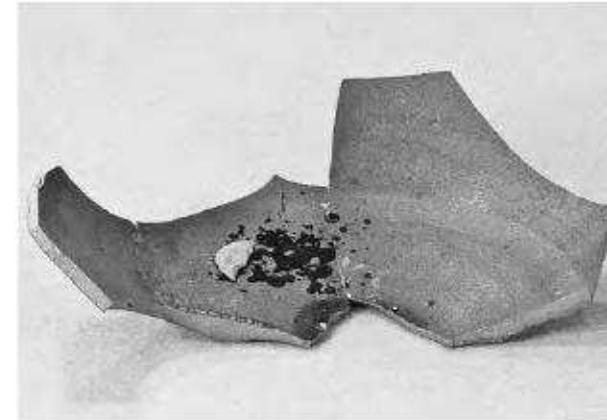


写真1153 544-1

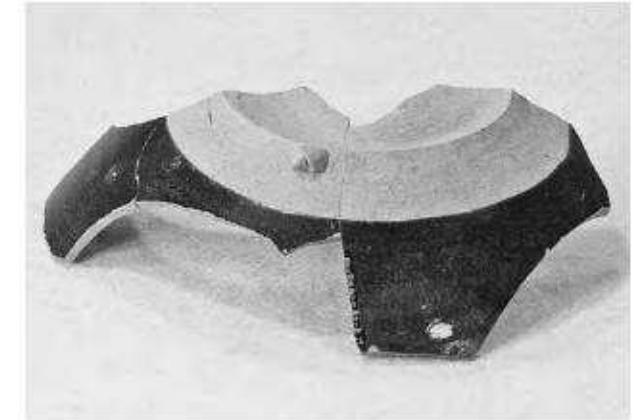


写真1154 544-2

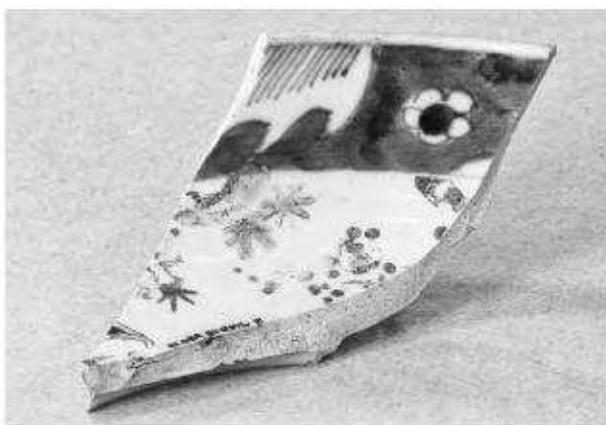


写真1155 545-1



写真1156 545-2



写真1163 549-1



写真1164 549-2



写真1157 546-1



写真1158 546-2



写真1165 550-1



写真1166 550-2



写真1159 547-1



写真1160 547-2



写真1167 551-1



写真1168 551-2



写真1161 548-1



写真1162 548-2



写真1169 552-1



写真1170 552-2



写真1171 553-1



写真1172 553-2



写真1173 554-1



写真1174 554-2

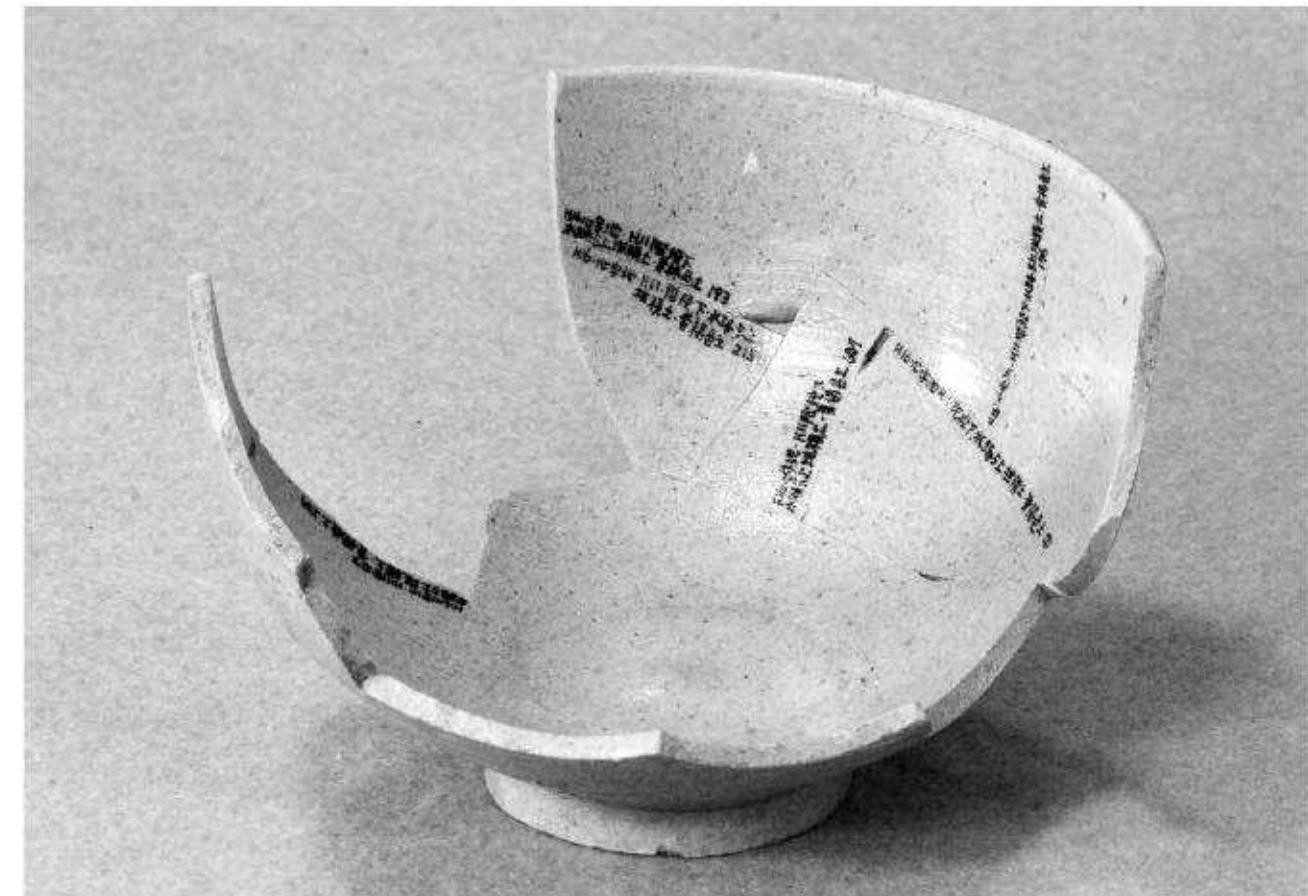


写真1179 557-1



写真1175 555-1



写真1176 555-2

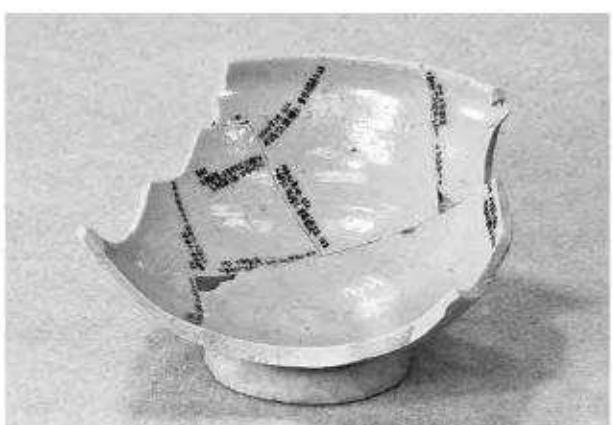


写真1177 556-1



写真1178 556-2



写真1180 557-2

報告書抄録

ふりがな	きゅうかねいしじょうていえん							
書名	旧金石城庭園							
副書名	金石城跡保存整備事業に伴う範囲確認調査報告書（遺物写真編）							
卷次								
シリーズ名	対馬市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第10集							
編著者名	尾上 博一							
編集機関	対馬市教育委員会							
所在地	〒817-0322 長崎県対馬市美津島町雞知甲1287番地1 電話0920-54-2341							
発行年月日	西暦2016年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °°'	東経 °°'	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	整備原因
		市町村	遺跡番号					
旧金石城 庭園	長崎県対馬市今原敷石 城今字	42441		34°12'16" ( 34°12'14"	129°17'5" ( 129°17'8"	1997/9/18 ( 2005/3/7	4,983.00	史跡整備
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
旧金石城 庭園	庭園	江戸時代	園池 水路 石垣 景石 井戸	瓦 陶器 磁器				名勝

対馬市文化財調査報告書 第10集

## 旧金石城庭園

金石城跡保存整備事業に伴う範囲確認調査報告書(遺物写真編)

2016年3月31日

編集・発行 対馬市教育委員会

〒817-0322 長崎県対馬市美津島町難知甲1287番地1  
Tel 0920-54-2341 Fax 0920-54-4046

印 刷 株式会社 昭和堂

〒854-0036 長崎県諫早市長野町1007-2  
Tel 0957-22-6000 Fax 0957-27-0003